

平成28年度

# 大分大学 医学部 概要

医学部附属病院

OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE AND OITA UNIVERSITY HOSPITAL  
GENERAL PROSPECTUS 2016

# 2016





正門



グラウンドを望む桜



医学部祭



慰霊祭



オープンキャンパス



心の池



看護学科棟クリスマス飾り

## 目次

# Contents

理念	2
Principle	
ご挨拶	3
Greeting	
沿革	5
History	
組織図	10
Organization	
役職員等	12
Administrative Officers	
教職員等	15
Number of Staff	
外部資金等	15
External Funds Etc.	
医学部	16
Faculty of Medicine	
講座	18
Department	
附属センター	46
Included Center	
学生数等	50
Student Statistics	
医学系研究科	53
Graduate School Of Medicine	
博士課程	53
Doctor's Degree Program	
修士課程	61
Master's Degree Program	
学生数等	62
Student Statistics	
国際交流	63
International Exchange Programs	
関連教育病院	65
Affiliated Teaching Hospital	
附属病院	66
University Hospital	
診療科	67
Clinical Departments	
中央診療施設等	79
Central Clinical Facilities	
診療実績	94
Clinical Statistics	
関連施設	98
Affiliated Facilities	
全学研究推進機構	98
Research Promotion Office	
学術情報拠点 (医学図書館)	101
Center for Academic Information & Library services (Medical Library)	
学術情報拠点 (医学情報センター)	104
Center for Academic Information & Library services (Medical Information Center)	
保健管理センター 挟間健康相談室	105
Hasama Division, Health Support Center	
大分大学挟間キャンパス案内図	106
Campus Map	
位置図・施設所在地	108
Location, Mailing Address, and Telephone Number	



# 理 念

PRINCIPLE



本学部は、最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身に付けた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

This faculty is poised towards education and academic research, as well as the nurturing of medical staff and researchers with a high level of knowledge and skills regarding medicine and nursing, not to mention a strong sense of ethics. We aim to contribute to the advancement of medical and nursing studies, the improvement of national healthcare and of welfare focused on treatment and health in both the local and international arenas.

With the vision of providing the best medical treatment bearing each patient's individual condition in mind, our mission is to contribute to the improvement of medical treatment and welfare through the development and provision of advanced medical treatment, and the nurturing of ethical medical staff.



大分大学医学部長  
Dean of Oita University Faculty of Medicine

守山正胤  
Masatsugu Moriyama

大分大学医学部の前身である大分医科大学は、最後の新設医科大学として昭和51年に開学され、今年（平成28年）で開学41年目を迎えます。平成6年には看護学科が設置され、本年に至るまでに、3,123名の医学士、1,263名の看護学士を輩出してきました。また、平成15年に旧大分大学と統合し、大分大学医学部となりました。

大分は歴史的に医学と非常に縁の深い地です。16世紀半ばに豊後の覇者であった大友宗麟は、1551年に聖フランシスコザビエルを大分に招き、キリスト教の布教が行われましたが、その6年後の1557年には日本最初の西洋式病院が建てられ、ポルトガル人医師のアルメイダが日本で最初の西洋式外科手術を実施しました。さらに当地では、日本人に西洋医学教育が行われました。つまり、大分は、我が国における西洋医学の出発点であるといえます。

このような医学の歴史と深いゆかりを持つ大分の地に設立された大分大学医学部のミッションは、まず質の高い医療人を育成して大分県民の命と健康を守ることです。県内の医療機関に絶えず医師、看護師を供給し、医師不足による医療過疎が増えることに対する県民の心配を払拭して常に質の高い医療を提供することが重要です。しかし一方で、そのミッションは大分大学医学部が地域の医療過疎地解消のためだけの地域医療人を育成することを意味しません。医師・看護師のキャリアパスは非常に多彩であり、また同時に、大分大学医学部に入学してくる志あふれる学生諸君の才能と能力も非常に多彩です。大分大学医学部は、このような学生諸君のすべての可能性を育むことを大切に考えており、すべてのキャリアパスへ対応できるように支援します。具体的には、医学科では、1) 地域医療を担う開業医や診療所で勤務する医師を育成することはもちろんですが、2) 県内各地の中核病院において大黒柱として活躍する医師、3) それらの病院の運営を任される統率力のある医師、4) 大学に残り世界最先端の医療を実践する臨床医、5) 疾病の発症と進展のメカニズムを解明し基礎医学の発展に貢献する研究医など、学生諸君の多彩な才能をのばし、存分に活躍できるキャリアパスを保証します。また、看護学科では、非常にきめの細かいマンツーマンの学生指導を徹底することを教育ポリシーとしており、現場力のある非常に実践力の高い看護師と保健師を育成しています。九州内の国立大学で看護師教育と保健師教育を区別しない統合カリキュラムを採用しているのは大分大学だけです。この統合カリキュラムにより看護学科に入学したすべての学生が看護師国家試験と保健師国家試験の2つの受験資格を得ています。大学院では看護実践コースと看護管理・教育コースを設置して、患者及び家族のみならず地域住民への看護を担う看護師・保健師の育成（看護実践コース）と医療機関の看護組織のリーダー（管理職）の育成、もしくは、看護師養成教育機関における指導者の育成（看護管理・教育コース）を図っています。また、看護実践コースにがん看護専門看護師のコースを設置して、がん看護に特化した専門看護師を育成しています。国際交流では、平成25年9月に学術協定を締結したことを受けて、平成26年以降フィリピン共和国サント・トマス大学より看護学部生10数名および指導教員を1週間受け入れて、附属病院と介護老人保健施設等での研修とともに学生のクラブ活動（茶道、弓道を中心に）にも参加していただき看護学科学生との交流を行っています。

私たち大分大学医学部の教員は、西洋医学との縁の深い大分にある大学として、大分県民の命と健康を守る担い手としての自覚と誇りを持ち、本学へ入学してくる多彩な才能あふれる学生諸君がすべての可能性にチャレンジし、それを達成できるように全力で支援します。



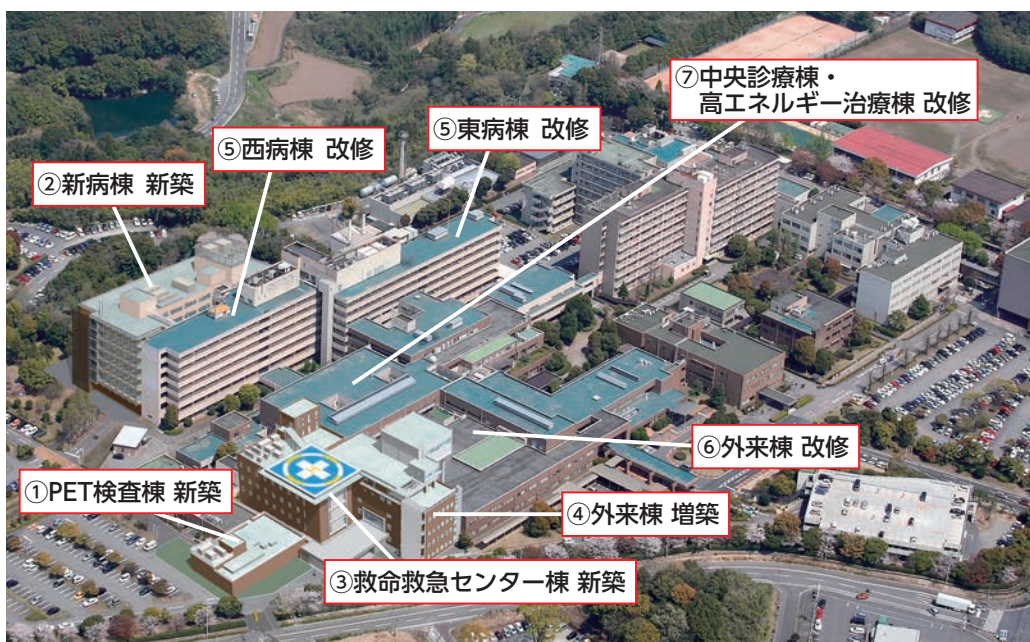
大分大学医学部附属病院長  
Director of Oita University Hospital

津村 弘  
Hiroshi Tsumura

大分大学医学部は、昭和51年に大分医科大学として開学が認可され、昭和53年4月に第1期生が入学しました。附属病院は、昭和56年10月1日に開院し、医学生の教育だけでなく、地域医療にも大きく貢献してきました。開院当初は、321床であったのですが、現在は高度救命救急センターの24床を加えて、618床の県内最大の病院となっています。

その折々で、最新の医療機器を設置し、先端的医療に役立ててきましたが、建物は30年を過ぎて老朽化や時代のニーズに対応できない部分が顕在化してきました。そのため、平成22年より再整備事業に取り組んでいます。PET棟、高度救命救急センター棟、新病棟は、新たに建築し、東病棟や内視鏡部・薬剤部の改築は終了し、すでに動き始めています。現在、西病棟、外来、検査部、手術部の改築を同時に行っています。最終的には、延べ床面積は大きく拡充されるのですが、西病棟がまだ使用できないため、たいへん手狭になり、新病棟へのアクセスも不自由になっています。また、外来も診療科の場所が移動していますので、適宜、案内係を配置しています。全ての再整備が完了するには、あと1年半ほど必要ですが、完成後の姿に期待していただきたいと思えます。

本院は、県人口116万人の地方都市にありながら、医療統計上、他の国立大学附属病院の後塵を拝していることはありません。例えば、手術件数は全国42国立大学附属病院中23位で、行われている手術も全国平均より高度な手術がなされていることが分かっています。しかし、一方で、深刻さが増大している若手医師の絶対数の不足の問題や新しい地域医療の考え方である地域包括ケアシステムへの対応など、改善したい課題も多く、ワーキンググループや委員会で検討を進めています。大分県内唯一の医育機関として、最先端の医療を安全に提供できる特定機能病院として、今後も進化し続けたいと思っております。皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。



再整備後の医学部附属病院の姿

大分大学医学部は、昭和46年に文部省が発表した全国的な医師不足と無医大県解消のための医師増員計画に基づいて大分医科大学が設置され、平成15年10月大分大学との統合により大分大学医学部となった。

現在までの主な沿革は、次のとおりである。

Oita University Faculty of Medicine was founded in 1971, response to the Ministry of Education, Culture, Science's plan to deal with a nationwide shortage of doctors, and to ensure the presence of a medical university in every prefecture. In October 2003, it merged with Oita University to become the Oita University Faculty of Medicine.

The main developments to date are as follows.

昭和49年 8月1日 Aug. 1, 1974	大分大学に国立医学教育機関創設準備室を設置 The Planning Office for the Establishment of a National Medical School was set up at Oita University.
昭和51年 5月8日 May. 8, 1976	国立医学教育機関創設準備室を大分大学大分医科大学創設準備室に改称 The above was renamed the Planning Office for the Establishment of Oita University Oita Medical University.
10月1日 Oct. 1, 1976	大分医科大学開学 Oita Medical University established.
昭和53年 3月3・4日 Mar. 3.4, 1978	第1回入学者選抜試験実施 First Entrance Examinations administered.
4月12日 Apr. 12, 1978	第1回入学式挙行 First University entrance ceremony.
6月1日 Jun. 1, 1978	開学記念式典挙行 University Inauguration ceremony.
	附属図書館開館 University Library Opened.
昭和54年 4月1日 Apr. 1, 1979	附属病院創設準備室を設置 The Planning Office for the Creation of a University Hospital established.



大分医科大学開学当時の航空写真 Aerial Shot of the School at the Time of Founding

昭和56年 3月19日 Mar. 19, 1981	第1回解剖体慰霊祭, 慰霊碑除幕式举行 First memorial service for dissected bodies and unveiling of the monument.
4月1日 Apr. 1, 1981	医学部附属病院を設置 (附属病院創設準備室廃止) University Hospital established.
10月1日 Oct. 1, 1981	医学部附属病院開院 (321床) University Hospital opened. (321 beds)
10月19日 Oct. 19, 1981	医学部附属病院診療開始 Clinical practice in the University Hospital started.
昭和57年11月1日 Nov. 25, 1982	医学部附属病院 病床の増床 (計445床) Number of beds reached 445.
昭和58年 5月1日 May. 1, 1983	医学部附属病院 病床の増床 (計604床) Number of beds reached 604.
昭和59年 3月24日 Mar. 24, 1984	第1回卒業式举行 First graduation ceremony.
4月12日 Apr. 12, 1984	大学院医学研究科 (博士課程) 設置 Graduate School (Doctor's Course) established.
4月28日 Apr. 28, 1984	第1回大学院入学式举行 First Graduate School entrance ceremony.
昭和60年 4月22日 Apr. 22, 1985	実験動物慰霊碑除幕式举行 Unveiling ceremony of the cenotaph for animals sacrificed.
昭和62年 4月1日 Apr. 1, 1987	医学部附属実験実習機器センター設置 Research Laboratory Center established.
昭和63年 3月18日 Mar. 18, 1988	第1回学位記授与式举行 First graduation ceremony for Graduate School.
平成元年 6月28日 Jun. 28, 1989	医学部附属病院救急部設置 Emergency Center established.
平成2年 6月8日 Jun. 8, 1990	医学部附属動物実験施設設置 Laboratory Animal Research Center established.
平成4年 4月10日 Apr. 10, 1992	医学部附属病院集中治療部設置 Intensive Care Unit established.
平成5年 4月1日 Apr. 1, 1993	医学部附属病院輸血部設置 Blood Supply Center established.
平成6年 3月31日 Mar. 31, 1994	エイズ治療の中核拠点病院に指定 Designated as AIDS treatment core base hospital.
平成6年 4月1日 Apr. 1, 1994	医学部看護学科設置 School of Nursing established.
4月22日 Apr. 22, 1994	第1回医学部看護学科入学式举行 First entrance ceremony for School of Nursing.
平成6年11月1日 Nov. 1, 1994	医学部附属病院 特定機能病院の名称承認 The University Hospital received certification as a Special Functioning Hospital.
平成8年 4月1日 Apr. 1, 1996	保健管理センター設置 Health Care Center established.
平成10年 3月24日 Mar. 24, 1998	第1回医学部看護学科卒業式举行 First graduation ceremony for School of Nursing.

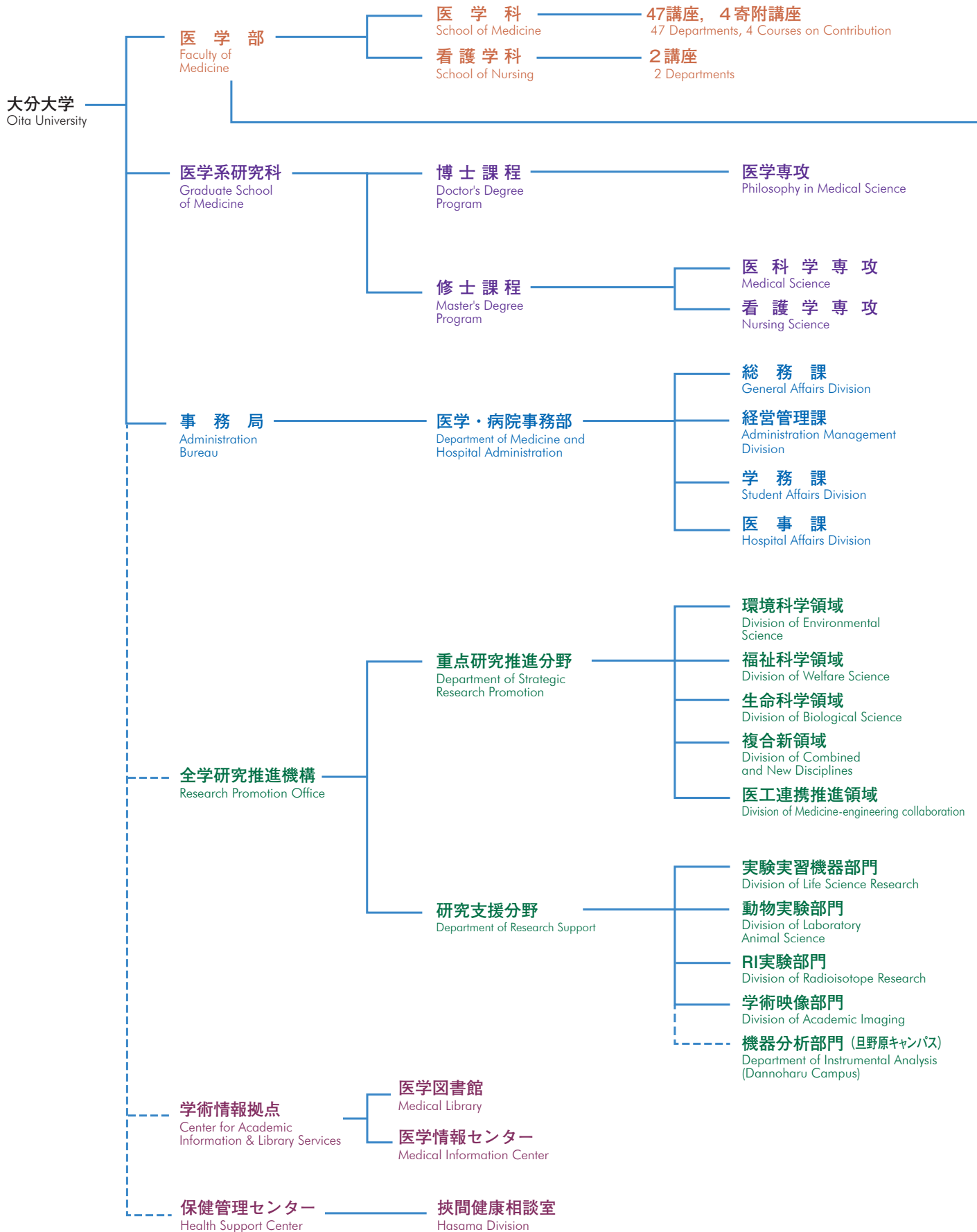


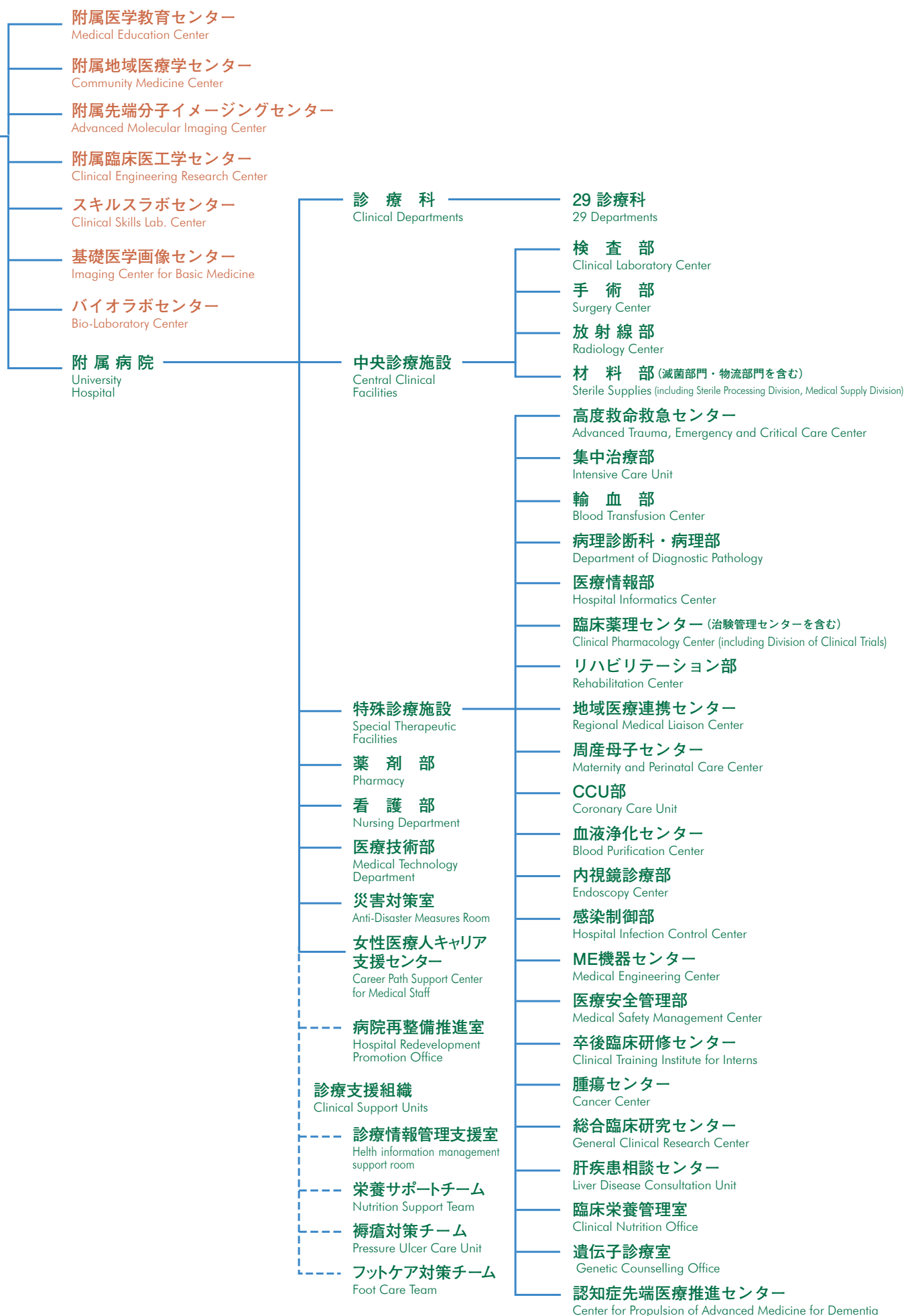
4月1日 Apr. 1, 1998	<p>大学院医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）設置 Master's degree program for School of Nursing established.</p> <p>医学部附属病院病理部設置 Pathology Center established.</p> <p>医学部附属病院内視鏡部設置 Endoscopy Center was established.</p>
4月22日 Apr. 22, 1998	<p>第1回看護学専攻（修士課程）入学式挙行 First entrance ceremony for Master's degree program for School of Nursing.</p>
10月3日 Oct. 3, 1998	<p>開学20周年記念式典挙行 The Twentieth Anniversary ceremony of the University.</p>
平成11年4月1日 Apr. 1, 1999	<p>医学部附属病院医療情報部設置 Hospital Informatics Center established.</p>
平成12年3月23日 Mar. 23, 2000	<p>第1回大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）学位記授与式挙行 First graduation ceremony for Master's degree program for School of Nursing.</p>
4月1日 Apr. 1, 2000	<p>医学部附属病院総合診療部設置 University Hospital General Medicine Center established.</p>
平成13年4月1日 Apr. 1, 2001	<p>医学部附属病院臨床薬理センター設置（治験管理センターを含む） Clinical Pharmacology Center established.(including Division of Clinical Trials.)</p> <p>医学部附属病院感染制御部設置 Hospital Infection Control Center was established.</p> <p>医学部附属病院ME機器センター設置 Medical Engineering Center was established.</p>
10月9日 Oct. 9, 2001	<p>第1回学士編入学式 First entrance ceremony for transfer students already holding a bachelor's degree.</p>
平成14年4月1日 Apr. 1, 2002	<p>医学科講座等を8大講座に改組 Reorganization of medical departments into 8 major departments.</p> <p>医学部附属病院リハビリテーション部設置 Rehabilitation Center established.</p> <p>医学部附属病院CCU部設置 Coronary Care Unit was established.</p> <p>医学部附属病院人工透析部設置 Artificial Dialysis Center was established.</p> <p>医学部附属病院医療安全管理部設置 Medical Safety Management Center was established.</p>
平成15年4月1日 Apr. 1, 2003	<p>医科学専攻（修士課程）設置 Master's degree program for School of Medical Science established.</p> <p>総合科学研究支援センター設置 Institute of Scientific Research established.</p> <p>医学部附属病院地域医療連携センター設置 Regional Medical Liaison Center established.</p> <p>医学部附属病院卒後臨床研修センター設置 Clinical Training Institute for Interns was established.</p> <p>医学部附属病院周産母子センター設置 Maternity and Perinatal Care Center was established.</p>

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| 平成15年10月1日<br>Oct. 1, 2003 | 大分大学と大分医科大学の統合により大分大学医学部となる<br>The Faculty of Medicine at Oita University was established upon the merger of Oita University and Oita Medical University.                       |
| 平成16年4月1日<br>Apr. 1, 2004  | 大分大学は国立大学法人となる<br>Oita University was incorporated as a national university.  |
| 8月23日<br>Aug. 23, 2004     | 医学部附属病院が日本医療機能評価機構の病院機能評価認定病院となる<br>The University Hospital became an authorized hospital of Japan Council for Quality Health Care.   |
| 平成17年4月1日<br>Apr. 1, 2005  | 医学部附属医学教育センター設置<br>The University Hospital Medical Education Center established.<br><br>先端医工学研究センター設置<br>Research Center for Applied Medical Engineering was established.       |
| 平成18年10月1日<br>Oct. 1, 2006 | 医学部附属病院医療技術部を設置<br>Medical Technology Department was established.   |
| 平成19年7月2日<br>July. 2, 2007 | 厚生労働省より治験中核病院に指定<br>designated as core clinical research center by MHLW.  |
| 10月17日<br>Oct. 17, 2007    | 医学部附属病院腫瘍センター設置<br>Cancer Center was established.   |
| 平成20年2月8日<br>Feb. 8, 2008  | 都道府県がん診療連携拠点病院に指定<br>designated as core prefectural hospital for collaborative cancer treatment.  |
| 4月1日<br>Apr. 1, 2008       | 医学部附属病院総合臨床研究センター設置<br>General Clinical Research Center was established.  |
| 4月21日<br>Apr. 21, 2008     | 肝疾患診療連携拠点病院に指定<br>Designated as Liver disease care liaison hospital.  |
| 5月1日<br>May. 1, 2008       | 医学部附属病院救命救急センター設置<br>Emergency and Critical Care Center established.  |
| 7月1日<br>July. 1, 2008      | 医学科講座を47講座(医学基盤教育系9講座、基礎医学系14講座、臨床医学系24講座)へ再編<br>Reorganization of medical departments into 47 departments.   |
| 11月1日<br>Nov. 1, 2008      | 医学部附属病院肝疾患相談センター設置<br>Liver Disease Consultation Unit was established.  |
| 11月15日<br>Nov. 15, 2008    | 医学部30周年記念式典挙行<br>The Thirtieth Anniversary ceremony of the Faculty of Medicine.   |
| 平成21年4月1日<br>Apr. 1, 2009  | 医学部附属病院臨床栄養管理室設置<br>Clinical Nutrition Office was established.  |
| 10月1日<br>Oct. 1, 2009      | 総合科学研究支援センターと先端医工学研究センターを全学研究推進機構に改組<br>Reorganization of Institute of Scientific Research and Research Center for Applied Medical Engineering into Research Promotion Project. |
| 平成22年2月1日<br>Feb. 1, 2010  | 医学部附属地域医療学センター設置<br>Center for Community Medicine was established.  |
| 4月1日<br>Apr. 1, 2010       | 医学部医学科腫瘍内科学講座設置<br>Department of Medical Oncology was established.  |
| 6月9日<br>Jun. 9, 2010       | 医学部スキルスラボセンター設置<br>Clinical Skills Lab. Center was established.   |
| 6月9日<br>Jun. 9, 2010       | 医学部基礎医学画像センター設置<br>Imaging Center for Basic Medicine was established.   |
| 11月10日<br>Nov. 10, 2010    | 医学部バイオラボセンター設置<br>Department Bio Laboratory Center was established.   |

平成22年12月9日 Dec. 9, 2010	医学部附属先端分子イメージングセンター設置 Advanced Molecular Imaging Center was established.
平成23年10月15日 Oct. 15, 2011	医学部附属病院開院30周年記念式典挙行 The Thirtieth Anniversary ceremony of the University Hospital.
平成24年10月1日 Oct. 1, 2012	医学部附属病院 救命救急センター棟稼動開始(大分県ドクターヘリ基地病院) Critical Care Center Build was opened.
10月1日 Oct. 1, 2012	医学部附属病院 病床の増床(計618床) Number of beds reached 618.
平成25年4月1日 Apr. 1, 2013	医学科講座を再編(内科学講座及び外科学講座) Reorganization of medical departments. (internal medicine and surgery)
4月1日 Apr. 1, 2013	看護学科講座を再編 Reorganization of nursing departments.
4月29日 Apr. 29, 2013	医学部附属病院 新病棟稼動開始 New Wards was opened.
	医学部附属病院災害対策室設置 Anti-Disaster Measures Room was established.
10月1日 Oct. 1, 2013	高度救命救急センターに指定 Designated as Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center.
平成26年2月1日 Feb. 1, 2014	医学部附属病院遺伝子診療室設置 Genetic Counselling Office was established.
3月26日 Mar. 26, 2014	地域災害拠点病院に指定 Designated as Disaster base hospital (Community).
12月24日 Dec. 24, 2014	医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター設置 Career Path Support Center for Medical Staff was established.
平成27年2月1日 Feb. 1, 2015	医学部附属病院認知症先端医療推進センター設置 Center for Propulsion of Advanced Medicine for Dementia was established.
4月1日 Apr. 1, 2015	医学部附属臨床医工学センター設置 Clinical Engineering Research Center was established.
平成28年4月1日 Apr. 1, 2016	医学科講座を47講座(基礎医学系19講座, 臨床医学系講座28講座)へ再編 Reorganization of medical departments into 47 departments.
	医学部医学科医療安全管理医学講座設置 Department of Medical Safety Management was established.

# 組織図 Organization





# 役職員等 *Administrative Officers*

<b>学部長</b> Dean 守山正胤 Masatsugu Moriyama	<b>病院長</b> Director of University Hospital 津村 弘 Hiroshi Tsumura	<b>副学部長</b> Vice-Dean 宮崎英士 小林隆志 久保田直治 Eishi Miyazaki Takashi Kobayashi Naoji Kubota
<b>医学科長</b> Dean of School of Medicine 北野敬明 Takaaki Kitano	<b>看護学科長</b> Dean of School of Nursing 穴井孝信 Takanobu Anai	<b>副病院長</b> Deputy Director of University Hospital 鈴木正志 三股浩光 杉尾賢二 村上和成 大戸朋子 Masashi Suzuki Hiromitsu Mimata Kenji Sugio Kazunari Murakami Tomoko Negi

## 医学部 Faculty of Medicine

医学科 School of Medicine	
講座名 Department	教授名 Professors
<b>基礎医学系 Basic Medicine</b>	
生体構造医学講座 Human Anatomy	濱田文彦 Prof. Fumihiko Hamada
分子解剖学講座 Molecular Anatomy	藤倉義久 Prof. Yoshihisa Fujikura
神経生理学講座 Neurophysiology	花田礼子 Prof. Reiko Hanada
病態生理学講座 Pathophysiology	小野克重 Prof. Katsushige Ono
細胞生物学講座 Cell Biology	花田俊勝 Prof. Toshikatsu Hanada
マトリックス医学講座 Matrix Medicine	吉岡秀克 Prof. Hidekatsu Yoshioka
医学生物学講座 Biomedicine	松浦恵子 Prof. Keiko Matsuura
医化学講座 Biomedical Chemistry	久保田直治 Prof. Naoji Kubota
生物物理学講座 Biophysics	谷川雅人 Prof. Masato Tanigawa
分子病理学講座 Molecular Pathology	守山正胤 Prof. Masatsugu Moriyama
微生物学講座 Microbiology	西園晃 Prof. Akira Nishizono
感染予防医学講座 Infectious Disease Control	小林隆志 Prof. Takashi Kobayashi
薬理学講座 Pharmacology	石崎敏理 Prof. Toshimasa Ishizaki
公衆衛生・疫学講座 Public Health and Epidemiology	兼板佳孝 Prof. Yoshitaka Kaneita
環境・予防医学講座 Environmental and Preventive Medicine	山岡吉生 Prof. Yoshio Yamaoka
法医学講座 Forensic Medicine	岸田哲子 Prof. Tetsuko Kishida
医療倫理学講座 Medical Ethics	今井浩光 Prof. Hiromitsu Imai
臨床社会心理学講座 Social and Clinical Psychology	上野徳美 Prof. Tokumi Ueno
医学英語教育学講座 Medical English Education	森 茂 Prof. Shigeru Mori

臨床医学系 Clinical Medicine	
内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 Endocrinology, Metabolism, Rheumatology and Nephrology	柴田洋孝 Prof. Hirotaka Shibata
呼吸器・感染症内科学講座 Respiratory Medicine and Infectious Diseases	(兼)門田淳一 Prof. Junichi Kadota
神経内科学講座 Neurology	松原悦朗 Prof. Etsuro Matsubara
腫瘍・血液内科学講座 Medical Oncology and Hematology	白尾國昭 Prof. Kuniaki Shirao
循環器内科・臨床検査診断学講座 Cardiology and Clinical Examination	高橋尚彦 Prof. Naohiko Takahashi
消化器内科学講座 Gastroenterology	村上和成 Prof. Kazunari Murakami
精神神経医学講座 Neuropsychiatry	寺尾 岳 Prof. Takeshi Terao
小児科学講座 Pediatrics	井原健二 Prof. Kenji Ihara
放射線医学講座 Radiology	森 宣 Prof. Hiromu Mori
臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics	上村尚人 Prof. Naoto Uemura
消化器・小児外科学講座 Gastroenterological and Pediatric Surgery	猪股雅史 Prof. Masafumi Inomata
呼吸器・乳腺外科学講座 Thoracic and Breast Surgery	杉尾賢二 Prof. Kenji Sugio
心臓血管外科学講座 Cardiovascular Surgery	宮本伸二 Prof. Shinji Miyamoto
脳神経外科学講座 Neurosurgery	藤木 稔 Prof. Minoru Fujiki
整形外科科学講座 Orthopaedic Surgery	津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
皮膚科学講座 Dermatology	(欠員) (Vacant)
泌尿器外科学講座 Urology	三股浩光 Prof. Hiromitsu Mimata
眼科学講座 Ophthalmology	久保田敏昭 Prof. Toshiaki Kubota
耳鼻咽喉科学講座 Otorhinolaryngology & Head and Neck Surgery	鈴木正志 Prof. Masashi Suzuki
産科婦人科学講座 Obstetrics and Gynecology	檜原久司 Prof. Hisashi Narahara
麻酔科学講座 Anesthesiology and Intensive Care Medicine	北野敬明 Prof. Takaaki Kitano
救急医学講座 Emergency Medicine	重光 修 Prof. Osamu Shigemitsu
歯科口腔外科学講座 Oral and Maxillofacial Surgery	河野憲司 Prof. Kenji Kawano
診断病理学講座 Diagnostic Pathology	横山繁生 Prof. Shigeo Yokoyama
医療情報学講座 Medical Informatics	(兼)三宅秀敏 Prof. Hidetoshi Miyake
薬剤学講座 Pharmacy	(兼)伊東弘樹 Prof. Hiroki Ito
臨床統計・データマネジメント学講座 Biostatistics	江島伸興 Prof. Nobuoki Eshima
医療安全管理医学講座 Medical Safety Management	(欠員) (Vacant)

平成28年5月1日現在  
(as of May 1, 2016)

寄附講座等 Courses on Contribution and others	
人工関節学講座 Endoprothetic Surgery	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
地域医療・小児科分野担当 Educational Support for Regional Pediatrics	是松聖悟 Prof. Seigo Korematsu
地域医療・産婦人科分野担当 Educational Support for Regional Obstetrics and Gynecology	奈須家栄 Prof. Kaei Nasu
大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業 Division of General Pediatrics and Emergency Medicine	未延聡一 Prof. Soichi Suenobu

看護学科 School of Nursing	
講座名 Department	教授名 Professors
基盤看護学講座 Fundamental Nursing Sciences	杉田 聡 Prof. Satoru Sugita
	原田千鶴 Prof. Chizuru Harada
	井手知恵子 Prof. Chieko Ide
	清村紀子 Prof. Noriko Kiyomura
	河村奈美子 Prof. Namiko Kawamura
実践看護学講座 Practical Nursing Sciences	井上 亮 Prof. Ryo Inoue
	寺町芳子 Prof. Yoshiko Teramachi
	末弘理恵 Prof. Rie Suehiro
	穴井孝信 Prof. Takanobu Anai
	三重野英子 Prof. Eiko Mieno
	濱口和之 Prof. Kazuyuki Hamaguchi

附属センター Included Center	
医学教育センター Medical Education Center	センター長(教務委員長) Director (兼)北野敬明 Prof. Takaaki Kitano
	中川幹子 Prof. Mikiko Nakagawa
地域医療学センター Community Medicine Center	センター長(学部長) Director (兼)守山正胤 Prof. Masatsugu Moriyama
	宮崎英士 Prof. Eishi Miyazaki
	白石憲男 Prof. Norio Shiraiishi
先端分子イメージングセンター Advanced Molecular Imaging Center	センター長(学部長) Director (兼)守山正胤 Prof. Masatsugu Moriyama
臨床医工学センター Clinical Engineering Research Center	センター長(学部長) Director (兼)守山正胤 Prof. Masatsugu Moriyama
	穴井博文 Prof. Hirofumi Anai
スキルスラボセンター Clinical skills Lab. Center	センター長(医学教育センター教授) Director (兼)中川幹子 Prof. Mikiko Nakagawa
基礎医学画像センター Imaging Center for Basic Medicine	センター長 Director (兼)森 宣 Prof. Hiromu Mori
バイオラボセンター Bio-Laboratory Center	センター長(学部長) Director (兼)守山正胤 Prof. Masatsugu Moriyama

医学部関連施設等 Related facilities under the Faculty of Medicine	
全学研究推進機構 副機構長 Deputy Director of Research Promotion Office	(兼)山岡吉生 Prof. Yoshio Yamaoka
学術情報拠点長 (兼副拠点長(医学図書館担当)) Director and Deputy Director of Center for Academic Information & Library Services (Director of Medical Library)	(兼)岸田哲子 Prof. Tetsuko Kishida
学術情報拠点 副拠点長 (医学情報センター担当) Deputy Director of Center for Academic Information & Library Services (Director of Medical Information Center)	島岡 章 Prof. Akira Shimaoka

医学・病院事務部 Department of Medicine and Hospital Administration	
部 長 Director	原 博文 Hirofumi Hara
課 Section	課 長 Chief of Section
総 務 課 General Affairs Division	安 東 ゆ か Yuka Ando
経 営 管 理 課 Administration Management Division	吉 野 勉 Tsutomu Yoshino
学 務 課 Student Affairs Division	出 川 隆 富 Takatomi Izukawa
医 事 課 Hospital Affairs Division	染 矢 朋 宏 Tomohiro Someya

# 役職員等 *Administrative Officers*

平成28年4月1日現在  
(as of Apr 1, 2016)

医学部 附属病院 University Hospital	
診療科 Clinical Departments	科 長 Head
呼吸器内科 Respiratory Medicine	(兼)安東 優 A. Prof. Masaru Ando
内分泌・糖尿病内科 Endocrinology, Diabetology and Metabolism	(兼)柴田 洋 孝 Prof. Hirotaaka Shibata
膠原病内科 Rheumatology	(兼)柴田 洋 孝 Prof. Hirotaaka Shibata
腎臓内科 Nephrology	(兼)柴田 洋 孝 Prof. Hirotaaka Shibata
神経内科 Neurology	(兼)松原 悦 朗 Prof. Etsuro Matsubara
消化器内科 Gastroenterology	(兼)村上 和 成 Prof. Kazunari Murakami
循環器内科 Cardiovascular Medicine	(兼)高橋 尚 彦 Prof. Naohiko Takahashi
血液内科 Hematology	(兼)白尾 國 昭 Prof. Kuniaki Shirao
腫瘍内科 Medical Oncology	(兼)白尾 國 昭 Prof. Kuniaki Shirao
総合内科・総合診療科 General Medicine	(兼)宮崎 英 士 Prof. Eishi Miyazaki
精神科 Psychiatry	(兼)寺尾 岳 Prof. Takeshi Terao
小児科 Pediatrics	(兼)井原 健 二 Prof. Kenji Ihara
消化器外科 Gastroenterological Surgery	(兼)猪股 雅 史 Prof. Masafumi Inomata
呼吸器外科 Thoracic Surgery	(兼)杉尾 賢 二 Prof. Kenji Sugio
小児外科 Pediatric Surgery	(兼)猪股 雅 史 Prof. Masafumi Inomata
乳腺外科 Breast Surgery	(兼)杉尾 賢 二 Prof. Kenji Sugio
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	(兼)宮本 伸 二 Prof. Shinji Miyamoto
脳神経外科 Neurosurgery	(兼)藤木 稔 Prof. Minoru Fujiki
整形外科 Orthopaedic Surgery	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
形成外科 Plastic Surgery	(兼)清水 史 明 Lecture Fumiaki Shimizu
皮膚科 Dermatology	(兼)波多野 豊 A. Prof. Yutaka Hatano
腎臓外科・泌尿器科 Renal Surgery and Urology	(兼)三股 浩 光 Prof. Hiromitsu Mimata
眼科 Ophthalmology	(兼)久保田 敏 昭 Prof. Toshiaki Kubota
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Otorhinolaryngology & Head and Neck Surgery	(兼)鈴木 正 志 Prof. Masashi Suzuki
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	(兼)檜原 久 司 Prof. Hisashi Narahara
放射線科 Radiology	(兼)森 宣 Prof. Hiromu Mori
麻酔科 Anesthesiology	(兼)北野 敬 明 Prof. Takaaki Kitano
リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	(兼)河野 憲 司 Prof. Kenji Kawano

中央診療施設等 Central Clinical Facilities	
施設等 Clinical Facilities	部 長 Head
検査部 Clinical Laboratory Center	(兼)高橋 尚 彦 Prof. Naohiko Takahashi
手術部 Surgery Center	(兼)北野 敬 明 Prof. Takaaki Kitano
放射線部 Radiological Center	(兼)森 宣 Prof. Hiromu Mori
材料部 Sterile Supplies	(兼)久保田 敏 昭 Prof. Toshiaki Kubota
高度救命救急センター Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center	(兼)重 光 修 Prof. Osamu Shigemitsu
集中治療部 Intensive Care Unit	(兼)北野 敬 明 Prof. Takaaki Kitano
輸血部 Blood Transfusion Center	(兼)白尾 國 昭 Prof. Kuniaki Shirao
病理診断科・病理部 Department of Diagnostic Pathology	(兼)横山 繁 生 Prof. Shigeo Yokoyama
医療情報部 Hospital Informatics Center	三宅 秀 敏 Prof. Medetoshi Miyake
臨床薬理センター Clinical Pharmacology Center	(兼)上村 尚 人 Prof. Naoto Uemura
リハビリテーション部 Rehabilitation Center	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
地域医療連携センター Regional Medical Liaison Center	(兼)白尾 國 昭 Prof. Kuniaki Shirao
周産母子センター Maternity and Perinatal Care Center	(兼)檜原 久 司 Prof. Hisashi Narahara
C C U 部 Coronary Care Unit	(兼)高橋 尚 彦 A. Prof. Naohiko Takahashi
血液浄化センター Blood Purification Center	(兼)三股 浩 光 Prof. Hiromitsu Mimata
内視鏡診療部 Endoscopy Center	(兼)村上 和 成 Prof. Kazunari Murakami
感染制御部 Hospital Infection Control Center	(兼)平松 和 史 A. Prof. Kazufumi Hiramatsu
M E 機器センター Medical Engineering Center	(兼)宮本 伸 二 Prof. Shinji Miyamoto
医療安全管理部 Medical Safety Management Center	(兼)三股 浩 光 Prof. Hiromitsu Mimata
卒後臨床研修センター Clinical Training Institute for Interns	(兼)杉尾 賢 二 Prof. Kenji Sugio
腫瘍センター Cancer Center	(兼)白尾 國 昭 Prof. Kuniaki Shirao
総合臨床研究センター General Clinical Research Center	(兼)上村 尚 人 Prof. Naoto Uemura
肝疾患相談センター Liver Disease Consultation Unit	(兼)村上 和 成 Prof. Kazunari Murakami
臨床栄養管理室 Clinical Nutrition Office	足立 和 代 Chief. Kazuyo Adachi
遺伝子診療室 Genetic Counselling Office	(兼)井原 健 二 Prof. Kenji Ihara
認知症先端医療推進センター Center for Propulsion of Advanced Medicine for Dementia	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
薬 剤 部 Pharmacy	伊 東 弘 樹 Prof. Hiroki Ito
看 護 部 Nursing Department	大 戸 朋 子 Head. Tomoko Negi
医療技術部 Medical Technology Department	宮 子 博 Head. Hiroshi Miyako
災害対策室 Anti-Disaster Measures Room	(兼)津村 弘 Prof. Hiroshi Tsumura
女性医療人キャリア支援センター Career Path Support Center for Medical Staff	(兼)藤木 稔 Prof. Minoru Fujiki



# 教職員等 *Number of staff*

平成28年4月1日現在  
(as of Apr 1, 2016)

区 分 Classification	教 育 職 員 Academic Staff										一 般 職 (一)	一 般 職 (二)	医 療 職 (一)	医 療 職 (二)	Total 小 計	Grand Total 計	
	教 授	特 任 教 授	准 教 授	講 師	助 教	特 任 助 教	病 院 特 任 助 教	助 手	教 務 員	Total 小 計							
	Professors	Contract Professors	Associate Professors	Assistant Professors	Research Associates	Contract Assistant Professors	Research Associates (Hospital-United)	Research Assistant	Education Assistant	Total							
医 学 部 Faculty of Medicine	60		34	6	72	4		5	1	182	16				16	198	
医学部附属病院 University Hospital	2		7	25	63		44			141	6	11	142	659	818	958	
医学・病院事務部 Medical and Hospital Administration Office										0	100	21	11	1	133	133	
合 計 Total	62		41	31	135	4	44	5	1	323	122	32	153	660	967	1,290	
関連施設 (狭間キャンパス) Affiliated facilities (Hasama Campus)	全学研究推進機構 Research Promotion Project										2	2	8			8	10
	保健管理センター Health Science Center										1				1	1	2

※病院再整備推進室職員は、医学部附属病院へ計上

# 外部資金等 *External Funds etc.*

科学研究費助成事業採択一覧 (平成28年度分) (金額 単位：千円)  
Grant-in-Aid for Scientific Research (in 2016) (In thousands of yen)

区 分 Classification	件 数 Number	金 額 Amount
基盤研究(A) Grant-in-Aid for Scientific Research (A)	1	14,690 (うち間接経費 3,390) (3,390 is indirect cost inside)
基盤研究(B) Grant-in-Aid for Scientific Research (B)	7	41,470 (うち間接経費 9,570) (9,570 is indirect cost inside)
基盤研究(C) Grant-in-Aid for Scientific Research (C)	88	132,340 (うち間接経費 30,540) (30,540 is indirect cost inside)
若手研究(A) Grant-in-Aid for Young Scientists (A)	1	4,810 (うち間接経費 1,110) (1,110 is indirect cost inside)
若手研究(B) Grant-in-Aid for Young Scientists (B)	29	42,380 (うち間接経費 9,780) (9,780 is indirect cost inside)
挑戦的萌芽研究 Grant-in-Aid for challenging Exploratory Research	4	4,810 (うち間接経費 1,110) (1,110 is indirect cost inside)
研究活動スタート支援 Grant-in-Aid for Research Activity Start-up	1	1,300 (うち間接経費 300) (300 is indirect cost inside)
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	2	1,080 (うち間接経費 0) (0 is indirect cost inside)
国際共同研究強化 Fostering joint international Research	1	9,750 (うち間接経費 2,250) (2,250 is indirect cost inside)
合 計 Total	134	252,630 (うち間接経費 58,050) (58,050 is indirect cost inside)

外部資金 (平成27年度分) (金額 単位：千円)  
Non-governmental Funds (in 2015) (In thousands of yen)

区 分 Classification	金 額 Amount
寄 附 金 Scholarship Endowment	484,981
受託研究(治験) Entrusted Research (Drug Testing)	69,810
受託研究(その他) Entrusted Research (Others)	58,027
受託事業 Trust business	167,445
民間機関等との共同研究 Collaboration with Private Institutions	49,021
合 計 Total	829,284

文部科学省以外の省庁による研究費採択一覧 (平成27年度分) (金額 単位：千円)  
The Research Cost of The Other Ministries and Government offices (in 2015) (In thousands of yen)

区 分 Classification	件 数 Number	金 額 Amount
厚生労働科学研究費補助金 Health and Labour Sciences Research Grants	1	6,100 (うち間接経費 1,476) (1,476 is indirect cost inside)
合 計 Total	1	6,100 (うち間接経費 1,476) (1,476 is indirect cost inside)

# 医学部

## *Faculty of Medicine*

本学部には、医学科と看護学科があり、医学科においては、患者の立場を理解し、全人的医療ができ、豊かな教養と人間性、高度の学識、生涯学習能力、国際的視野を備えた医師を育成することを、また、看護学科においては、人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の修得を促し、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を育成することを目指している。

また、両学科ともカリキュラム改革に努め、医学科においては、医学の急速な進歩と変化する社会ニーズに対応すべく、従来の学問体系別医学教育を、コンピテンスを基盤として教養・基礎・臨床が連携した統合型教育カリキュラムに転換し、臨床実習をより充実させるために診療参加型実習、地域基盤型教育を推進するなど、抜本的改革を行い、看護学科においても、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の有機的統合が図られるとともに、臨床で役立つ看護教育を目指して、臨地実習においても「看護」の理解を深める工夫がなされるなど、様々な改革が進行中であり、改善を重ねている。

Faculty of Medicine consists of two schools: School of Medicine and School of Nursing. The purpose of the School of Medicine is to educate students to be doctors with a well-defined sense of culture and humanity, a high degree of academic knowledge, motivation to continue lifelong learning, and a broad international scope so as to use a holistic approach to medicine by understanding patients and their problems. On the other hand, the purpose of the School of Nursing is to convey professional knowledge and to demonstrate techniques, which enable students to maximize their nursing practice, so that they may provide patients with a healthy life, both physically and mentally. In addition to this, we educate our students to be nurses with rich humanity so that they may contribute to the progress of nursing and improve health, medical care, and human welfare of the world as well as those of the world.

We presently promote and practice various kinds of revolutions and improvements in terms of academic curricula. For example, at the School of Medicine, we have shifted the course requirement from discipline-based method organized by medical departments into competency-based integrated education of liberal arts, basic medicine and clinical medicine in order to deal with the dynamic and rapid improvement of modern medicine and medical needs with the change of the social structure. We also promoted problem-based and community-based learning to progress and expand clinical clerkship. The fundamental revolution in the School of Nursing is the integration and reorganization of basic, professional basic, and professional advanced subjects. Also diverse trials for deepening students' understanding for "nursing" have been practiced in internship programs to foster nursing staff that can contribute at the clinical stage.

## 医学部 医学科

### 教育目的

患者の立場を理解した全人的医療ができるよう、豊かな教養と人間性、高度の学識、生涯学習能力、国際的視野を備えた人材を育成することを目的として実践的な医学教育を行う。

### Medical Education

The purpose of the medical department is to educate students to become doctors who can consider problems from the patients standpoint, have a strong sense of culture and humanity, a high level of academic knowledge, a desire to continue lifelong learning, a broad international outlook and the ability to apply a holistic approach to medicine.

### 研究目的

社会の医学・医療に対する多様な要望に応えるため、生命現象の基礎的研究、及び健康の維持・増進、疾病の治療、克服に寄与する独創的、先導的研究を学内の他領域との連携で推進する。さらに、予防医学の重要性に鑑み、保健・衛生分野の研究を促進する。もって、これらの成果を地域及び国際社会に還元し、保健・医療・福祉の向上に貢献する。

### Medical Research

This department is engaged in basic life science research. It promotes the creative research and sets the pace for research in health maintenance and well-being, as well as treating and overcoming diseases. It responds to the various needs and demands of society for medicine and medical science. Taking into consideration the importance of preventive medicine, we facilitate health and hygiene research and aim to improve healthcare and welfare, both locally and globally.

## 医学部 看護学科

### 教育目的

人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の修得を促し、看護学の発展と保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を育成する。

### Nursing Education

The purpose of the nursing department is to pass on professional knowledge and promote the practice of techniques that help students to perfect their nursing practice, so that they may provide patients with a healthy physical and mental life. In addition, we educate our students to be kind and caring nurses so that they may contribute to the progress of nursing and help to improve healthcare and welfare, both locally and throughout the world.

### 研究目的

多様で複雑な国民のヘルスニーズに応え、人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うために、その基盤となる看護知識・技術や理論の検証と開発を推進する。

また、実践科学としての立場から、人々とその生活に視点を当てた研究を促進し、専門的な看護実践に資することをねらいとする。もって、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会へ貢献する。

### Nursing Research

In order to respond to people's various and complicated health problems, both physical and mental needs, we promote the study and development of nursing techniques, and theories on which appropriate nursing is based. Moreover, research focused on people and their lifestyles is promoted from the standpoint of practical science, concentrating on the contributions of professional nursing practice in this area. In this way, we contribute to the development of the science of nursing, the improvement of health, medical care, and welfare, both locally and internationally.

# 医学科

School of Medicine

## 基礎医学系講座

Department of Basic Medicine

### 生体構造医学講座 Department of Human Anatomy

#### 1) 生物の発生を制御するシグナル伝達機構の解明

我々のからだは、たった一つの細胞である受精卵が増殖、分化、移動を繰り返すことによって出来上がる。この精緻な発生過程を制御するのが細胞間のシグナル伝達に関わる分子群であり、これらを介するシグナル伝達機構の破綻は、がんをはじめ、多くの疾患を引き起こすことが知られている。本講座では、分泌型成長因子Wntを介するシグナル伝達経路の制御機構とその破綻による発がんメカニズムの解明を目的として研究を進めている。

#### 2) 生体の構造と機能に関する臨床解剖学的・分子免疫組織学的研究

1. リンパ管および微小循環系の構造・機能と発生・新生に関する機能形態学的・分子組織化学的解析・臨床解剖学的解析
2. 腹膜播腫のリンパ行性転移機構に関する機能形態学的解析
3. 関節・神経-骨格筋系を中心とした臨床解剖学的・生体力学的研究

#### 1) Molecular mechanisms of signal transduction controlling animal development

An animal starts its life as a single cell—a fertilized egg. During development, this cell proliferates, differentiates and migrates repeatedly to form the body. Intercellular signaling controls most aspects of development and its disruption leads to many diseases, including cancer. Our goal is to elucidate how Wnt-mediated signaling is regulated and understand mechanisms of tumorigenesis caused by its disruption.

#### 2) Clinical morphology and molecular immuno-histo-chemical studies on fine structure and function of living human body

1. Functional morphological / molecular histochemical analysis of organization and dynamics of lymphatic system and microcirculatory system
2. Functional histological study of digestive tract involving enteric nervous and endocrine systems
3. Studies of synovial joints and nerve-musculoskeletal system in clinical anatomy and biomechanics



大学の風景～医学部入口～

## 分子解剖学講座 Department of Molecular Anatomy

### 1) ホルムアルデヒド代替液の開発

ホルムアルデヒド (FA) は組織固定、臓器保存、解剖実習用ご遺体の防腐処置など解剖学界のみならず、病理学、法医学、臨床でも汎用されている。しかし、平成20年にFAは国際がん保健機構より発ガン性物質に指定された。それで当講座ではFA代替液の開発に取り組んでいる。候補として高親水性高分子モノマーであるピロリドンの主成分とする混合液を用意した。

- (1) 同液で摘出組織を固定、パラフィン包埋し、染色を施した場合
- (2) 肉眼臓器を同液に浸漬し、固定・長期保存した場合
- (3) 動物に同代替液を注入することによって個体を肉眼解剖実習に使用させていただきご遺体のような状態を用意できるか調べている。

現在迄にFA代替液に関連する特許を3件取得し、脱ホルマリンの目的を概ね達成し、商品化を目指している。

### 2) その他

- (1) 糖尿病性腎症の機序解明と予防
- (2) 外的内的環境変化への適応獲得機構の解明

### 1) The development of the formaldehyde substitution liquid

The formaldehyde(FA) is used widely even in not only such as tissue fixation, organ preservation, corrosion prevention treatment of cadavers for dissection practical training but also the fields of pathology, legal medicine and clinic....

However, the FA was designated from the International Cancer Health Mechanism in the carcinogen in 2008.

We are trying the development of the FA substitution liquid.

We prepared the liquid mixture which the main component is the N-vinyl-2-pyrrolidone and is the high hydrophilic macromolecule monomer as a candidate to be FA substitution liquid and analyze the following.

- (1) The case in which the extracted tissue was fixed in the substitution liquid, embedded in paraffin, and conducted the dyeing on the sections.
- (2) The case in which they were preserved in the long term after macroscopic organs were immersed in the liquid.
- (3) The case in which the substitution liquid is used against the animals by intra-venous injecting the as preliminary experiment for gross anatomy practical training.

Three patents concerning the FA substitution liquid are acquired by the present, and the purpose of de-formaldehyde is approximately achieved, and we aim at the commercialization.

### 2) Others

- (1) Mechanism elucidation and prevention of diabetic nephropathy.
- (2) Analysis of the process for acclimation to environmental shift.

## 神経生理学講座 Department of Neurophysiology

### 生理活性物質の新規生理機能の解明

当講座では、「生理活性物質の新規生理機能の解明」をメインテーマに、神経ペプチドならびにその他の生理活性物質に着目して、その新規生理機能を明らかにすることを目標としています。具体的には、目的の生理活性物質に関し、遺伝子改変技術をもとにモデル動物を作成し、行動生理学的手法やマウス・ラットへの脳室内薬物微量投与技術、分子生物学的手法を用いて解析し、その生理活性物質が関与する新規生理機能の一連の分子メカニズムを追究しています。現在、当講座では、神経ペプチド・ニューロメジンUシステムに焦点を当て、ニューロメジンU/ニューロメジンS両遺伝子欠損マウスを新たに作製し解析を行っています。各々の単独遺伝子欠損マウスの解析からは見いだされなかった新たな生理作用を発見しており、それらの詳細な分子メカニズムの解明に取り組んでいます。そして、得られた知見をもとに、その生理機能が関与するヒトの病態との関連性から、その関連疾患の診断や治療戦略、創薬へと繋がる研究を目指したいと考えています。

### Understanding the Novel Regulatory Role of Some Biological Substances and Neuropeptides.

Our primary research interest is to gain new insights into the novel roles of some bioactive substrates or neuropeptides, such as Neuromedin U (NMU) or Neuromedin S (NMS), by using genetically modified mice as "a loss of function" model and administrating these substrates as "a gain of function model".

Regarding a new function of NMU/NMS system, we have newly established NMU/NMS genes double knockout mice, and found a completely new function of this system. Now, we are focusing to examine the detailed mechanisms of these functions on molecular, cellular or behavioral aspects. Based on our data, we will investigate the role of NMU/NMS system in the etiology of human conditions related to the newly identified functions. Thus, we will determine the etiological role of these neuropeptides and their potential use for the treatment of related disorders.

## 病態生理学講座 Department of Pathophysiology

### 生体の病態生理学的機能解析とその分子メカニズムの解明

循環器疾患と細胞内情報伝達機構に関するTranslational Researchを主な柱として、電気生理学的、分子生物学および生化学的手法を取り入れた生体の臓器、細胞、及び分子機能に関する病態生理学的研究を多面的に進めている。また循環器領域では、イオンチャネル病、心筋虚血、不整脈、糖尿病心筋症などの病態に伴う心筋の電氣的・機械的性質の異常に関する基礎的研究を行っている。更に、運動生理学、自律神経機能、血圧調節の分子機構、興奮性細胞の細胞内電解質ホメオスタシス機構の研究等を含めて以下の研究領域に携わっている。

- 1) 分子電気生理学的手法を用いたイオンチャネル機能の解明
- 2) 細胞内情報伝達系によるイオンチャネルの発現修飾と病態に伴う変化
- 3) 細胞内シグナル分子の発現制御に関わる転写因子研究
- 4) microRNAの心臓機能調節に関わる研究
- 5) 自発高運動ラット "SPORT" を用いた神経伝達物質と運動志向に関する研究

### Molecular pathophysiological approach to explore human cardiovascular diseases

Using electrophysiological techniques combined with molecular biological and biochemical approaches, we are studying pathophysiology of cardiovascular diseases, including studies on ion channelopathy, myocardial ischemia, arrhythmia, and diabetic cardiomyopathy.

- 1) Electrophysiological analyses of ionic channels including Na<sup>+</sup>, K<sup>+</sup> and Ca<sup>2+</sup> channels.
- 2) Regulation of ionic channels by intracellular signal transduction pathways and its modification in pathophysiological states.
- 3) Analyses of metabolism, expression and transcription factors for cellular signaling molecules.
- 4) Analyses of microRNA in regulation of cardiac function.
- 5) Neurotransmitter studies on the physical exercise-oriented rat strain "SPORTS"

## 細胞生物学講座 Department of Cell Biology

### 講座の概要

我々は、遺伝子改変技術を駆使してマウスおよび細胞株の遺伝子改変モデルを作成し、その遺伝子変異により発症する病態の分子機構について研究を行なっている。特にRNA代謝機構の基礎的な分子機構とその破綻による病態について生体モデルを用いて研究することにより、RNA代謝機構が関連する新たな病態機構の解明を目標としている。最近、我々はRNA代謝機構が神経変性疾患の発症に関与することを発見した。さらにその詳細な病態分子機構について研究を進め、未だ有効な治療法が確立していない難治性疾患、特に神経変性疾患の新たな診断・治療法開発につながる研究を目指す。

### Outline of Department

The basic approach of our group is to genetically manipulate and change genes in mice and cells to determine the effects of these mutations on the development of the whole organism and in diseases. In particular, we are focusing on RNA metabolism. We have recently uncovered new molecular mechanism connecting RNA metabolism with neurodegenerative diseases. From these studies, we are trying to establish basic principles of molecular mechanisms of the disease pathogenesis.

## マトリックス医学講座 Department of Matrix Medicine

### マトリックス生物学及び医学

動物組織は種々の細胞と細胞外マトリックスより成り立っている。これら両者の量的、質的な組み合わせにより、種々の組織が精巧に作り出されている。その中で私たちは特に細胞外マトリックスに注目し研究を行っている。その目的は1) 細胞外マトリックスに存在する分子の機能とその遺伝子調節を解析すること、2) 細胞外マトリックス分子の増加によって引き起こされる臓器線維症の機序を分子レベルで解明し、治療法に結びつけることである。特に細胞外マトリックスに最も豊富に存在するコラーゲン分子を中心に研究を行っている。

- 1) コラーゲン遺伝子の発現および転写調節機構の解析
- 2) コラーゲン分子およびそれに由来するペプチドの機能の解析
- 3) 種々の液性因子に対するコラーゲン遺伝子の応答メカニズムの解析
- 4) 臓器線維症治療法の開発

### Matrix Biology and Medicine: Analysis of the normal and pathological condition of extracellular matrix

Animal tissues consist of extracellular matrix as well as different cells. These components are well organized in many different ways. The goal of our research is 1) to understand the function of molecules and the regulation of their genes in extracellular matrix, and 2) to elucidate molecular mechanism of the fibrosis that is a pathological condition characterized by excessive deposition of the components of extracellular matrix, and to challenge to develop the therapy of the disease using animal models. Especially, we focus on collagen molecules that are most abundant proteins in the animal body.

- 1) To analyze the expression and transcriptional regulation of collagen gene.
- 2) To analyze the function of collagen molecules and its derived peptides.
- 3) To elucidate how collagen molecules are modulated by growth hormones and cytokines in matrix remodeling.
- 4) To develop the therapy of fibrosis using animal models.

## 医学生物学講座 Department of Biomedicine

### 講座の概要

#### 1. 生命科学の基礎

医学・医療を学ぶための基本となる生物の誕生と進化、生物の特徴としての細胞の成り立ちや遺伝、免疫、代謝、そしてガンなどの疾患につながる基礎的な仕組みを学ぶ。また最新の科学技術についてその概要に触れる。

#### 2. 寄生物学および系統分類学

原始的な六脚類を中心とした動物群の進化、生活史および形態、発生などにもとづいた系統分類学的研究を行う。さらに生物学教育・実験に用いる新しい生物教材の開発研究も行っている。

### 現在の主な研究内容

- 1) 原始的六脚類の形態学および発生学的研究
- 2) 生物教材の開発研究

将来はモデル生物を用いた疾患研究も行う予定である。

### Outline of Department

#### 1. Basic Life Science

To learn about medical science and health care, we work at basic biology including the origin of life, evolution, cellular compartments, genome, immunology, metabolism, and cancer. We also study an introduction to the most advanced science and technology.

#### 2. Parasite Biology and Phylogenetic Systematics

Primitive hexapods and the related animals are studied from the viewpoints of phylogenetic systematics based on their evolution, ecology, morphological and embryological characteristics. Moreover, we work at developing new model material used in biology education and practical experiments.

### Current Research Projects

- 1) Morphology and embryology of primitive hexapods
- 2) Development of model material used for education of biology

#### Future Research Project

Disease research using biological model systems

## 医化学講座 Department of Biomedical Chemistry

### 講座の概要

以下の4つを研究テーマとしている。

1. 天然高分子の化学修飾による高機能化  
血清タンパクの分離・精製への利用を目的とした、生体適合性の高い天然高分子（キチン、セルロース等）の化学修飾によるアフィニティ膜の開発。
2. 高分子ゲルの合成と薬物徐放性剤への応用  
インテリジェントマテリアルとしての生医学素材をめざした、刺激応答性高分子ゲルの合成と薬物徐放性剤への応用。
3. 生体触媒による有用物質の生産  
酵素や培養細胞などの生体触媒を利用した、有用物質の原料となるキラルシントンの合成。
4. 植物培養細胞による環境浄化  
植物培養細胞が行う反応を利用した、環境汚染物質の浄化。

### Outline of Department

1. Functionalization of natural polymers by chemical modification  
Chemical modification of natural polymers (chitin, cellulose, etc.) is widely investigated, focusing on the preparation of affinity membranes to separate serum proteins.
2. Preparation of polymer gels and their application to DDS  
The synthesis of stimuli-responsive polymer hydrogels and their application to self-controlled delivery devices are conducted in order to obtain biomedical materials.
3. Production of useful compounds by biocatalysts  
Production of chiral building blocks for organic synthesis is investigated using enzymes and cell cultures as biocatalysts.
4. Phytoremediation by plant cell cultures  
Biotransformation of environmentally toxic compounds by plant cell cultures is investigated from the viewpoint of pollution control.

## 生物物理学講座 Department of Biophysics

### 講座の概要

1. 核酸に関する動的挙動の研究  
多価イオンや蛋白質によるDNAおよびRNAの凝集構造変化の動的挙動を調べる。
2. リポソーム内およびリポソーム上における核酸の性質と遺伝子導入  
遺伝子導入の際に正電荷リポソームはよく用いられているが、このときDNAがどのような挙動を示すかは不明な点が多い。特に、DNAやRNAは負に帯電しているため、リポソーム表面に吸着した形でも存在する。この動的挙動を明らかにし、遺伝子導入効率を高める方法を開発する。
3. 医学系物理学実習における新しい実験課題の開発  
医学教育での物理学実習において医学と関連の深い新しい実験課題の開発を行う。

### Outline of Department

1. Study on the dynamic behavior of nucleic acids.  
The dynamic behavior of DNA and RNA condensation by multivalent cations or proteins is examined.
2. Property of the nucleic acids in/on liposomes and gene transfer  
The liposomes are used for the gene transfer, while physical and chemical properties of DNA have not been cleared yet. The polynucleotides such as DNA and RNA, are negatively charged in solution, so these molecules are likely adsorb to liposomes. We study dynamics of these molecules, and we shall develop efficient method of gene transfer.
3. Development of new experiment item for physics practice  
For the physics experiment in the medical education, new experiment item closely related to the medicine is developed.

## 分子病理学講座 Department of Molecular Pathology

### 悪性腫瘍の発症と進展に関わる分子機構の解明

症例研究を基盤とし、悪性腫瘍の発症と進展の分子機構を解明し、新しい診断法や治療法の開発につながる病因因子を特定することを研究目標とする。

- 1) 臓器癌の遺伝子異常の解明と責任遺伝子の同定  
マイクロアレイを用いた網羅的ゲノム解析によって臓器癌組織を直接解析して、病気の責任遺伝子の同定を目指している
- 2) 病因因子として同定された遺伝子の機能解析  
網羅的遺伝子解析によって同定された遺伝子の機能解析を行っている
- 3) 感染症と発癌の関連性の分子病理学的解析  
Helicobacter pylori感染症による胃癌発癌機構の分子病理学的解析を行っている

### Studies on molecular pathogenesis of human carcinomas

- 1) Identification of genes responsible for human carcinomas by genome-wide gene analysis
- 2) Analyses of molecular functions of genes identified
- 3) Carcinogenesis based on infectious diseases



## 微生物学講座 Department of Microbiology

### ウイルス・細菌感染における宿主応答とこれに基づく治療・予防戦略の研究

- 1) 狂犬病ウイルス感染の総合的研究  
日本国内で数少ない狂犬病研究施設として、狂犬病の感染と発症に関わるウイルス側と宿主側応答の解明を目指す。特に中枢神経系における病原性発現機構の解析、さらにこれにもとづく生物製剤、特に有効なワクチン戦略の評価やヒト型抗体製剤の開発を目指す。
- 2) 抗体医薬の研究と開発  
主に感染症をターゲットとしたヒト型抗体製剤の研究と開発
- 3) 成人T細胞性白血病ウイルス (HTLV-1) の病原性の解析、特にNF- $\kappa$ Bを介した発癌機構解明とその治療戦略
- 4) 新興感染症の分子疫学的研究  
狂犬病ウイルス、SFTSウイルス、デングウイルスなどを対象とした世界規模でのウイルス感染の分子疫学的研究

### Host-parasite relationship in microbial infection and development of therapeutic- and preventive-strategy

- 1) Systematic research of rabies infection as the core institute of Japan  
Emphases are placed on the interactions between rabies virus and the host, especially neuropathogenesis, immunity, prevention and therapeutic strategy. Effective vaccine and human therapeutic antibodies are also developing.
- 2) Antibody engineering and development of human antibodies target for infectious diseases
- 3) Pathogenesis of ATL through HTLV-1 infection, NF- $\kappa$ B activation by the oncoprotein Tax and its molecular targeting therapy.
- 4) Globally molecular epidemiology of viral infection (rabies, SFTS, dengue infections)

## 感染予防医学講座 Department of Infectious Disease Control

### 感染症および炎症性疾患の分子免疫学

当研究室では、感染防御に働く免疫システムの分子基盤とその破綻による炎症・アレルギー疾患の病態を分子レベルで解明し、その成果を病気の予防や治療に結びつけることを目標としています。具体的には、免疫機能に重要なシグナル伝達制御に関わる分子の遺伝子改変マウスを用いて、感染免疫を含む重要な生命現象を分子レベルから個体レベルまでにわたって広く解析し理解することを目指します。また、感染症の病原体、媒介動物および伝播に関する研究も分子レベルから野外における集団レベルまで様々な視点から進めています。

- 1) シグナル伝達制御の破綻と炎症性疾患の分子免疫学的研究
- 2) 病原体と宿主免疫応答の統合的研究  
～蚊とデングウイルス・ジカウイルス・チクングニアウイルス、リーシュマニア、トキソプラズマ、アニサキス等～

### Molecular Immunology of Infectious Diseases and Inflammatory Disorders

Our research goal is to understand the molecular mechanisms underlying protective immune responses against infection and inflammatory disorders caused by dysregulated immune responses. In particular, we focus on the roles of molecules involved in signal transduction in immune cells such as cytokine signaling and Toll-like receptor signaling using some genetically engineered mouse models. We also study on disease pathogens and their vectors to understand the molecular basis and infection dynamics.

- 1) Molecular immunology of inflammatory diseases caused by dysregulation of signal transduction in the immune cells.
- 2) Integrated studies on disease pathogens, vectors and host immune responses.  
- Mosquito and Dengue, Zika and Chikungunya viruses, Leishmania, Toxoplasma, Anisakis, etc.

## 薬理学講座 Department of Pharmacology

### 講座の概要

薬理学教室では、低分子量G蛋白質RhoやRabファミリーが関わる細胞骨格や細胞内小胞輸送の制御機構を解明し、細胞、器官、個体恒常性維持の分子基盤の理解を目指している。またその研究を通じ、RhoやRabファミリーの情報伝達経路と密接に関わる疾患（糖尿病や癌など）の分子基盤の理解、さらには新たな薬物ターゲットの同定を目指す。

- 1) インスリン顆粒のメンブレントラフィックを制御する新たな低分子量G蛋白質関連分子の同定
- 2) ガス性メッセンジャー硫化水素の膵β細胞における役割
- 3) 細胞骨格制御蛋白質の生理的・病態生理的役割の解析

### Outline of Department

In our Pharmacology Department, we are investigating the molecular mechanisms of homeostasis in cells, tissues, and body by dissecting the processes of cytoskeleton regulation and vesicle transport, which involve small GTPases, such as Rho and Rab. Based on these studies, our goal is to understand the molecular mechanisms of diseases, in particular type 2 diabetes mellitus and cancer, and to identify the novel drug targets.

- 1) Identification of a novel small G protein-related molecule which controls membrane traffic of the insulin granules.
- 2) Studies on the roles of hydrogen sulfide in the beta-cell.
- 3) Dissection of the physiological and pathophysiological roles of cytoskeleton regulatory proteins

## 公衆衛生・疫学講座 Department of Public Health and Epidemiology

### 講座の概要

世界保健機関は公衆衛生を「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である」と定義している。また、疫学は「特定の集団における健康に関連する状況あるいは事象の、分布あるいは規定因子に関する研究である」と国際疫学会により定義されている。当講座では主に疫学の手法を用いて公衆衛生の諸問題について基礎的研究を行っている。特に最近では、睡眠分野における集団的アプローチによる介入研究を含めた疫学研究を積極的に行っている。

### 主な研究内容

- 1) 日本人の睡眠習慣に関する疫学
- 2) 喫煙に関する疫学
- 3) 生活習慣病の発症予防活動の効果の解析
- 4) 産業保健における交替制勤務や夜間勤務に関する疫学
- 5) 日本の青少年の生活習慣に関する疫学

### Outline of Department

The World Health Organization defines Public Health as "The art and science dealing with the protection and improvement of community health by organized community effort and including preventive medicine and sanitary and social science". International epidemiological association defines Epidemiology as "The study of the distribution and determinants of health-related states or events in specified populations, and the application." Our department performs fundamental study on the problems of public health using the technique of epidemiology. Especially, we have been doing positively epidemiology research including the intervention study by the population approach in the sleep field recently.

### The main contents of research

- 1) Epidemiology of sleeping behavior among Japanese population.
- 2) Epidemiology of smoking.
- 3) Evaluation of the preventive measures against lifestyle-related diseases.
- 4) Epidemiology about the shift work and night work in industrial health
- 5) Epidemiology about lifestyle of Japanese Adolescents.

## 環境・予防医学講座 Department of Environmental and Preventive Medicine

### 講座の概要

ヘリコバクター・ピロリ菌は消化性潰瘍や、胃癌の原因と考えられているが、感染者すべてがこれらの疾患に罹患するわけではない。当講座ではこれらの謎を解明するため、ピロリ菌の病原因子に注目している。我々のグループは、2つの新しいピロリ菌の病原因子を発見、Outer Inflammatory Protein (OipA) および Duodenal Ulcer Promoting (DupA) と命名しており、これらの因子が疾患を引き起こすメカニズムを探求している。

さらにピロリ菌は、世界各国において遺伝子型が異なり、ピロリ菌の遺伝子型を解析・分類することによって、世界の諸民族がどのような経路をたどって移動してきたかを推測することができる。さらに疾患パターンの地域差についても遺伝子型の違いが大きな役割を果たしていると考えている。以上、当講座では最終的には、胃癌の撲滅を目指した研究を進めている。

### Outline of Department

Although *Helicobacter pylori* infection is etiologically involved in peptic ulcer and gastric cancer, only a fraction of those infected develop clinical disease. While this phenomenon remains unexplained, we focus on bacterial virulence factors. Our group discovered two novel virulence factors of *H. pylori* and designated outer inflammatory protein (OipA) and duodenal ulcer promoting (DupA). Currently, our group investigate the mechanisms how these factors induce gastroduodenal diseases.

*H. pylori* strains from different geographic areas exhibit clear phylogeographic differentiation; therefore the analyses of *H. pylori* genotypes can serve as markers for the migration of human populations. In addition, we propose that geographic differences in the incidence of various gastroduodenal diseases can be explained by differences between *H. pylori* strains. Overall, our group performs researches aim to elimination of gastric cancer.

## 法医学講座 Department of Forensic Medicine

### 講座の概要

DNA多型のうち、short tandem repeat (STR, 2～5塩基を繰り返し単位とする縦列反復配列) がメンデルの法則に従って親から子に遺伝するのに対し、ミトコンドリアDNA (mtDNA) は母から子へ母系遺伝する。現在、STRおよびmtDNAを使って親子鑑定と個人識別を行い、それらの有用性と問題点を検討している。

### Outline of Department

We are studying the utility and problems of short tandem repeat and mitochondrial DNA polymorphisms in paternity testing and personal identification.

## 医療倫理学講座 Department of Medical Ethics

### 講座の概要

医学科及び看護学科学学生が、将来医療に携わるにあたり必要とされる倫理観（職業倫理）の涵養を目標として教育を行う。また臨床における倫理的課題について自ら思考する能力の養成を目標とする。特に臨床研究における倫理については、歴史的背景から最新の考え方まで紹介する。

### 主な研究内容

- 1) 諸外国の倫理指針と臨床研究の現状及び今後の方向性についての研究
- 2) 臨床研究における被験者保護のあり方に関する研究

### Outline of Department

The department aims to cultivate the ability of thinking ethically for medical and nursing school students. It also sets the education of sorting out ethical concerns and making ethical decision by themselves as its goal. Clinical research ethics is one of the main themes of this department's education.

### Key Research Areas

- 1) Present situation and future perspectives of international ethical guidelines and clinical trials.
- 2) How to protect human rights of research subjects.

## 臨床社会心理学講座 Department of Social and Clinical Psychology

### 講座の概要

当講座では、患者中心の全人的医療の実現を目指して、以下のような心理学の研究教育を行っている。いずれも医学、医療、ケアと接点を有する、心理学の応用分野である。教育においては、心理学の基礎的な内容とともに、医学、医療、ケアに関連する問題にウエイトをおいて授業を進めている。こうした授業を通して、人間のこころや行動の理解、病者・患者の理解、対人コミュニケーションのスキル、さらに心理学的な視点や方法論などが学べるよう教授している。

### 主な研究内容

- 1) 対人援助職のバーンアウト(燃え尽き症候群)予防とメンタルヘルス
- 2) 職業性ストレスとソーシャルサポート
- 3) がん患者の不安・ストレスと心理的援助
- 4) 高齢者の精神的健康や心理的安寧におよぼす対人援助の分析
- 5) 認知症高齢者への心理療法的接近

### Outline of Department

In order to realize holistic medicine based on humanity, we research the following psychological themes, and teach psychological subjects for medicine and care. These themes of research and education are applied fields of psychology, which are related to medical science.

Especially in education, we teach basic contents of psychology, and problems relevant to medical treatment. Through such classes, students can learn human behavior and mentality, the understanding of being ill and being a patient, interpersonal communication skills, and moreover a point of view and methodology of psychology.

### Major Research Projects

- 1) Prevention of burnout and mental health of human service professionals.
- 2) Stress in the workplace and social support.
- 3) Cancer patient's stress and psychological supports.
- 4) Analysis of the influence of interpersonal support on the mental health and psychological well-being of the aged.
- 5) Psychotherapeutic approaches to the elderly with senile dementia.

## 医学英語教育学講座 Department of Medical English Education

### 講座の概要

医学は日々進歩しており、医療従事者は常に英文で書かれた最新の治療法や医療技術を習得することが求められている。また、医療現場においても、患者や医療スタッフと英語を用いてコミュニケーションを図る機会は拡充している。

本講座では、以下の3つを研究テーマとし、国際的に活躍しようとする医療人の育成およびその教育方法の研究・開発を行っている。

### 主な研究内容

- 1) 医学英語力評価
- 2) 医学英語教材開発
- 3) 専門家および非専門家のための医学英語の選定と教育

### Outline of Department

The field of medicine progresses day by day, and medical professionals should always learn the new methods or techniques of treatment of their generation through papers written in English. Moreover, more opportunities to communicate with medical staff and patients in English are opening up in the medical environment.

We are conducting research into medical English education as follows in order to train international medical professionals.

### Research Fields

- 1) Evaluating medical English proficiency.
- 2) Developing teaching materials for medical English.
- 3) Researching and teaching technical and communicative medical English.

# 臨床医学系講座

Department of Clinical Medicine

## 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座

Department of Endocrinology, Metabolism, Rheumatology and Nephrology

### 講座の概要

内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座は、内分泌糖尿病内科、膠原病内科、腎臓内科の3つのグループからなり、高血圧症、糖尿病、内分泌代謝疾患、膠原病、慢性腎臓病などの生活習慣病の診療とその病態生理や治療に関わる基礎研究を行っている。

### 内分泌糖尿病

- (1) メタボリックシンドロームにおけるミネラルコルチコイド受容体関連高血圧および臓器障害の解明
- (2) 視床下部神経ヒスタミンによる摂食およびエネルギー代謝調節機構の解明
- (3) 肥満糖尿病治療における行動療法の意義

### 膠原病

膠原病の病因究明と新しい治療法の開発

- (1) 生物学的製剤を使用したリウマチ性疾患の治療
- (2) SLEの難治性病態の新しいバイオマーカーと治療法の開発
- (3) 強皮症の新規治療法の開発

### 腎臓

- (1) 糖尿病性腎症の集学的治療に関する検討
- (2) IgA腎症の長期予後に関する臨床的および病理学的検討
- (3) 慢性腎臓病の病態および進展におけるアルドステロンの役割
- (4) 肥満関連腎症の病態および治療に関する臨床的検討
- (5) 尿毒症毒素の心血管疾患に及ぼす影響

### Outline of Department

Our department consists of three clinical groups, (1) Endocrinology, Diabetology and Metabolism, (2) Rheumatology, and (3) Nephrology. We try to offer medical care to patients with life style-related diseases, such as hypertension, diabetes, endocrine, collagen, and chronic kidney disease. We are also doing basic medical research to clarify pathogenesis and develop new treatment of the common diseases.

### Endocrinology, Diabetology and Metabolism

- (1) Research on the mineralocorticoid receptor-associated hypertension and its organ damage in metabolic syndrome
- (2) Research on the control mechanism for feeding and energy metabolism by hypothalamic neuronal histamine
- (3) The role of behavioral therapy for treatment of obese diabetes mellitus

### Rheumatology

Development of new treatments for autoimmune rheumatic diseases, and elucidation of the disease pathogenesis

- (1) Research on the treatment of rheumatic diseases with biologic agents
- (2) Development of novel biomarkers and treatments for serious organ damage and intractable clinical conditions in SLE
- (3) Development of new treatments for systemic sclerosis

### Nephrology

- (1) Research on multidisciplinary therapies for diabetic nephropathy
- (2) Clinical and pathological studies of long-term prognosis of IgA nephropathy
- (3) Role of aldosterone in the pathogenesis and progression of chronic kidney disease
- (4) Clinical study of pathogenesis and treatment for obesity-related kidney disease
- (5) Effects of uremic toxin on the cardiovascular diseases

## 呼吸器・感染症内科学講座

### Department of Respiratory Medicine and Infectious Diseases

#### 講座の概要

呼吸器・感染症内科学講座においては呼吸器、感染症の臨床研究及び基礎研究を行い、臨床に還元できるように以下のような研究課題に取り組んでいる。

- 1) 緑膿菌ワクチンの研究開発
- 2) 緑膿菌移動能の抑制による難治性感染症の制御
- 3) 分子生物学的手法および特異抗原物質検出による新しい肺炎診断方法の開発
- 4) 病原性微生物の薬剤耐性機序の解明
- 5) 肺の線維化機序解析と分子標的治療に関する研究
- 6) 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の病態と抗炎症薬の効果に関する研究
- 7) マクロライド系抗菌薬、スタチンの抗炎症作用のメカニズムに関する研究

#### Outline of Department

We carry out the clinical and basic research in the fields of respiratory medicine and infectious diseases, and our investigators make the studies about subjects as follows to contribute to clinical practices.

- 1) Development of vaccine for *Pseudomonas aeruginosa* infection.
- 2) Control of *Pseudomonas aeruginosa* infection by suppression of the bacterial motilities.
- 3) Development new clinical diagnostic method for pneumonia based on the molecular technique and the detections of specific antigens.
- 4) Elucidation of the drug-resistant mechanism of the microbiological pathogen.
- 5) Elucidation of the pathogenesis of pulmonary fibrosis to develop molecular-targeted therapy.
- 6) Elucidation of the pathophysiology of bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease and the effect of anti-inflammatory drugs for bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease.
- 7) Elucidation of the anti-inflammatory effect of macrolides or statins.

## 神経内科学講座 Department of Neurology

#### 講座の概要

神経内科では、脳梗塞、てんかん、脳炎、髄膜炎などの急性期疾患から、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、アルツハイマー病などの慢性疾患まで、様々な特徴をもった疾患を対象としています。高齢化社会に伴い問題となっている認知症においても、その適切な診断と治療に際しては神経診察が欠かせません。さらに、頭部MRI、脳血流SPECT、PET等の画像検査も鑑別診断に活用しています。

#### 主な研究内容

- 1) アルツハイマー病の超早期診断法と根本的治療薬の開発
- 2) 家族性アルツハイマー病を対象とした治験：DIAN-J研究
- 3) 脳血管障害の臨床病理学的研究
- 4) 神経筋疾患の病態解明と治療法の開発
- 5) 神経変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）の早期診断法の開発

#### Outline of Department

This Department performs the diagnosis and treatment of acute neurological disorders, such as ischemic stroke, epilepsy, encephalitis, and meningitis, and chronic neurological disorders, such as motor neuron disease, spinocerebellar degeneration, Parkinson disease, and Alzheimer disease. The neurological examination is most important for the diagnosis and treatment of neurological disorders, including dementia. Moreover, we use also the neuroimaging, such as MRI, brain perfusion SPECT, and PET.

#### Research Fields

- 1) Development of the early diagnostic methods and disease modifying therapy of Alzheimer disease
- 2) Clinical trials of familial Alzheimer disease (DIAN-J)
- 3) Clinicopathological study of ischemic stroke
- 4) Development of the early diagnostic methods of neurodegenerative disorders, including Parkinson disease and spinocerebellar degeneration



## 腫瘍・血液内科学講座 Department of Medical Oncology and Hematology

### 講座の概要

本講座は、固形がん（肺がん、食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆のうがん、膵臓がん、その他の呼吸器、消化器のがんなど）および再生不良性貧血や溶血性貧血などの各種貧血、血液悪性疾患（白血病、リンパ腫、骨髄腫、骨髄異形成症候群）、出血性疾患（血小板減少症、凝固線溶異常症）の診断と治療（抗がん剤、分子標的薬など）を行う部門である。我々の目標は、患者にとって最良の医療を提供すること、新しい有効な治療法を開発すること、さらに若い優秀な医師を育てこれを世に送り出すことである。

以下は腫瘍・血液内科学講座の教育の指導内容と主な研究内容である。

### 専門医育成のための指導内容

- 1) 薬物療法（抗がん剤、分子標的薬剤・ホルモン治療・抗体治療を含む）の習得
- 2) 同種造血細胞移植療法の習得
- 3) 各治療選択法の習得
- 4) 支持療法の習得
- 5) 薬理の理解
- 6) がん臨床研究の方法論の理解と実際
- 7) 基礎的研究の計画、実施

### 主な研究内容

- 1) 進行肺がん、消化器がんに対する効果的薬療法の開発
- 2) 造血幹細胞移植患者における移植後の種々の感染症の早期診断と治療に関する臨床研究
- 3) 遺伝子異常に基づいた新薬開発と個別化医療に関する研究

### Outline of Department

This Department performs the diagnosis and treatment (including treatment using anticancer agents and molecular-targeted drugs) of solid cancers (such as lung cancer, esophageal cancer, gastric cancer, colon cancer, liver cancer, gallbladder cancer, pancreatic cancer, and other respiratory and gastrointestinal cancers), anemia (aplastic anemia, hemolytic anemia), hematologic malignancies (leukemia, lymphoma, myeloma, myelodysplastic syndrome), and hemorrhagic diseases (thrombocytopenia, coagulopathy). The goals of this Department are to provide the best medical care for patients, develop new effective treatment methods, and nurture and produce the next generation of highly capable physicians.

The teaching contents and primary areas of research in the Department of Medical Oncology and Hematology are listed below.

### Teaching contents for nurturing specialists

- 1) Drug therapy (anticancer agents, including molecular-targeted drugs, hormone treatment, and antibody treatment)
- 2) Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation
- 3) Methods for selecting treatment
- 4) Supportive therapy
- 5) Pharmacology
- 6) Methodology and implementation of clinical cancer research
- 7) Planning and implementation of basic research

### Primary areas of research

- 1) Development of effective chemotherapy for advanced lung cancer and gastrointestinal cancer
- 2) Clinical research on early diagnosis and treatment of various post-transplant infections that occur in patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation.
- 3) Research on development of new drugs based on genetic abnormalities and personalized medicine



大学の風景～中庭～

## 循環器内科・臨床検査診断学講座

### Department of Cardiology and Clinical Examination

#### 講座の概要

循環器内科は、虚血性心疾患、高血圧、心不全、弁膜疾患、心筋症、不整脈ならびに先天性心疾患など心血管系疾患全般を対象とした診断と治療を行っている。当院は日本循環器学会専門医指定研修施設に認定されており、慢性疾患に対する精査加療から急性疾患に対する救急医療まで多岐にわたる専門的診療を行っている。日常の検査、治療は検査部、放射線部、手術部、救急部、ICUおよび心臓血管外科などとの緊密な連携のもとに行っている。担当する検査は生理学的検査、心臓核医学検査、心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、マルチスライスCT、心臓MRIなどであり循環器疾患全般に及ぶ。治療としては、薬物療法はもとより経皮的冠動脈インターベンション（PCI）、経静脈的僧帽弁交連裂開術、経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）心臓再同期療法ならびに植込み型除細動器などを県内の他施設に先駆けて導入しており、いずれも良好な成績をあげている。近年、循環器疾患の多くは生活習慣病の合併症として位置付けられており、この観点から、内分泌・糖尿病内科とも緊密に連携し、危険因子の精査加療にも積極的に取り組んでいる。

臨床検査診断学では、臨床検査部門の検体、微生物、生理検査部門を担当しており、日本臨床検査医学会認定研修施設に認定されている。特に12誘導心電図、ホルター心電図、負荷心電図、心臓超音波検査、経食道心臓超音波検査、頸動脈超音波検査等の循環器生理機能検査を重点的に実施しており、緊急検査の依頼にも対応している。スタッフの多くは循環器専門医であり、非観血的な検査を中心とした循環器内科検査部門とも言える。

本講座では臨床研究や基礎研究にもバランスよく力を入れており多くの大学院生が学位を取得している。臨床研究では虚血性心疾患、各種不整脈の病態、心機能（心室再同期療法とも関連して）、自律神経機能解析に関する研究を行っている。また最近では性差医療、生活習慣と動脈硬化の進行についての研究にも力を入れている。基礎研究として培養心筋細胞や動物モデルを用いた心房細動発症の機序と予防法の開発、虚血再灌流障害を軽減する心保護効果、糖尿病による心機能障害の病態解明に関する研究を行っている。これらの研究結果は学会や論文の形で発表している。

学生教育では医学部医学科学生、修士課程学生の講義を担当している。臨床実習では循環器内科学に関するレクチャー、病棟でのベッドサイド教育、外来、カテーテル検査・治療、ペースメーカー手術に関する実習を行っている。また、検査部において微生物、免疫血清、血液凝固、生理機能等の各部門において臨床と直結する実習を行っている。また漢方医学にも興味を持ち、学生教育や外来も行っている。

#### Outline of Department

We treat cardiovascular disease with the diagnosis that intended for ischemic heart disease, hypertension, heart failure, valvular diseases, cardiomyopathy, arrhythmia, and congenital heart diseases. This department is authorized by the Japanese Circulation Society designated specialist training institution, and holds advanced diagnosis and treatments for chronic heart diseases and emergency medical care for acute cardiovascular event. The diagnosis and treatment are usually performed in cooperation with other departments. The major diagnostic examinations are physiological examination, cardiac nuclear examination, cardiac catheterization, electrophysiology, MD-CT, cardiac MRI. In addition to medication, we perform percutaneous coronary intervention, percutaneous transvenous mitral commissurotomy, catheter ablation, cardiac resynchronization therapy, and implantable cardioverter defibrillator, and satisfactory results were obtained. Recently, many of cardiovascular diseases are recognized as a complication of lifestyle-related diseases. In this point of view, we have wrestled with the treatment of risk factors and background diseases of cardiovascular disease enthusiastically.

We are also in charge of clinical laboratory examinations which consist of blood biochemical and immunological examinations, microbiological examinations and physiological examinations. Most of the stuff in this department are cardiologist and mainly perform non-invasive physiological cardiovascular examinations, such as electrocardiogram (ECG), Holter ECG, stress ECG, echocardiogram, transesophageal echocardiogram and non-invasive study of carotid artery by echo-doppler. We are also ready for emergent examinations.

We are doing the clinical researches about ischemic heart disease, various types of arrhythmia, improvement of cardiac function by cardiac resynchronization therapy and functions of autonomic nervous system. We are also working on the projects about gender specific medicine and the life-style related progression of atherosclerosis. As basic researches, we are working on several projects including cardioprotective effects by chemicals against ischemia/reperfusion injury, molecular mechanisms of diabetic cardiomyopathy, and development of up-stream therapy for atrial fibrillation using cultured cardiomyocytes or animal models. The results of the researches were presented in the scientific meetings and publications. We are interested in traditional Chinese medicine and in charge of outpatient clinic.

We also attach importance to the education for medical students. We give lectures to the undergraduate medical students and students in master's course. And in the clinical training, the students have a chance to learn about microbiological examinations, immunological examinations, blood coagulation tests and physiological examinations.



## 消化器内科学講座 Department of Gastroenterology

### 講座の概要

本講座は、消化器内科学、消化器内視鏡学からなる。

### 主な研究内容

- 1) アジアにおける *Helicobacter pylori* 感染と胃癌との関連
- 2) カプセル内視鏡による NSAIDs と小腸病変の関連
- 3) 食道アカラシアの食道内圧の検討と内視鏡治療
- 4) *H. pylori* 感染および除菌による胃粘膜の炎症変化と胃粘膜の遺伝子発現の変化
- 5) *H. pylori* 除菌不成功例に対する再除菌法の確立
- 6) 炎症性腸疾患 (IBD) や肝・胆道系疾患における新しい感染症の感染診断
- 7) 膵・胆道疾患の早期診断と内視鏡的治療法
- 8) 分岐鎖アミノ酸の脂肪蓄積抑制効果のメカニズム解明
- 9) 脂肪性肝炎の病態における脾機能の関与
- 10) 肝癌の局所制御法の開発および肝発癌再発抑制因子の解明
- 11) 進行肝癌における部分的脾動脈塞栓療法支援化学療法の開発

現在、*H. pylori* 感染症は胃・十二指腸潰瘍の成因としてだけではなく、胃癌・胃 MALToma・特発性血小板減少性紫斑病と関連しているとされ、さらには動脈硬化など全身疾患への関連が強く示唆されている。また、他の *Helicobacter* 属に関する基礎的な研究から *Helicobacter pylori* 除菌法等の臨床的な研究、更には潰瘍性大腸炎に対する新たな治療法、カプセル内視鏡を用いた研究など幅広く基礎、臨床研究を国際的に行っている。

### Outline of Department

The Department of Gastroenterology consists of the Division of Gastroenterology, and Gastroenterological Endoscopy.

### Research Fields

- 1) Association of *Helicobacter pylori* infection and gastric cancer in Asia.
- 2) Association of NSAIDs and small intestinal diseases
- 3) Study of intra-esophageal pressure and endoscopic treatment for esophageal achalasia.
- 4) *Helicobacter pylori* infection: Pathogenesis of *H. pylori* in gastritis and gastric cancer.
- 5) Re-treatment for *H. pylori* eradication failure.
- 6) Etiology of inflammatory bowel disease, possibility of infectious diseases.
- 7) Early diagnosis and endoscopic treatment of pancreatico-choledochal diseases.
- 8) Involvement of effects of the branched-chain amino acid on fatty liver.
- 9) Study on effect of splenic function under conditions of steatohepatitis.
- 10) Development of local treatment of HCC and clarification of factor to reduce recurrent HCC.
- 11) Development of partial splenic artery embolization with chemotherapy in advanced HCC.

*H. pylori* is not only associated with peptic ulcer but also gastric carcinoma, gastric MALToma and thrombocytopenic purpura and may be associated with some general diseases such as atherosclerosis. Our research covers from clinical to basic areas of *Helicobacter* species, inflammatory bowel diseases, and endoscopic studies etc.

## 精神神経医学講座 Department of Neuropsychiatry

### 講座の概要

残念ながら精神疾患や精神医療に対する偏見はいまだ根深いものがあり、精神疾患の早期介入における大きな支障となっている。精神疾患の病因を解明し、その治療法を確立することは、患者への直接的な利益となるのみならず、このような偏見を払しょくするために重要と考えられる。このような観点から、当講座においては精神疾患を心理学的・社会的・生物学的な視点から総合的に検討しつつ、脳科学としての精神医学と心の臨床科としての精神科をうまく融合させる方向で研究を行っている。

### 主な研究内容

- 1) 精神疾患を生活習慣の視点から捉え直す研究
- 2) リチウム療法に関する研究
- 3) 気分障害に関する研究
- 4) 不安障害に関する研究
- 5) 自殺対策に関する研究
- 6) 難治性精神疾患に関する研究

### Outline of Department

Regrettably, prejudice against psychiatric illnesses and treatment still makes obstacles for reaching early intervention. It is very important to clarify etiology and to establish treatment, and thereby psychiatric patients can receive direct benefits while prejudice can be eliminated. From such point of view, we comprehensively investigate psychiatric illnesses from the psycho-social-biological viewpoint while well harmonizing neuroscience and mental health.

### Research Fields

- 1) Psychiatric illnesses as lifestyle-related illnesses
- 2) Lithium therapy
- 3) Mood Disorders
- 4) Anxiety Disorders
- 5) Suicide prevention
- 6) Treatment-resistant psychiatric illness

## 小児科学講座 Department of Pediatrics

### 講座の概要

小児科学講座では、小児期の幅広い専門領域（神経疾患、血液・腫瘍性疾患、内分泌疾患・先天代謝異常症、アレルギー・免疫性疾患、感染症、循環器疾患、腎臓疾患、未熟児・新生児疾患、児童精神など）に関する臨床研究ならびに病因と病態に関わる基礎研究を行っている。

### 主な研究内容

- 1) 小児内分泌疾患・先天性代謝異常症の分子遺伝学的解析
- 2) 小児がん経験者における晩期合併症の発症予防とその基礎病態
- 3) 川崎病、アレルギー疾患、膠原病の基礎病態の解析
- 4) 新生児自発運動による神経発達評価
- 5) 脳波と心拍変動を用いたてんかんの病態生理学的研究
- 6) 神経疾患児童における認知的特性に関する児童精神医学的研究
- 7) 重症心身障害児者における糸球体機能および尿管機能に関する臨床的検討
- 8) チアノーゼ性先天性心疾患患者の認知機能の検討

### Outline of Department

In the department of Pediatrics, we perform clinical and basic research on a wide range of specialized fields; Neurology, Hematology/Oncology, Nephrology, Endocrinology, Inborn errors of metabolism, Allergies, Immunodeficiency, Autoimmunity, Infectious diseases, Cardiology, Neonatology and Psychiatry for infants, children and adolescents.

### Research Fields

- 1) Molecular and genetic analysis of pediatric endocrine diseases and inborn errors of metabolism.
- 2) Basic and pathophysiological analysis of late effects in childhood cancer survivors.
- 3) Analysis of the basic pathogenesis of Kawasaki disease, allergic diseases and collagen diseases.
- 4) Neuro-developmental assessment from neonatal spontaneous movements.
- 5) Pathophysiological research of epilepsy based on electroencephalography and heart rate variability.
- 6) Research from the aspects of child psychiatry about the cognition of children with neurological diseases.
- 7) Clinical research of renal glomerular and tubular functions in severely-retarded children.
- 8) Clinical research of cognitive function in patients with cyanotic congenital heart disease.

## 放射線医学講座 Department of Radiology

### 講座の概要

当講座は、超音波・CT・MRI・血管造影・核医学検査（PET-CTを含む）などの当院外来および入院にて行われる全ての画像診断と、高エネルギーX線や電子線などを用いた放射線治療、さらに低侵襲治療の主をなすInterventional Radiology (IVR)を日常臨床として担当している。放射線科病床は4床あり、肝細胞癌等のIVR目的の患者が大多数を占める。全身の画像診断および低侵襲治療を行う当講座の特徴上、研究テーマは多岐にわたるが、動脈瘤等血管系疾患の血管内治療、肝癌・膵癌に対する選択的動注療法を含めた化学療法確立、そしてCT・MRI画像と悪性腫瘍の分子生物学的・組織学的構築との関連の解明に主眼を置いている。

### Outline of Department

The clinical work of our department includes radiological diagnosis, such as ultrasound, CT, MRI, angiography, and nuclear medicine including PET-CT, radiation therapy and interventional radiology (IVR). We have 4 beds for in-patients who must undergo IVR.

Our research deals with radiological diagnosis of disease of whole organs and minimally invasive therapy. Emphasis is placed on the endovascular catheter treatment for the vascular diseases, such as cerebral aneurysms, the establishment of standard chemotherapy, including a selective Transarterial method for hepatocellular carcinomas or pancreatic carcinomas, and the clarification of the relationship between CT/MRI images and the molecular biology/histopathology of malignant tumors.

## 臨床薬理学講座 Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics

### 講座の概要

臨床薬理学は、ヒトにおける薬物の効果を研究する学問である。当講座では、臨床薬理学領域の様々な研究を行っており、それは臨床薬理遺伝学、臨床薬物動態学、薬力学、濃度効果関係モデリング、薬物代謝学、薬物トランスポーター、特殊集団の要因（年齢、肝および腎機能障害など）にまで及ぶ。研究室では、分子薬理学的手法など先端的技术を用い、ヒトにおける薬物の働きについての研究を行う。ヒトを対象とした研究のために、附属病院内に専用の臨床試験ユニットがあり使用可能である。このユニットでは、医薬品開発に関わる研究を含む様々な臨床試験が実施される。このような研究のために、多くの臨床研究の経験があるスタッフだけでなく、患者ケアにも精通したスタッフも有する。これらの研究を通して、我々はより良い医薬品開発と薬物治療の個別化（テーラーメイド医療）を目指している。

### Outline of Department

Clinical pharmacology is often defined as a discipline to study the effects of drugs in humans. Investigators in this department focus on many aspects of clinical pharmacology, including pharmacogenetics pharmacokinetics and pharmacodynamics, kinetic-dynamic modeling, pathways of drug metabolism, drug transporters and special population factors (including development and aging, gender, renal and liver dysfunction etc). The laboratories in this area use advances in molecular pharmacology and other basic science techniques to further the understanding of how drugs work in man. We have access to the clinical trial unit and staff of the Oita University Hospital. Various clinical studies including clinical trials for drug development are conducted in this unit. The members of Clinical Pharmacology have decades of experience in clinical research and drug development, as well as in the care of patients with complex medication regimens. By promoting these research activities, we aim to develop more effective and safer drugs, and to contribute the establishment of personalized ("Tailor-Made") Medicine.



大学の風景～グラウンド～

## 消化器・小児外科学講座

### Department of Gastroenterological and Pediatric Surgery

#### 講座の概要

消化器外科・小児外科に関して、腫瘍学・侵襲学・免疫学・病理学・生理学・分子生物学など各分野にfocusを当て、実際の手術組織・培養細胞・動物モデルを用いて基礎研究を展開している。また、クリニカルクエスチョンに対して本講座が中心となって他施設共同臨床試験をすすめている。消化管・小児外科グループと肝胆膵・肥満グループの2つの柱で研究をすすめている。

#### 【消化管・小児外科グループ】

食道癌・胃癌・大腸癌など悪性腫瘍の治療や炎症性腸疾患および急性腹症などの救急患者の病態解明と新しい治療法の開発を行っている。基礎研究の柱は、①外科腫瘍学に基づいた新しい治療法の開発と個別化、②低侵襲性治療法の標準化とデバイスの開発、③炎症制御の新規治療法の確立である。ロボット手術 (da Vinci) や NOTES など低侵襲手術を積極的に導入し、世界に発信しうる手術手技 RCT や産学官連携プロジェクトによるデバイスの開発も推進している。

#### 【肝胆膵・肥満グループ】

肝癌の集学的治療に関する基礎実験、肝疾患と微小血流変化の解析、膵癌の分子生物学的研究、CO<sub>2</sub>気腹が生体や腫瘍に与える影響など、専門性の高いテーマに積極的にアプローチしている。さらに高度肥満に対する内視鏡下治療 (胃内バルーン留置術・腹腔鏡下胃バンディング術・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術) の基礎研究に取り組んでいる。

#### 【各グループの具体的研究テーマ】

- 1) 腹腔鏡下手術の生体および癌の発育・進展に及ぼす影響
- 2) 消化器癌に対する腹腔鏡下手術の根治性に関するEBMの確立
- 3) 高感度レクチンアレイを用いた消化器癌の糖鎖プロファイリング
- 4) 新規抗酸化剤を用いたラジカルスカベンジ作用に基づく癌・炎症に対する治療法の開発
- 5) 炎症に対する新しい光線療法の開発
- 6) マイクロアレイを用いた消化器癌の感受性予測に関する研究
- 7) 内視鏡的粘膜下層剥離術時に用いる新規粘膜下注入材の開発
- 8) 新しい創傷被覆材の開発
- 9) 肝胆膵領域における $\alpha$ リポ酸誘導体の効果に関する基礎研究
- 10) 肝胆膵悪性腫瘍の分子生物学的解析と新しい治療法の開発
- 11) 肥満外科手術に関する基礎研究

#### Outline of Department

The basic research for gastric and intestinal cancers includes clinicopathologic analysis of resected specimens, and the influence of surgical stress on intraabdominal host immunity, especially the effect of laparoscopic manipulation on the growth of cancer cells. We have conducted multicenter prospective clinical trials to establish evidences for our clinical questions. We carry out robotic surgery for cancer or NOTES (Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery) as minimally invasive treatments. In the field of hepato-biliary-pancreatic research, experimental studies for multidisciplinary therapy of liver cancer, analysis of hepatic microcirculation, molecular biological studies of pancreas cancer, and animal experiments on gastric mucosal injury associated with portal hypertension are practiced. In addition, clinical and basic researches of bariatric surgery are developed.

- 1) Effects of laparoscopic surgery for host and oncological behavior.
- 2) Establishment of EBM for oncological outcome of laparoscopic surgery in digestive malignancies.
- 3) Glycoprotein profiling for gastroenterological cancer using lectin microarray system.
- 4) Development of treatments for cancer and inflammation based on the radical scavenging effect using a novel derivative of the multifunctional anti-oxidant.
- 5) Development of a novel light therapy on inflammatory disease.
- 6) Research on susceptibility prediction of the gastrointestinal carcinoma using microarrays.
- 7) Usefulness of sodium alginate as an endoscopic submucosal injectant.
- 8) Development of new wound dressing material.
- 9) The basic research on the effects of  $\alpha$  liponic acid derivative in hepato-biliary-pancreatic region.
- 10) A molecular analyses and the development of new treatment for hepato-biliary malignancies.
- 11) A basic researches of bariatric surgery for morbidly obese patients.

## 呼吸器・乳腺外科学講座 Department of Thoracic and Breast Surgery

### 講座の概要

呼吸器，縦隔，胸壁および乳腺疾患に関する臨床研究と，悪性腫瘍についてのトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）とを推進している。肺癌，中皮腫，乳癌などの悪性腫瘍について，癌発生と進展に関する遺伝子学的解析，標的分子解析を中心に，新たな癌治療法の確立を推進している。

#### A) 臨床研究

- 1) 鏡視下手術およびロボット手術に関する研究
- 2) エビデンス構築のための臨床試験の企画と推進
- 3) 肺癌および胸膜中皮腫に対する集学的治療の確立

#### B) トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）

- 1) 発癌に関与する標的分子の解析と分子標的治療に関する研究
- 2) 分子標的治療の耐性の解明
- 3) 微小癌の発生要因と予後規定因子に関する研究
- 4) 癌のheterogeneityの解析
- 5) 癌の免疫チェックポイント機構に関する研究
- 6) 癌幹細胞の解析

### Outline of Department

The main subjects of our research are malignant thoracic tumors occurred in lung, mediastinum, chest wall and breast, which are developed as clinical research and translational research, including genetic and epigenetic analyses. Our purpose is establishment of new strategy for cancer treatment.

#### A) Clinical Research

- 1) New technique for video-assisted thoracic surgery and robotic surgery
- 2) Establishment of new evidence for cancer therapy by clinical trials
- 3) Establishment of trimodality therapy for lung cancer and malignant pleural mesothelioma

#### B) Translational Research

- 1) Molecular targeted therapy
- 2) Mechanisms of acquired resistance during molecular targeted therapy
- 3) Oncogenesis and prognostic factors in small-sized cancer
- 4) Cancer heterogeneity
- 5) Analysis of immune checkpoint mechanism
- 6) Analysis of cancer stem cell

## 心臓血管外科学講座 Department of Cardiovascular Surgery

### 講座の概要

本講座は心臓，大血管，末梢血管疾患に対する手術を中心とした治療を実践し，その発展に寄与するべく臨床・基礎両面からの研究を行っている。弁膜症，虚血性心疾患，大動脈疾患で県内外からの豊富な症例を低侵襲化を目指す最先端技術の開発・実践し，また多くの緊急患者の受け入れで救急医療面でも地域医療を支えながら，学生，研修医の救急手技の教育をも行っている。具体的には狭心症の人工心肺を用いないバイパス手術，開胸を行わず大動脈瘤を治すステントグラフト治療，人工弁を用いない弁形成術，外科的不整脈治療などを他施設より高い頻度で行っている。研究においても術後不整脈の発生原因究明とその治療法の開発，長期使用に耐えうる補助人工心臓の開発（すでに短期使用機は市販化），世界初の慢性解離性大動脈瘤のステントグラフトを用いた低侵襲治療法の開発など結果をすぐに臨床に還元できるテーマに取り組んでいる。海外研究施設との共同研究も多い。

### Outline of Department

Department of Cardiovascular Surgery undertakes surgical therapy for cardiovascular disease in aspects of both clinical work and basic research. For many patients coming from in- and outside of this prefecture we carry out newly developed less invasive technology such as off-pump coronary artery bypass grafting for ischemic heart disease, stentgrafting for aortic aneurysm and valve-plasty for valvular disease. We investigate causes of postoperative arrhythmia and develop a new artificial heart for long use (one for short use has been already on commercial base). We have a great interest in treatment of aortic aneurysms, seeking a new less invasive therapy for elderly patients.

## 脳神経外科学講座 Department of Neurosurgery

### 講座の概要

1. 脳虚血・脳腫瘍の分子生物学と遺伝子治療
2. 神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発
3. 神経機能再建（科学技術振興機構JST育成研究助成採択事業）
4. 生体磁気工学的脳機能イメージング法の開発
5. 非侵襲的熱ショックタンパク誘導による中枢神経保護
6. 分子脳神経外科学の基礎研究
7. 痛み・てんかん・パーキンソン病・意識障害の外科治療

### Outline of Department

1. Molecular biology and gene therapy of cerebral ischemia and brain tumors
2. Pathophysiology and treatment of neurotrauma
3. Neuronal reconstruction (Japan Science and Technology Agency: JST grant)
4. Human brain mapping with bio-magnetic technology
5. Neuroprotection with non-invasive heat shock protein induction
6. Basic studies of molecular neurosurgery
7. Functional neurosurgery (central pain, epilepsy, Parkinson's disease and consciousness disturbance)

## 整形外科科学講座 Department of Orthopaedic Surgery

### 講座の概要

- 1) 変形性関節症・関節リウマチ・脊椎疾患・骨腫瘍における骨・関節破壊の病態解明
- 2) 運動器疾患のbiomechanicsの解析
- 3) コンピューターシミュレーションや有限要素法による運動器の解析
- 4) 骨軟部腫瘍の病理組織学的・分子生物学的研究
- 5) 骨軟部腫瘍に対する標準治療の開発
- 6) 厚生労働省 特発性大腿骨頭壊死症研究班の活動
- 7) 人工関節の固定性におけるデザインの影響
- 8) 脊椎手術や骨折等における骨癒合促進因子の検討
- 9) 骨折治癒に対する各種薬剤の影響
- 10) 同種骨移植の病理組織像と強度に関する研究

### Outline of Department

- 1) Study of the mechanism for pathological bone resorption in rheumatic disease (osteoarthritis, rheumatoid arthritis, spondylitis) and bone tumor.
- 2) Analysis and clinical application of biomechanics in locomotor disease.
- 3) Computer simulation study and finite element analysis of locomotive organ.
- 4) Pathological and molecular biological studies of bone and soft tissue tumor.
- 5) Establishment of new standard therapy for bone and soft tissue tumor.
- 6) Activity in the research committee on the idiopathic osteonecrosis of the femoral head.
- 7) Mechanical influence of implant design on bone-implant fixation.
- 8) Exploration of the enhancing factor of bone union in spinal fusion and fracture healing.
- 9) Effect of medicines (bisphosphonate, COX-2 inhibitor) on bone remodeling in fracture healing.
- 10) Study of mechanical strength and incorporation process in allo-bone transplantation.

## 皮膚科学講座 Department of Dermatology

### 講座の概要

1. アトピー性皮膚炎の病態と治療について研究している。
  - 1) アレルギー性炎症と皮膚バリア機能異常との相互関係
  - 2) アトピー性皮膚炎の病態におけるリポセンサー異常の関与
  - 3) アトピー性皮膚炎の病態におけるフィラグリン異常の役割
  - 4) アトピー性皮膚炎の病態における角層pH異常の役割
2. 同種異系間での皮膚、脂肪、筋膜からなる複合組織移植後の免疫拒絶反応に及ぼす因子やラットを用いた顔面神経麻痺モデルの作成 について研究を行っている。
3. 大分県における皮膚がん実態調査  
2000 - 2004年度姫島村、直入町での皮膚がん検診に引き続き、2006年度から由布市と別府市、大分市などで皮膚がん検診を行ない悪性黒色腫などを早期発見している。

### Outline of Department

1. Pathogenesis of atopic dermatitis is investigated to develop novel therapeutic strategies accounting for both allergic inflammation and barrier dysfunction.
  - 1) Interaction between allergic inflammation and barrier dysfunction.
  - 2) Involvement of abnormality of liposensors on the pathogenesis of atopic dermatitis.
  - 3) Role of filaggrin deficiency on the pathogenesis of atopic dermatitis.
  - 4) Involvement of abnormality of stratum corneum pH on the pathogenesis of atopic dermatitis.
2. Rejection mechanisms after composite skin grafts using skin and animal model of facial palsy using rats are investigated.
3. Activities for detection of early cancer through skin cancer screening in Oita prefecture are employed so as to establish and consolidate preventive measures against cancer.

## 腎泌尿器外科学講座 Department of Urology

### 講座の概要

基礎研究では、主に尿路性器悪性腫瘍および下部尿路機能の病態解明に関する研究を行っている。臨床研究では内視鏡手術を中心として低侵襲治療の開発を行っている。

- 1) 腎癌のゲノム異常
- 2) 前立腺癌の去勢抵抗性獲得機序
- 3) 外尿道括約筋再生療法の開発
- 4) 加齢に伴う膀胱機能異常の病態解明
- 5) 泌尿器科疾患に対する新規内視鏡手術の開発

### Outline of Department

Basic research is conducted on the pathophysiology of genitourinary cancer and lower urinary tract function. The main theme of clinical research is development of minimally invasive treatment, especially regarding endoscopic and laparoscopic surgeries.

- 1) Genomic aberration of renal cell carcinoma.
- 2) Mechanism of castration resistance in prostate cancer.
- 3) Development of regenerative therapy of external urethral sphincter.
- 4) To clarify the pathophysiology of urinary bladder dysfunction in the elderly.
- 5) Development of new endoscopic surgeries for urinary diseases.

## 眼科学講座 Department of Ophthalmology

### 講座の概要

緑内障と網膜硝子体疾患の病態生理、診断、治療を主な研究テーマとしている。現在進行している研究テーマは以下の通り。

- 1) 緑内障の病態の解明
- 2) 病態に基づいた緑内障の治療法の開発
- 3) 糖尿病網膜症や加齢黄斑変性を代表とする網膜硝子体疾患の分野に関して、病態の解明を電気生理学、形態学、分子生物学的手法を使って進める。
- 4) より安全な網膜硝子体手術を行う為に、手術補助剤や手術と併用する薬物療法についての研究。

### Outline of Department

The main subjects of our research are glaucoma and vitreo-retinal diseases including their pathophysiology, diagnosis and treatment.

Current topics are as follows:

- 1) Elucidation of pathophysiology of glaucoma
- 2) Development of new treatments for glaucoma based on its pathophysiology
- 3) Elucidation of pathophysiology of vitreo-retinal diseases such as diabetic retinopathy and age-related macular degeneration with techniques of electrophysiology, morphology and molecular biology
- 4) Development of surgical adjuncts for safe vitrectomy

## 耳鼻咽喉科学講座 Department of Otorhinolaryngology & Head and Neck Surgery

### 講座の概要

当教室では鼻・中耳を含む上気道粘膜における免疫機構の解明に向けた研究を組織学的、免疫学的、分子生物学的手法を用いて行っている。

- 1) 口蓋扁桃、アデノイドあるいは齧歯類にみられる nasal-associated lymphoreticular tissue (NALT) の粘膜免疫誘導組織としての役割に関する研究
- 2) 実験中耳炎モデルを用いた中耳粘膜免疫機構の解析
- 3) 経鼻免疫による中耳炎ワクチン開発のための基礎実験
- 4) 頭頸部癌の新しい治療法開発のための基礎的研究
- 5) アレルギー性鼻炎の中耳炎や副鼻腔炎への影響に関する研究

### Outline of Department

We perform research to clarify the immunological mechanism of the upper respiratory tract, including the nose, and the middle ear. Histology, immunology, and molecular biology techniques are applied in our investigations described below.

- 1) Studies on the role of human tonsils and adenoids, as well as nasal-associated lymphoreticular tissues (NALT) as an inductive site of the mucosal immune system.
- 2) Analysis of the middle ear mucosal immune system by employing experimental otitis media models.
- 3) Studies to develop intranasal vaccine for the prevention of otitis media.
- 4) Experimental research for new treatments of head and neck cancer.
- 5) Studies on the influence of allergic rhinitis to otitis media and sinusitis.

## 産科婦人科学講座 Department of Obstetrics and Gynecology

### 講座の概要

婦人科腫瘍・内分泌学に関する基礎的・臨床的研究。

- 1) 子宮内膜症の病態に関する研究。
- 2) 排卵・受精・着床・陣痛発来メカニズムに関する研究。
- 3) Assisted reproductive technologyによる不妊治療に関する研究。
- 4) 妊娠高血圧症候群の病態に関する研究。

### Outline of Department

Experimental and clinical research of gynecologic oncology, reproductive endocrinology and perinatology.

- 1) Research of pathogenesis of endometriosis.
- 2) Mechanism of ovulation, fertilization, implantation, and parturition in humans.
- 3) Treatment of infertile patients with assisted reproductive technology.
- 4) Research of pathogenesis of pregnancy-induced hypertension.

## 麻酔科学講座 Department of Anesthesiology and Intensive Care Medicine

### 講座の概要

侵襲に対する生体防御機構の研究

- 1) 超音波エコーを用いた各種薬剤・病態における臓器血流の研究。
- 2) 手術侵襲・敗血症・ショック等の侵襲度のサイトカイン・内分泌反応の研究。
- 3) 臓器障害モデルを用いた熱ショックタンパク質を中心とする細胞防御機構の細胞・遺伝子レベルにおける研究。
- 4) 電子スピン共鳴装置を用いた酸化ストレスのリアルタイム・モニタリング法の確立、治療への応用（敗血症、胎児仮死、多発外傷など）
- 5) 疼痛モデルによる疼痛機序・制御の研究。

### Outline of Department

Host defense mechanisms against several stresses.

- 1) Evaluation of vital organ blood flow using ultrasonography with several drugs, and clinical states.
- 2) Evaluation of surgical, septic and shock stresses with cytokine and endocrine responses.
- 3) Protective mechanisms of heat shock protein in several clinical and experimental models related to acute organ dysfunctions using molecular cloning.
- 4) Real-Time monitoring method by using electron spin resonance spectroscopy to evaluate the levels of oxidative stress in various diseases such as sepsis, fetal distress or multiple trauma.
- 5) The effects of several drugs on experimental neuropathic pain models.

## 救急医学講座 Department of Emergency Medicine

### 講座の概要

病院前を含めた救命救急医療高度化の研究

救命救急医療においては、内因性（心肺機能停止、急性心筋梗塞など重症循環器疾患、脳卒中、その他）と外因性（外傷・熱傷、中毒等）の様々な救急疾患に対して、各種ガイドライン等に従い標準化された急性期医療を各種医療者が迅速・的確に行い、専門的治療との効果的な連携をはかる必要がある。これらの救急医療標準化の教育および実践のために各種救急標準化コース（BLS, ACLS, JPTEC, JATEC等）の実施および内容の教育とともに、その効果的な教育方法を研究している。また、救急医療に関連して、病院前医療におけるメディカルコントロール、地域における効果的な救急医療システム、災害医療、急性肺塞栓症など循環器救急や各種重症救急患者に対するクリティカル・ケアなどの研究を行っている。

### Outline of Department

Study of emergency and critical care medicine including prehospital care.

For effective emergency and critical care, each health care provider should perform standardized acute care for emergency patients due to several internal and external causes followed specialized therapies. We have held several standardized emergency medical training courses (ex. BLS, ACLS, ATLS) and studied these effective educational methods. Also we have studied the medical control on prehospital care, the local emergency medical system, the simulation training on disaster medicine, critical care medicine.





## 歯科口腔外科学講座 Department of Oral and Maxillofacial Surgery

### 講座の概要

- 1) 口腔がん：口腔扁平上皮癌の浸潤・転移機序を、がん細胞と細胞外マトリックスの相互作用、細胞接着因子と増殖因子の関わりについての研究。
- 2) 口唇・口蓋裂：顎発育に影響の少ない口蓋形成術改良の研究。
- 3) 口腔前癌病変：口腔白板症のがん化に関わる遺伝子群に関する研究。
- 4) 顎骨再建：再生医療技術を応用した培養骨の作製とそれを用いた顎骨再建を目指した研究。
- 5) 顎変形症：外科矯正術後の長期的咬合安定性に関する研究。

### Outline of Department

- 1) Oral cancer: Our aim of oral cancer research is to understand the involvement of cancer cell-extracellular matrix (ECM) interaction in the invasion and metastasis of oral squamous carcinoma cells. We search adhesion molecules and growth factors affecting and modulating the cell-ECM interaction.
- 2) Cleft lip and palate: Development of modified palatoplasty with minimal adverse effect on the growth of maxillary bone.
- 3) Precancerous lesions: Genomic background of malignant transformation of oral leukoplakia.
- 4) Mandibular reconstruction: Preliminary study aiming mandibular reconstruction with cultured bone tissue, which was prepared by bioengineering technique.
- 5) Maxillo-facial deformity: Long-term stabilization of the occlusion following the orthognathic surgery.



## 診断病理学講座 Department of Diagnostic Pathology

### 診断病理学的手法を用いた臨床病理学的研究

日常の病理診断業務で経験した興味ある疾患の臨床病理学的研究および病理診断に役立つ新しい方法・技術の開発を行っている。また、皮膚・唾液腺・乳腺腫瘍では、遺伝子異常と腫瘍発生・進展に関する研究も行っている。更に、迅速かつ正確な病理診断が求められる医療の中で、臨床の要求に対応できる病理医の育成も医育機関の重要な使命と考え、「病院病理医（病理専門医）の育成」を教室の目標に掲げている。

- 1) 種々の疾患の臨床病理学的研究
- 2) 新しい診断技術の開発
- 3) 皮膚腫瘍、唾液腺腫瘍、乳腺腫瘍における遺伝子異常の解析
- 4) 診断病理医の育成

### Clinicopathologic study by means of morphology, immunohistochemistry and genetic analysis

We perform a clinicopathologic investigation of various diseases, and develop new ancillary techniques for a pathologic diagnosis. In tumors of the skin, salivary gland and breast, we study a correlation between genetic abnormalities and tumorigenesis. We also aim to create professionals in diagnostic pathology.

- 1) Clinicopathologic study of various diseases
- 2) Development of new techniques for diagnostic pathology
- 3) Genetic analyses of tumors of the skin, salivary gland and breast
- 4) Bringing up pathologists

## 医療情報学講座 Department of Medical Informatics

### 講座の概要

本院で使用されている病院情報管理システム（BUNGO；電子カルテ）の設計，導入，運用管理を担当している。設計，導入に当たっては，関係する病院職員とシステムベンダの間に入って意見調整を行い院内の運用の変更も含めたシステム化を図っている。サーバの三重化，電源の二重化などさまざまな対応をとって病院情報システムが停止することのないよう努めている。病院職員に対し新しいシステムの説明や研修，情報セキュリティや個人情報保護の研修を，学部学生に対しコンピュータリテラシーの実習，病院情報システムの概要，情報セキュリティ，個人情報保護，放射線画像処理，臨床実習前学生や新任の研修医や看護師に対し病院情報システムの概要と利用上の注意事項についてオリエンテーションを行っている。病院情報システムを診療現場が使いやすい形で，また病院経営上効果的に導入するために，最新のIT技術の動向，標準化の動向，厚生労働省や電子政府の動向などの調査研究を行っている。情報セキュリティについても最新情報の収集を行い，情報漏えいや不正アクセスの侵入が起きることがないように努力している。また胸部単純X線における早期肺がん陰影の検出能を向上させるために卒後臨床研修医，県内放射線技師を対象に4回の講義を実施し，効果について数値的評価を行なっている。

### Outline of Department

We cover the development, the introduction and the management of the integrated hospital information system of the university hospital (BUNGO). The BUNGO is developed in cooperation with many hospital personnel. Many devices are structured to prevent the stop of the BUNGO. The presentation and training of the fresh system, the information security and the protection of personal identified information to the staff in the hospital, the outline of the BUNGO, the information security, and the personal identified information to the medical students, the outline and cautious points of the BUNGO to the students of clinical clerkship are lectured. The current information of the information technology, the standardization, the government and the information security management system is researched. We evaluate the ability of physicians (pulmonologists and non-pulmonologists), interns and radiological technicians to detect lung cancer nodules on chest radiographs before and after four training programs.

## 薬剤学講座 Department of Pharmacy

### 講座の概要

薬剤部は臨床薬剤師で構成されており，臨床薬学的研究が行われている。臨床薬理学に関する研究や，特殊製剤による医薬品の新規投与法の開発などがテーマとなっている。薬剤部の日常業務では，therapeutic drug monitoring (TDM) が行われている。臨床薬理学に関する研究では，薬物代謝酵素の遺伝子多型解析，抗菌薬の薬物動態/薬力学解析および生体内の生理活性ペプチドを指標とする薬効解析に力を入れている。

薬剤部のホームページ

<http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/>

### Outline of Department

The Department of Pharmacy consists of a group of clinical pharmacists who perform research in the clinical pharmaceutical sciences. Clinical pharmacology, and newly created pharmacotherapies using new drug preparations are the main areas of research. Therapeutic drug monitoring (TDM) forms a routine daily research project. As for clinical pharmacology, analyses of gene polymorphism of metabolic enzyme, pharmacokinetics/pharmacodynamics for antibiotics and drug action by monitoring bioactive peptides is emphasized.

Web site:<http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/>

## 臨床統計・データマネジメント学講座 Department of Biostatistics

### 講座の概要

本講座では統計学理論と応用の教育と研究および研究支援としてデータセンター部門の業務を行っている。研究テーマとして次の3つのテーマを行っている。

- 1) 病原微生物の感染システムに関する研究
- 2) 質的変量の連関とパス解析に関する研究
- 3) スペクトル拡散通信の信号処理に関する研究

### Outline of Department

The business of a data central section is done as an education, a research of the statistics theory and the application, and research support in this course.

The following three themes are done as topics of research.

- 1) Analysis of the infection System of Human T-Cell Virus TypeI (HTLV-I)
- 2) Analysis of Association and Path Analysis of Categorical Variables.
- 3) Study on Spread Spectrum Communication Systems.



## 医療安全管理医学講座 Department of Medical Safety Management

### 講座の概要

現代医療の高度化や多職種による医療の提供は、単純なエラーを引き起こしやすい状況を作り出している。こうしたエラーは時として患者に重大な影響を及ぼす危険性があり、その防止は重要である。本講座ではこうしたエラーの成因を、より科学的に検証し、その防止策を立案していくことを目的に設置された。また、医療の質向上には、院内感染対策も重要な課題である。院内における耐性菌の検出状況や耐性機序の解明、さらに抗菌薬の使用状況を解析することで、院内感染症の発生率を低下させるための研究を行っている。このような医療安全と感染制御を両輪として、より質の高い医療の提供のための教育や研究を、附属病院医療安全管理部や感染制御部と連携して行っている。

### Outline of Department

The advancement of modern medicine and provision of interprofessional health care are creating situations that are prone to simple errors. It is crucial to prevent such errors since those errors could potentially have serious effects on patients in some cases. This department has been established with the goals of verifying the causes of such errors more scientifically and formulating preventive measures. In addition, measures against nosocomial infections are vital to improve the quality of medical care. Studies are conducted in this department to reduce the incidence of nosocomial infections through clarifying the detection status of drug-resistant bacteria and unraveling resistance mechanisms, as well as through analyzing the usage of antibacterial drugs in hospitals. Working together with Oita University Hospital's Medical Safety Management Center and the Hospital Infection Control Center, this department conducts research and provides education that focuses on both medical safety and infection control mentioned above in order to provide medical care of higher quality.

## 寄附講座 Courses on Contribution



## 人工関節学講座 Department of Endoprosthetic Surgery

### 講座の概要

高齢者の大きな問題点の一つは、歩行能力（移動能力）の低下である。起立や歩行ができなくなることで、日常生活が不自由になるだけでなく、呼吸や循環などの内臓機能も低下する。このような点から、下肢の荷重関節（股関節や膝関節）の障害された機能を回復させることは重要である。この目的で用いられる人工関節置換術は、20世紀の後半に開発された技術であるが、昨今大きな進化を遂げている。人工関節学講座では、日本人の生活様式に適応した新規人工関節と手術機械の開発、術前手術計画の支援ツールの開発、手術手技を学ぶためのセミナーやラーニングコースの実施、人工関節置換術を中心とした診療と臨床研究を行う。

### Outline of Department

One of the major problems among the elderly is impaired walking ability. Patients who cannot stand up or walk by themselves will not only suffer from difficulties in daily life, but also from a high risk of cardiac diseases or respiratory diseases. It is important to restore functions of lower extremities to prevent these situations. Joint replacement surgery to recover joint function was developed in the late 20th century. With the improvement of metal and machining technique, joint prosthesis has made tremendous progress recently. The Department of Endoprosthetic Surgery will focus on the following activities:

- 1) Development of new joint prosthesis and surgical instruments adapted for the Japanese life style
- 2) Development of computer assisted tools for preoperative planning of TKA
- 3) Instructional courses and seminars of TKA for doctors and co-medicals
- 4) Clinical practice and research of joint replacement surgery

# 看護学科

School of Nursing

## 基盤看護学講座 Fundamental Nursing Sciences

### 健康科学 Health Sciences

本領域では「健康」を多角的にとらえ、以下のような研究・教育を行っている。

#### 1. 占領期における保健政策改革に関する実態の解明—GHQ文書による検証—

GHQ/PHW（公衆衛生福祉局）の資料をもとに、医学教育、看護教育の改革、感染予防対策等について、その実態の解明を行っている。

We are engaged in researches, investigations and education as follows.

#### 1. Health policy during the occupation in Japan - based on GHQ documents -

The revolution of health policy during the occupation in Japan (1945-1952) is studied historically. Special emphasis is placed on medical education, nursing education, and control of infectious disease.

### 基礎看護学 Fundamental Nursing

看護は、人間の健康ケアであり、生命の理解と看護の実践は、相互に関連する。基礎看護学領域では、看護理論、アートでありサイエンスである看護ケアの開発や根拠の証明、看護実践の基礎としての人間関係、看護ケアと看護サービスの管理など、看護学の基礎や基礎看護学を教育や管理等の広範囲で捉え、教育および研究に取り組んでいる。

- 1) 看護ケアの開発やエビデンスに関する研究
- 2) 看護師の臨床判断に関する研究
- 3) 看護ケア教育方法や評価に関する研究
- 4) 看護教育における医療安全教育の研究
- 5) 看護師・看護管理者のキャリア開発に関する研究

Nursing is health Care for human being. The understanding of life and the practice of nursing are interrelated.

Fundamental nursing has a role in education and research of nursing theories, arts and Science of Nursing Care, human relations as a basis of nursing practice, nursing Care and service management.

Among our research programs are:

- 1) Development of the Nursing Care Practice and disclose evidence of Nursing Care
- 2) Clinical Judgment in Nursing Practice
- 3) Research into training methods concerning the development of practical skills in Nursing Care, and effective training methods regarding the development of practical nursing skills and evaluation
- 4) Medical safety education program & effective training for nursing student.
- 5) Career-development in Nurses and Nurse Manger.



実習室での演習風景  
Practice of nursing skill and art in Lab.

## 精神看護学 Psychiatric Mental Health Nursing

精神看護学では、健康な人々には、ストレスに対する対処法を身につけ精神の健康を守ることを、心を病んだ人には社会復帰する過程において環境に適応し、日常生活が自立して行えるよう援助出来ることを目的に教育、研究を行っている。実習では、異なる精神の健康レベルや療養の場での看護として、大分大学附属病院と地域で実習を行い、人々が生活をしていく中で精神の健康障害を予防し、回復・保持・増進する看護について学んでいる。

### Psychiatric Mental Health Nursing

Psychiatric Mental Health Nursing focuses on the specialized care required to assist people with mental health disorders. Students will begin to understand the world of individuals suffering from psychiatric disorders; studying life spanning treatments and nursing practices.

## 地域看護学 Community Health Nursing

地域看護学では、地域住民全体を対象とする公衆衛生看護活動を中心に、働く人々を対象とする産業看護活動、児童・生徒を対象とした学校保健活動、多様な分野における在宅看護活動の4活動領域を扱い、基礎となる理論や活動方法について教育・研究を行っている。特に地域を基盤にした看護活動の方法やその構造、ヘルスプロモーションにおける看護の機能や役割についての研究に力を入れている。

Community health nursing includes such fields as public health nursing, occupational health nursing, school nursing, and visiting nursing. We study basic theories and methodology. Emphasis is placed on research on the methodology and the structure of community-oriented nursing activities, and the function and responsibilities of nursing for health promotion.



大学の風景～看護学科棟(桜)～

## 実践看護学講座 Practical Nursing Sciences

## 母性看護学 Maternal Nursing

母性看護学は、母子とその家族がライフサイクルを通して、より健康な生活を営むために求められるケアの質の保障・向上に向けた研究を行っている。中でも、

- 1) ハイリスク妊婦の看護
- 2) 熟練助産師の身体知獲得への研究
- 3) 助産院における看護

に取り組み、母性看護の対象理解に努め、個々に培われている看護技術を明らかにし、援助方法や教育手法を探索している。

## Maternity care for every women and newborns

The Maternity Nursing Section is carrying out studies to explore how to assure and improve the quality of care required for supporting mothers, their children and related people so that they live more healthily throughout their life, cycle.

- 1) Nursing of high-risk pregnant woman.
- 2) Expertise acquisition of expert nurse midwife.
- 3) Nursing of Maternity Home.

The Maternity Nursing Section is endeavoring there by to understand the object of maternity nursing, to assemble and systematize information on nursing techniques acquired by individual nurses, to develop supporting and teaching methods, and to educate students for nurses.

## 小児看護学 Pediatric Nursing

## 障害児を抱える母親の養育体験に関する研究

脳性麻痺、脳炎、ダウン症などの障害を有する児を育てることは正常児を育てる場合とは、以下のような違う状況が存在する。

- 1) 児に障害があることを親が受容する過程が存在する。
- 2) 障害児を養育することの漠然とした不安感を親は有する。
- 3) 養育をすることによる親としての自信の獲得過程を有する。

母親の養育体験を詳細に明らかにし、さらに彼女らを援助するための適切な看護介入の時期と方法を調査する。

## A survey of mother's experience to take care their children with disability

Taking care of children with disability, such as cerebral palsy, encephalitis, and Down's syndrome, differs from those of normal children in the following points.

- 1) There is a process of acceptance of the fact their children have disability.
- 2) They have vague anxiety to take care a child with disability.
- 3) There is also a process to gain confidence in their ability on taking care their children with disability.

We are studying a proper nursing intervention to support the mothers at the right time after surveying their experience in detail.

## 成人看護学 Adult Nursing

成人看護学は、人のライフサイクルにおいて、生産年齢にある成人期の人に焦点を当てる。生活習慣病や悪性腫瘍・慢性疾患をかかえたり、クリティカルケアが必要な状態および人生の終末期にある成人とその家族の健康の維持・増進・回復、あるいは生活の質の向上に関連したもの、さらに医療の進歩や社会情勢の変化にともなう、臨床看護におけるケアの質向上に関する研究を行っている。

- 1) がん患者の意思決定と在宅医療に関する研究
- 2) 慢性疾患患者（糖尿病患者）のセルフケアと継続看護に関する研究
- 3) ICU入室及び外科手術をうける高齢患者へのケアに関する研究
- 4) 脳血流モニタリングに基づくせん妄患者への看護に関する研究
- 5) 脳卒中に関する研究

## Development of effective nursing care delivery methods for adults and their families.

Emphasis is placed on maintaining, restoring and promoting health both for adults harboring life-style related disease, chronic illness, critical disease or terminal phase and for their families. Our faculty is currently engaged in research in the following areas:

- 1) Cancer patient's decision making and home care needs.
- 2) Self-care agency and continuing health care needs in patients with diabetes.
- 3) Nursing Care of ICU and Surgery Unit (Old) Patients.
- 4) Nursing cares for elderly delirium patients with NIRS monitoring.
- 5) Clinical nursing for cerebrovascular disease.

## 老年看護学 Gerontological Nursing

老年看護学では、高齢者が健康を維持し、その人らしくよりよく生活するための看護アプローチ方法の追究・検証・開発をめざし、教育・研究活動をすすめている。教育については、学生が高齢者・家族の個別的な看護を実践するための基本となる知識と技術の修得と自己の老年観の洞察に力点をおいている。研究に関しては、大学院生と共に老年看護の現象を客観的に分析し、看護の効果を実証する方法論を探求している。主な研究テーマは、認知症高齢者の看護ケアモデルの開発、フットケアの介護予防的意義などである。

We are engaged in education and research to support health and promote quality of life for the elderly. Classes are offered for the students to develop their own concept for the aging and to study the fundamental knowledge and skills needed to take care of the elderly. We investigate to analyze the phenomena of gerontological nursing objectively and develop methods to prove the effect of nursing with the students of the Master's degree of Nursing.

The main fields of research now in progress are as follows;

- 1) Development of the nursing care model for the elderly with dementia
- 2) Foot care as preventative approach in long-term care



大学の風景～看護学科棟(紅葉)～

# 附属センター

*Included Center*

## 地域医療学センター *Community Medicine Center*

地域医療学センターは、教育、研究および医療提供を通して、地域医療を推進するために設置された。医学生や研修医を対象とする医学教育は、地域の自治体、診療所や病院と提携して行なう。また、当センターでは地域社会の疾病構造を明らかにし、地域に特有な病気の原因を明らかにするための研究を行なう。その知見をもとに疾患を治療するのではなく、患者およびコミュニティを治療する視点で健康問題対策を講じることが出来る医師を育成する。なお、当センターは内科分野、外科分野からなり、主な特徴は以下のとおりである。

### 【内科分野】

1. 患者の苦痛を緩和するのみならず、患者と家族、そして地域社会全体における健康の増進に寄与できる、有能で思いやりのある内科医の育成
2. 家庭医療専門医、病院総合専門医を目指す医学生や研修医を対象とする医学教育プログラムの実践
3. 臓器別専門医を目指す医学生や研修医に対するプライマリーケアの実践経験の提供
4. 地域の基幹病院や診療所で地域医療に従事する医師に対する専門医取得、キャリアパス形成等の様々な支援
5. 地域における健康問題や疾病構造など、地域と関連した臨床研究、ならびに地域医療学センターで行う教育を評価し、発展させる方法についての研究の推進

### 【外科分野】

外科分野における地域医療の活性化と人材育成を目標としている。その主な業務は、

1. 外科系の地域医療の現状と問題点の把握
2. 地域基幹病院や研修病院に従事する外科系医師の確保とそのネットワークの再構築
3. 医学生及び臨床研修医の診療所実習教育などを通じ、将来の地域医療に従事する外科系医師の育成
4. 地域医療に従事している外科系医療人のキャリアパス形成などの支援・推進
5. 外科系の地域医療学の学問構築

The mission of the Community Medicine Center is to provide education, research, and medical service for promoting community-based medicine. The Center has many collaborative partnerships which include many community organizations, clinics and hospitals which conduct educational activities.

The Center conducts community-based research that produces new knowledge about the origins of disease, and uses this insight to pursue improved health care provision to treat patients and community, not just isolated illness. The Center consists of Division of Internal Medicine and Surgical Division. The features of each Division are listed below.

### Division of Internal Medicine

1. The center aims to train competent and compassionate physicians who promote health and relieve suffering in concert with patients, their families, and their communities.
2. The academic program prepares medical students and residents for careers in Primary Care Medicine.
3. The center provides exposure to the primary care practices for individuals planning careers in other specialties.
4. The center provides service to the doctors working in rural hospitals and clinics by providing educational opportunities for individuals pursuing careers in the patient-care professions.
5. The center conducts community-based research on rural health and epidemiology, and applied research that enhances our teaching programs.

### Division of Surgery

Our goal is to encourage the activity level of rural medicine and train capable people in Division of Surgery.

Our major works are...

1. To understand the current situation and problems of rural medicine in surgical field.
2. To secure the number of surgeons and surgical-related doctors who are working for main local hospitals and trainee-accepting hospitals, as well as to rebuild its network system.
3. To train surgeons and surgical-related doctors who will work for rural medicine in the future through practical education at a clinic where medical students and clinical trainee can receive it.
4. To encourage and support surgical medical staffs who are working for rural medicine to advance their career.
5. To build education system of a surgical-related rural medicine science.



## 医学教育センター Medical Education Center

本センターは、学生および教員がより良い教育環境で学習・教育が行えることを目的として、本学医学教育システムを統括的に管理するために設置された。業務内容として、

(1) 教育課程に関する事項 (2) 全国統一共用試験 (OSCE・CBT) 運営 (3) 臨床実習の改善 (4) 授業評価 (5) 入学者選抜の評価・改善 (6) FDの開催運営 (7) 卒後臨床研修教育システムへの関与等を行っています。上記業務を行い、医学教育センターとして本学医学教育カリキュラムの改善を実施し、幅広い医学知識と技能を有し、国民・地域および国際的に期待される医療人を養成することを目標としている。

The center was founded to administrate and to improve the medical education system in the faculty. The major projects are as follows: 1. Planning, management, and evaluation of the curriculum. 2. Management of the national pre-clinical practice licensing examination system, which assesses medical students' knowledge, skills and understanding of basic medical and clinical science essential for provision of clinical practice under supervision. 3. Planning, management, and evaluation of the medical clinical practice training system. 4. Management of the evaluating system for the medical education. 5. Evaluation and improvement of the university entrance examination system. 6. Management of faculty and staff development programs. 7. Collaborations in the development of the post-graduate medical training programs in the University Hospital. The center's final goal is developing medical experts with a variety of expertise and abilities, who can make constructive contributions to both regional, national and world health-care systems.

## 先端分子イメージングセンター Advanced Molecular Imaging Center

先端分子イメージングセンターは、PETを用いた診療及び研究を行う医学部附属センターとして開設された。PET診療は、「がん」や「アルツハイマー」の診断法として近年普及している。大分大学医学部附属病院では、 $^{18}\text{F}$ -FDGおよび $^{11}\text{C}$ -メチオニンを用いたがんのPET診療を実施している。この診療は、がん診療連携拠点病院として、地域における高度医療の提供に貢献するものである。また、FDGは糖代謝を利用した診断であるが、この特性を生かした基礎研究も展開することにより、さらに高度な診断技術の開発を目指す。FDG以外のPETを用いた「臨床研究」も展開していく予定である。本附属病院の特色として、臨床試験のためのセンター（総合臨床研究センター）を有している。これを利用することで新規薬剤の開発のための「治験」が実施可能である。PETを用いた治験は、近年その有効性が注目されており、本センターでの研究成果が社会に大きく貢献するものと期待している。

"Advanced Molecular Imaging Center (AMIC)" is established as a center to do the research and diagnosis of PET. PET diagnosis is developing recently, because it is effective for a diagnosis for cancer and Alzheimer's disease. FDG-PET diagnosis has been going in Oita University Hospital. This will make a large contribution to toward the people in Oita area. We plan to do fundamental researches for FDG-PET to improve this diagnosis. Also, the clinical study is one of the main researches in this center. We prepare to use some other PET drugs for clinical study in cooperation with "General Clinical Research Center" in our Hospital. The results by using PET technologies in our center will be expected for the developing the new drug.



### 臨床医工学センター *Clinical Engineering Research Center*

東九州メディカルバレー構想事業の一環として臨床医工学講座が設置され、医療機器開発拠点作り、高度医療人材育成の拠点づくり、アジアへ貢献する拠点づくりが行われてきた。臨床医工学センターはその機能を継承するとともに、大分大学内の医工連携・産学官連携をより一層強化し医療機器開発を推進する目的で開設された。特に地域企業との連携を促進し医療機器開発参入を促すために、企業研究者を対象とした医療ビジネス教育、企業研究者を医療現場、大学研究室へ受け入れるシステムづくり、および、医療機器開発の各段階における、企業研究者に対するシームレスな大学内の支援体制作りに尽力する。また、異業種の研究者が共同で研究開発等が行えるようリエゾンオフィスやリエゾンラボの整備を行い、研究の指導及び支援を行う。さらに日本の優れた医療技術を国内外、特にASEAN諸国の医療技術者に指導するとともに、人材交流の拠点を設置する支援事業に協力する。

The conception design, Medical Valley in Eastern Kyushu, is one of the special economic zones, in which the major task is to promote industries related to medicine and medical engineering. Department of Clinical Engineering, Oita University was established in 2012 to play central roles to promote and support this project from the academic side. In 2015, this department was renewed to Clinical Engineering Research Center, and additional tasks for the promotion of Medical Valley in Eastern Kyushu were added, such as encouragement of seamless collaborations among industries related to medicines, promotions of basic and applied studies in this field, and offers of higher education for engineers. Furthermore, our supports are now widely open for academic researchers, engineers and business planners outside of Eastern Kyushu regions of Japan, including countries overseas.

### スキルラボセンター *Clinical Skills Lab. Center*

スキルラボセンターは、患者に安全で高度な医療を提供するために、シミュレーターなどの教育機器を用い、医療関係者が必要な技能を効率よく修得するために開設された。本センターでは高度患者シミュレーター、消化器・呼吸器内視鏡シミュレーター、内視鏡手術シミュレーター、血管内治療シミュレーターなどの高度シミュレーターから、心肺蘇生、静脈血採血などの基本医療手技教育機材まで多くの機材を保有し、本学医学生、看護科学生、研修医、職員だけでなく、近隣の医療関係者や市民などにも開放し、医療レベル向上を目指している。

Clinical Skills Lab. Center was established for the purpose of providing medical skill education programs without subjecting patients to potential risks. The center has advanced educational resources such as a high-performance patient simulator, endoscopy simulator, endoscopic surgical simulator, simulator for interventional radiology and many other teaching devices for basic medical skills. The center is open for use by medical students, residents, fellows, and university staff. The center also provides a program for medical professionals outside the university and citizens to contribute to the improvement of medical services in the Oita area.





## 基礎医学画像センター Imaging Center for Basic Medicine

本センターは、大分大学医学部における死亡時画像診断による死因究明、解剖学教育の支援及びその他CT装置等を利用した研究等を推進し、医学・医療の発展・向上に貢献することを目的として2010年に設置された。業務内容として、(1)死亡時画像診断による死因究明に関する事項(2)解剖学実習献体のCT撮影等に関する事項(3)その他CT装置等を利用した研究に関する事項等を行っている。有する機器としては、16列多列検出器型CT(MDCT)装置とC-arm型X線透視装置である。

This center was founded at 2010 to contribute to the modern medicine and society by clarifying the causes of death by use of postmortem imaging, supporting the education of anatomy to medical students, and promoting the research of basic medicine using MDCT (Multi-detector X-ray Computed Tomography) and C-arm Fluoroscopy. This center is open to any basic medical research, especially is closely associated with Forensic Medicine, Research of Anatomy and Image-Anatomical Correlation.



## バイオラボセンター Bio-Laboratory Center

バイオラボセンターは、生命科学系研究の支援、研究力の向上を図ることを目的として、大分大学医学部に設置された機器や実験手技を共有することが出来る研究室として開設された。主に生命科学系研究者養成、センター機器の操作指導、生命科学系の技術指導が行われている。医学部長をセンター長に置き、副センター長、兼任教員、研究支援職員によって運営されている。

The Bio-Laboratory Center was established as a laboratory for sharing experimental procedures and equipment from the Oita University Faculty of Medicine in order to support life science research and improve the researchers' abilities. The center is mainly used for training life science researchers, providing operating instruction for the center's equipment as well as technical assistance for life science research. The Dean of the Faculty of Medicine acts as the Director of the center and administers the center along with the Deputy Director, part-time faculty and research support staff.



大学の風景～キャンパス入口～

# 学生数等 Student Statistics

## 医学部医学科学生数

(平成28年5月1日現在)

Undergraduate Students (School of Medicine)

(as of May 1, 2016)

区分	定員	現員	出身地域別内訳																				
			Home Region																				
			北海道・東北	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	その他	九州地方										Total 計		
Kyushu																							
			Hokkaido/Tohoku	Kanto	Chubu	Kinki	Chugoku	Shikoku	Kyusyu	Others	Fukuoka	Saga	Zogasaki	長崎	Kumamoto	熊本	Oita	大分	Miyazaki	Kagoshima	鹿児島	Okinawa	沖縄
1 学年 1st yr.	100	(32) 102	0	(3)	(1)	(2)	(2)	0	(24)	0	(9)	0	(1)	(1)	(12)	0	(1)	0	(1)	0	0	0	(24)
2 学年 2nd yr.	100	(46) 119	0	(2)	0	(8)	(5)	(1)	(30)	0	(7)	0	(1)	(1)	(18)	(2)	0	(1)	(30)				
3 学年 3rd yr.	100 *10	(34) 108	(2)	(4)	(4)	(3)	0	(2)	(19)	0	(5)	0	0	0	(9)	(4)	(1)	0	(19)				
4 学年 4th yr.	100 *10	(42) 114	0	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(34)	0	(10)	0	(3)	(3)	(14)	(2)	(2)	0	(34)				
5 学年 5th yr.	100 *10	(32) 113	0	(3)	0	(3)	0	0	(26)	0	(6)	0	(2)	(2)	(15)	(1)	0	0	(26)				
6 学年 6th yr.	100 *10	(40) 112	0	(3)	(2)	(2)	(2)	(1)	(30)	0	(7)	0	0	(3)	(19)	(1)	0	0	(30)				
合計 Total	640	(226) 668	(2)	(17)	(9)	(20)	(10)	(5)	(163)	0	(44)	0	(7)	(10)	(87)	(10)	(4)	(1)	(163)				

備考 ( ) 内は女子を内数で示す。 Note : ( ) indicates the number of female students.  
 ※は2年次後学期学士編入学定員を示す。 \* indicates the quota for the 2nd year transfer students.

## 医学部看護学科学学生数

(平成28年5月1日現在)

Undergraduate Students (School of Nursing)

(as of May 1, 2016)

区分	定員	現員	出身地域別内訳																				
			Home Region																				
			北海道・東北	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	その他	九州地方										Total 計		
Kyushu																							
			Hokkaido/Tohoku	Kanto	Chubu	Kinki	Chugoku	Shikoku	Kyusyu	Others	Fukuoka	Saga	Zogasaki	長崎	Kumamoto	熊本	Oita	大分	Miyazaki	Kagoshima	鹿児島	Okinawa	沖縄
1 学年 1st yr.	60	(5) 66	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	0	(1)	(3)	0	0	0	(5)					
2 学年 2nd yr.	60	(4) 54	0	0	0	(1)	0	0	0	(2)	0	0	0	(1)	0	0	0	(3)					
3 学年 3rd yr.	60 *6	(8) 73	0	0	0	0	(2)	(1)	0	(1)	0	0	0	(2)	(1)	0	(1)	(5)					
4 学年 4th yr.	60 *6	(6) 64	0	0	0	0	0	0	0	(1)	(1)	(1)	0	(2)	0	(1)	0	(6)					
合計 Total	252	(23) 257	0	0	0	(1)	(2)	(1)	0	(4)	(2)	(1)	(1)	(8)	(1)	(1)	(1)	(19)					

備考 ( ) 内は男子を内数で示す。 Note : ( ) indicates the number of male students.  
 ※は3年次編入学定員を示す。 \* indicates the quota for the 3rd year transfer students.

**医学部医学科入学志願者数, 入学者数**

(平成28年5月1日現在)

Number of Applicants (School of Medicine)

(as of May 1, 2016)

区分 Classification	入学 定員 Admission Quota	入学志願者数 Applicants			入学者数 Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
平成24年度 2012	100 (10)	352 (182)	203 (105)	555 (287)	69 (8)	31 (2)	100 (10)
平成25年度 2013	100 (10)	236 (169)	156 (98)	392 (267)	64 (7)	36 (3)	100 (10)
平成26年度 2014	100 (10)	358 (151)	210 (74)	568 (225)	68 (5)	32 (4)	100 (9)
平成27年度 2015	100 (10)	330 (144)	238 (76)	568 (220)	58 (6)	42 (4)	100 (10)
平成28年度 2016	100 (10)	258 (-)	193 (-)	451 (-)	68 (-)	32 (-)	100 (-)

備考 ( ) 内は2年次後学期編入学定員を外数で示す。 Note : ( ) indicates the quota for transfer the 2nd year students. Not included in the total.

**医学部看護学科入学志願者数, 入学者数**

(平成28年5月1日現在)

Number of Applicants (School of Nursing)

(as of May 1, 2016)

区分 Classification	入学 定員 Admission Quota	入学志願者数 Applicants			入学者数 Enrolled		
		男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
平成24年度 2012	60 (10)	20 (0)	281 (19)	301 (19)	4 (0)	56 (7)	60 (7)
平成25年度 2013	60 (10)	22 (0)	187 (12)	209 (12)	6 (0)	54 (6)	60 (6)
平成26年度 2014	60 (10)	17 (4)	183 (18)	200 (22)	4 (0)	54 (6)	58 (6)
平成27年度 2015	60 (6)	13 (0)	203 (6)	216 (6)	4 (0)	52 (3)	56 (3)
平成28年度 2016	60 (6)	16 (2)	236 (10)	252 (12)	5 (1)	61 (5)	66 (6)

備考 ( ) 内は3年次編入学定員を外数で示す。 Note : ( ) indicates the quota for the 3rd year transfer students. Not included in the total.

**日本学生支援機構奨学生数**

(平成27年5月1日現在)

Japan Student Services Organization

(as of May 1, 2015)

区分 Classification	医 学 科 School of Medicine							看護学科 School of Nursing				
	1学年 1st yr.	2学年 2nd yr.	3学年 3rd yr.	4学年 4th yr.	5学年 5th yr.	6学年 6th yr.	合計 Total	1学年 1st yr.	2学年 2nd yr.	3学年 3rd yr.	4学年 4th yr.	合計 Total
第一種 Cat. 1	17	25	23	29	24	18	136	25	25	15	17	82
第二種 Cat. 2	13	22	29	42	29	61	196	19	21	26	37	103
計 Total	30	47	52	71	53	79	332	44	46	41	54	185

## 医師国家試験合格状況

National Medical Qualifying Exam Results

区分 Classification	第104回 (平成22年) 2010	第105回 (平成23年) 2011	第106回 (平成24年) 2012	第107回 (平成25年) 2013	第108回 (平成26年) 2014	第109回 (平成27年) 2015	第110回 (平成28年) 2016
受験者数 Applicants	102	103	100	100	105	106	119
合格者数 Passed	94	94	89	91	95	96	104
合格率 (%)	92.2	91.3	89.0	91.0	90.5	90.6	87.4

## 看護師・保健師国家試験合格状況

National Registered Nurse and Public Health Nurse Qualifying Exam Results

区分 Classification	看護師 Registered Nurses					保健師 Public Health Nurses				
	第101回 (平成24年) 2012	第102回 (平成25年) 2013	第103回 (平成26年) 2014	第104回 (平成27年) 2015	第105回 (平成28年) 2016	第98回 (平成24年) 2012	第99回 (平成25年) 2013	第100回 (平成26年) 2014	第101回 (平成27年) 2015	第102回 (平成28年) 2016
受験者数 Applicants	62	56	53	69	52	74	70	60	76	58
合格者数 Passed	61	56	52	68	50	65	70	55	76	52
合格率 (%)	98.4	100	98.1	98.6	96.2	87.8	100	91.7	100	89.7

## 卒業生の進路状況

Graduate Employment Statistics

### 医学科 School of Medicine

区分 Classification		平成23年度 2011	平成24年度 2012	平成25年度 2013	平成26年度 2014	平成27年度 2015
研 修 医 生 Residents	大学 病院 本学 Graduate School	19	18	18	27	28
	他大学 Other Graduate School	31	23	28	22	18
病 院 Hospital	県内 Oita Prefecture	13	16	16	12	21
	県外 Other Prefectures	22	30	28	32	34
小 計 Total	県内 Oita Prefecture	32	34	34	39	49
	県外 Other Prefectures	53	53	56	54	52
その他 Others		5	5	5	4	7
合計 Total (県内就職率)		90 (37.6%)	92 (39.1%)	95 (35.8%)	97 (40.2%)	108 (45.4%)

### 看護学科 School of Nursing

区分 Classification		平成23年度 2011	平成24年度 2012	平成25年度 2013	平成26年度 2014	平成27年度 2015
進 学 Graduates	本学大学院 Graduate School	0	1	1	0	1
	他大学等 Other Graduate Schools	5	4	2	6	2
	小計 Total	5	5	3	6	3
就 職 Employment	県内 Oita Prefecture	40 (25)	41 (15)	38 (28)	34 (27)	26 (16)
	県外 Other Prefectures	25	19	17	31	26
	小計 Total	65	60	55	65	52
その他 Others		2	0	1	3	2
合計 Total (県内就職率)		72 (61.5%)	65 (68.3%)	59 (69.1%)	74 (52.3%)	57 (50.0%)

備考 ( ) は本学附属病院で内数。  
Note : The number in parentheses indicates those employed at O. M. U. Hospital.

## 医学系研究科 Graduate School of Medicine

医学系研究科には、博士課程と修士課程が設置されている。博士課程は、医学専攻から成り、自立した研究者・医学教育者及び診療能力の高い臨床医の育成を目的としている。修士課程は、医科学及び看護学の2専攻から成り、前者は、医学以外の専門領域と医学を融合させた学際的な領域の教育・研究者や技術者として活躍できる人材の育成を、後者は、医学に関する幅広い知識と視野を備えた看護実践専門家、看護教育者等の育成を目的としている。

Graduate School of Medicine is composed of Master Course and Doctor Course. The Doctor Course has one professional courses. In this course there are four categories of classes ; Fundamental research, Clinical research, Cancer research and Compulsory elective. The main purpose of the Doctor Course is to foster a medical research professional or a clinician of high quality. While, Medical Science Course and Nursing Science Course make up the Master Course. The purpose of the Medical Science Course is to foster an educational, research and technical professional, who can take an active role in the area into which medical and other scientific fields are integrated. The purpose of the Nursing Course is to foster a highly professional nursing staff and nursing educational professional, who possess broad professional knowledge and viewpoints on medicine.

### 博士課程 Doctor's Degree Program

#### 医学専攻 Philosophy in Medical Science

### 教育目的 Educational Purpose

医学研究者・教育者及び診療能力の高い臨床医育成を主眼とし、それぞれの専攻分野について自立した研究者として活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。さらに、生命科学や医療・福祉などの広領域において、関連する他の研究科との連携を強化する。

博士課程は基礎研究領域、臨床研究領域及びがん研究領域から構成され、それぞれ基礎医学的、臨床医学的及び腫瘍医学的側面から研究を実施する。

Our main purpose is to produce quality medical researchers, teachers and clinician. We promote the acquisition of broad academic knowledge as a foundation on which our students can build research skills. The development of advanced research skills in relevant medical specialties will result in an ability to carry out self-driven, independent research.

Co-operation with associated departments in the fields of life sciences, medical treatment and welfare will be further strength-ened. In this course, there are three research areas, Fundamental research, Clinical research and Cancer research, in which we perform research from the view points of basic, clinical and tumor medicine respectively.

### 基礎研究領域 Fundamental Research

基礎研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

The subject about Fundamental research is as Follows.

#### ストレスと健康の心理行動科学

本科目では、現代社会の多様なストレスと健康の問題を心理学的、社会学的、公衆衛生学的な観点から多角的に学習し、その理解を深めるとともに、ストレスと健康問題にアプローチするために心理学的、行動科学的視点や研究法を身につけることを目指している。

#### Psychological and Behavioral Science of Stress and Health

In this course, we multilaterally discuss and study the problems of stress and health in modern society from the standpoint of psychology, sociology and public health.

We expect graduate students to learn psychosocial approaches to the problems of stress and health.

#### 組織病理学

生検・手術検体の処理、組織標本の作成、病理組織診断の習得、剖検例のまとめとCPC発表を行う。

#### Histopathology

The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology as well as to discipline skills of presentation at clinicopathologic conference on autopsy cases.

#### がんのゲノム医科学

癌化のメカニズムの核心であるゲノム異常を網羅的に解析して、各臓器癌の発症、進展の分子機構を明らかにする。

#### Analysis of Genomic Aberrations in Cancer

Aim of this course is to study the molecular mechanisms of the onset and advancement of carcinomas by the genome wide analysis of cancer genome.

## イオンチャネルの病態生理学

イオンチャネルの分子機能と病態下での発現制御を解明して細胞内環境の維持と破綻に関わるイオンチャネルの役割を明らかにする。

## 分子神経科学

神経科学分野の新規生理機能解析にあたり、最新の知見を取り入れ、分子レベルならびに神経回路に基づいた理解を目指す。

## がんの分子生物学

分子および細胞レベルから、癌の発生メカニズムを理解する。

## がんのリンパ学

癌のリンパ行性転移と腹膜播種性転移のメカニズムを学ぶ。

## 分子形態学

細胞間コミュニケーションを担うギャップ結合 (GJ) に対する単クローン性抗体を用いたGJ形成過程を解析する。

## 組織形態機能学

様々な臓器で機能不全に至らしめる臓器線維症の発症、進展機序を形態機能学的に解明する。

## 分子細胞生物学

遺伝子改変動物モデルを用いたRNA代謝関連分子の生体内機能解析。

## マトリックス生物学

細胞外マトリックスに存在する分子の発現や機能について学習する。

## ※遺伝子工学

遺伝子操作と遺伝子改変マウスの作製、およびそのマウスを用いた様々な疾患の病態解明と研究方法について学習する。

## 糖尿病の分子薬理学

薬物の新規標的分子を探索する細胞生物学的研究法を、糖尿病治療薬を対象として紹介する。

## 人間生命医科学発展

医学に直結した生命科学を理解し実践するため、動物の観察や実験、正常と疾患の細胞・組織の観察、DNA抽出などを含む分子生物学的手法を学ぶ。

## 分子細胞免疫学

免疫学の分子基盤について分子レベルおよび細胞レベルでの理解を目指して最新のトピックスも交えて学習する。

## ※節足動物媒介性感染症

吸血性昆虫やダニが媒介する感染症の伝播の多様な仕組みや環境要因変化、特に温暖化の影響を学ぶ。

## 微生物感染免疫学

細菌・ウイルスによる感染病態の解明、なかでもウイルスの病原性発現機構と宿主の自然免疫・獲得免疫応答の関わり、さらにこれらを基盤とした治療・予防法について講義・演習・実習により学習・習得する。

## 微生物分子生物製剤学

感染症や悪性新生物に対する分子標的治療薬の採用機序の理解と、それらの開発・応用について、講義・演習・実習により習得する。

## Pathophysiology of Ionic Channels

Molecular function and pathophysiological regulation of cardiac ion channels would be targeted.

## Molecular Neuroscience

This class aims to understand the molecular mechanisms and neuronal pathways for investigating the novel physiological functions of biological substances in the central nervous systems.

## Molecular Biology of Cancer

The aim of the course is to understand the molecular and cellular mechanisms underlying cancer formation.

## Lymphology of Cancer

The aim of the course is to understand the mechanism of lymphatic metastasis and peritoneal dissemination of cancer.

## The Molecular Morphology

The analysis of gap junction formation bearing intercellular communication using an HAM8 monoclonal antibody.

## Tissue morphofunctional studies

Elucidation of the mechanism by which fibrosis leading to functional failure develops and progresses in various organs by using the morphofunctional methods.

## Molecular Cell Biology

Analysis of the in vivo function of the RNA metabolism-related molecules using genetically modified animal.

## Matrix Biology

The aim of this course is to introduce the function of molecules and gene expression in extracellular matrix.

## ※Gene Technology

We study a gene technology, the generation of transgenic mice and the pathobiology of many diseases.

## Molecular Pharmacology for Diabetic Medicine

We introduce the organon of the cell biology to search for a new target molecule for the anti-diabetic drug.

## Advanced medical life science

The aims of this course are: 1) to study animal anatomy, 2) to practice animal experimentation, 3) to learn how to observe healthy /diseased cells and tissues under a microscope, 4) to learn methods in molecular biology such as DNA extraction.

## Molecular and Cellular Immunology

To learn the molecular and cellular basis of protective immune responses against infection and inflammatory disorders caused by dysregulated immune responses.

## ※Arthropod-borne Infectious Diseases

To learn diversity of transmission modes of infectious diseases transmitted by blood-feeding insects and acari and environmental factors, in particular global warming, influencing the modes of transmission.

## Microbiology, Infection and Immunity

Research for host-parasite relationship in viral and bacterial infections and development of therapeutic- and preventive-strategy

## Microbial Molecular Biologics

Studying the current status and practical R&D of molecular targeting drugs against infectious diseases and cancers.



**※感染症疫学**

感染症の発生と流行様式を血清疫学・分子疫学の面から学ぶ。

**分子疫学**

分子生物学の手法を用い、感染症としての胃癌の発生機序、疫学について学ぶ。

**睡眠公衆衛生**

睡眠習慣に関する公衆衛生や疫学研究に関する演習を行って、公衆衛生・疫学に関する基礎知識と研究手法について学習する。

**臨床疫学**

臨床医学で遭遇する問題に対して疫学の手法を用いて、その構造解析や解決策について研究する。個々の患者に対して臨床的な予測を行う目的で、臨床的なパラメータを調べる。臨床医の意思決定と人間集団を対象とした定量的疫学研究を統合する方法論であり、evidence-based medicine (EBM) の根幹をなす。

**※産業中毒学**

産業現場で利用されている種々化学物質の中毒を予防するため化学物質の曝露、吸収、分布、代謝、排泄の各プロセスでの化学物質の動態を習得し、実践的な中毒予防策を実践できるようにする。

**DNA多型分析の実務的応用**

核DNA多型およびミトコンドリアDNA多型分析を親子鑑定および個人識別に応用し、その有用性と問題点について検討する。

**生物物理化学**

生物由来の化合物の構造・機能・反応性について、物理化学的に考察する。

**※微小循環学**

正常、高血糖下および高血圧下における細動脈、毛細血管および細静脈の形態と機能を教授し、毛細血管の新生についても言及する。さらに、毛細リンパ管（リンパ管）の同定、分布および癌の伸展とその関連を討議する。

**※Epidemiology of Infectious Diseases**

To study the mode of transmission of viruses through serological and molecular methods.

**Molecular Epidemiology of Gastrointestinal Diseases**

We learn the mechanisms and epidemiology to develop gastric cancer as an infective disease using molecular techniques.

**Public Health of Sleep**

Sleep behavior are closely related to human health. Graduate students study the public health about sleep behavior in this program. They also study the method of epidemiological research.

**Clinical Epidemiology**

To study for the structural analysis and solutions using the epidemiological approach to the problem encountered in clinical medicine. For the purpose of performing a clinical prediction on the individual patient, we examine the clinical parameters. Clinical epidemiology is to integrate methodology quantitative epidemiological study of clinicians' decision-making and human population, and one that forms the basis of evidence-based medicine (EBM).

**※ Industrial Hygiene and Toxicology**

Is used in the industry spot; learn the revelation of the chemical substance, absorption distribution, metabolism, the change of the chemical substance by each process of the excretion to prevent the poisoning of the chemical substance in various way, and can practice practical poisoning precaution.

**Practical Application of DNA Polymorphisms**

We apply nucleus DNA seasonal polymorphism and mitochondrial DNA seasonal polymorphism analysis to a paternity test and a personal identity and examine the utility and problems.

**Biophysical Chemistry**

Structures, functions, and reactivities of biomolecules are physico-chemically discussed.

**※Microcirculation Science**

The morphology and function of arterioles, blood capillaries and venules are studied. In addition, organization and distribution of the lymphatic system are also discussed.

**臨床研究領域 Clinical Research**

臨床研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

The subject about Clinical research is as follows.

**内分泌代謝・免疫・腎臓病の分子病態医学**

糖尿病、高血圧、腎疾患をはじめとする生活習慣病及び自己免疫疾患の発症メカニズムと治療に関する研究を、遺伝要因も含め臓器横断的に行う。

**Molecular Medicine of Endocrinology, Metabolism, Immunology and Nephrology**

We investigate pathogenesis and pathophysiology of lifestyle-related diseases such as diabetes mellitus, hypertension, kidney diseases and autoimmune disease.

**呼吸器内科学・感染症学の実践EBM**

基礎および臨床研究を通じて呼吸器疾患の診断法と治療法の高度な理論と実践、および併発する感染症の制御ができ、EBMが構築できることを目標とする。

**Evidence-Based Medicine for Clinical Practice including Diagnosis and Treatment in Respiratory Medicine and Infectious Diseases**

The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory medicine and infectious diseases through the basic and clinical research as well as to get the license of respiratory medicine- and infectious diseases-related specialist.

**神経病態科学 & 認知症医学**

神経疾患及び認知症の分子病態解析、診断・治療法の開発、予防について基礎・臨床の両側面から学習し、研究する。

**Clinical Neuroscience & Dementia and Medical Sciences**

We invite you to both basic and clinical medical sciences for neurological disorders or dementia such as molecular mechanisms underlying neuronal degeneration, and the development of biological markers or disease-modifying therapies.

## ※脳卒中病学

神経疾患としての脳卒中の理解に加え、循環器疾患、血液疾患、老年病としての観点から多角的に病態を理解し、診断・治療法の開発、予防について実験や診療を通じて学習し、研究する。

## 消化器感染症と発癌

消化器の持続感染と発癌との関連性を分子生物学的手法を用いて研究する。

## 消化器内視鏡学

消化器内視鏡学を通して上部・下部消化管疾患、胆道・膵臓疾患を研究する。

## 臨床心臓病学

心血管疾患の病態生理を理解し、発生機序から治療を考え、基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。具体的には、虚血・再灌流障害の発生機序を研究し、合併する不整脈の発生機序の解明と治療の開発を目指す。

## 外科循環制御学

心臓疾患・動脈疾患に対する外科的介入方法とその適応を学び、外科侵襲の身体に与える功罪を理解する。

## 脳循環代謝・神経外傷病態

脳虚血・神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発。

## 機能性精神病の生物・心理・社会学

うつ病や双極性障害の病態生理や症状、経過、予後、治療を多角的に検討する。

## 脳と心の科学

分子生物学、脳画像、行動医学から見た精神医学。

## 臨床遺伝学

周産期・小児期に関わる臨床遺伝学を学習する。

## 発生・発達小児科学 一周産期・新生児学一

中枢神経系の発生とその関連疾患：成長と成熟、発達の障害。

## 発達アレルギー学

小児アレルギー疾患の年齢依存性のoutgrowを免疫学的、栄養学的、環境医学的、遺伝学的に検討し、成人へのcarry over予防法や治療法について考察する。

## 眼科学・病態と治療

視覚障害を生ずる疾患の病態を最新の手法で把握し、その治療を手術療法を含めて研究する。

## 視機能の科学

心理物理学の検査の理解と他覚的検査の実施、研究。

## 気道粘膜免疫学

耳・鼻を中心とした上気道における粘膜免疫機構とそれを応用した中耳炎・副鼻腔炎のワクチン治療。

## 創傷診断治療学

創傷治療に関する知識を得て、その診断、治療に関する考え方を学

## ※Strokeology

Experimental and clinical studies regarding stroke pathomechanism, the development of methods for diagnosis, treatment and prevention of stroke.

## Carcinogenesis and Infection in Digestive Diseases

Research of interaction between gastroenterological inflammation and carcinogenesis with molecularbiology.

## Gastrointestinal endoscopy

Research of gastro-intestinal and biliary-pancreatic disease using endoscopy.

## Clinical cardiology (From molecule to Bedside)

We aim to study the pathophysiology of cardiovascular diseases, and perform the translational researches from the viewpoint of the basic mechanisms of those diseases. In particular, we set targets on disclosing the pathophysiological mechanisms of the development of ischemia/reperfusion injury and accompanying heart failure as well as critical arrhythmias including atrial fibrillation and their treatments.

## Clinical diagnosis and therapy of cardiovascular surgery

We learn a surgical intervention method for heart problem/the artery disease and the adaptation and understand the merits and demerits to give the body of the surgery aggression.

## Cerebral blood flow and metabolism and Neurotrauma

Pathophysiology and treatment of neurotrauma (ischemic and traumatic brain injury).

## Bio-psycho-social Aspects of Functional Psychoses

We investigate functional psychoses such as depression and bipolar disorder from the viewpoints of pathophysiology, symptoms, course, prognosis and treatment.

## Science of brain and mind

We study psychiatry from molecular biology, a brain image, behavior medicine and social psychiatry.

## Clinical Genetics

To learn medical application of molecular biology and cytogenetics for the diagnosis, management, and prevention of genetic diseases in the field of perinatal medicine and pediatrics.

## Developmental Medicine and Child Neurology

CNS ontogenesis and its related disorders: growth, mature and developmental disturbances.

## Developmental Allergology

Through the elucidation of the age-dependent-outgrow in pediatric patients with allergy in terms of immunology, nutrition science, environmental medicine and genetics, the preventive and therapeutic strategy is discussed.

## Ophthalmology pathophysiology and treatment

We assess the pathology of vision-threatening eye diseases by means of updated examinations.

We also investigate the modality of treatment including operation on the eye diseases.

## Science of Visual Physiology

We evaluate the visual function by means of psychophysical and other objective examinations.

## Mucosal immunology in the respiratory tract

Mucosal immune system of upper respiratory tract particular reference to the ear and nose, and mucosal vaccine development for otitis media and sinusitis.

## Basic and Clinical Science of Wound Healing

We investigate the mechanisms and pathogenesis of wound healing and we learn how to make diagnosis and treat chronic ulcers.

び、新しいアイデアを生む訓練をする。

### 皮膚疾患病態学

最新の研究を、方法論の限界や質問を考えながらレビューし、皮膚疾患の病態を病理組織レベル、及び分子レベルで解説する。批判力を養い、研究の歴史、関連領域も含めて幅の広い学識を得ることも目標とする。

### 過大侵襲と酸化ストレス

生体に手術などの過大侵襲が加わると、全身性炎症反応が誘導される。これに伴い活性化された好中球からは活性酸素種が過剰に放出され、いわゆる酸化ストレスが生じ、全身性に血管内皮細胞が傷害される。酸化ストレスが制御できなければ、結果として、多臓器不全へと至り、予後に大きく影響する。よって、周術期管理医学領域では、過大侵襲後の炎症反応だけでなく、酸化ストレスの制御も重要な研究テーマとなっている。

### 急性炎症と臓器障害

敗血症、多発外傷などの高度侵襲時に、本来は防御機構として生じる炎症反応が過剰となることにより、自己組織が損傷され、多臓器傷害が誘導される。その高い死亡率、発症機序、新規治療法の開発に関しては様々な報告がなされ、周術期管理医学領域では、麻酔科医にとって、最も重要な臨床的・基礎的研究のひとつとなっている。本科目では炎症性メディエータと臓器傷害の関連を解明し、新たな治療法を確立することを目的とする。

### 運動器画像診断学

運動器疾患における画像診断の読影法やポイントについて臨床症例より学習する。

### 運動器疾患治療学

主に外科的治療が必要な運動器疾患について外科的治療法の計画について臨床例を基に学習する。

### 外科臨床診断治療学

消化器外科疾患に対する術前診断、術式選択、摘出標本の観察・診断、および術後症例検討を行い、科学的な臨床判断力を養い、総合的な臨床能力を身に着けることを目的とする。

### 外科分子腫瘍学

腫瘍の増殖・発育・進展および細胞内シグナリングのメカニズムを学習し、各種癌細胞株や動物モデルを用いて、遺伝子およびタンパクレベルの解析を行い、その解明を目的とする。

### 排尿機能病態学

下部尿路機能障害の病態生理学的特徴に基づいた診断と治療。

### 生殖・周産期病態学

生殖医学、周産期医学における生理・病態について学ぶ。

### 総合画像診断学

CT、血管造影、核医学、超音波診断学、磁気共鳴診断学を包括した総合画像診断学を、病理学、解剖学、遺伝子異常、臨床像と対比させて教授する。

### 低侵襲治療学

非手術的に低侵襲治療を行なう放射線治療学と Interventional Radiology (IVR) を包括する。遺伝子多型の検索も含めた臨床腫瘍学、血管内治療新技術の開発研究方法等も教授する。

Through these processes, we train to make new ideas for investigations.

### Molecular and Immune Pathology of the Skin

We discuss the latest research from a technical and a scientific point of view and review the pathogenesis of skin diseases based on histopathology and molecular biology. Through these processes, we learn the wide knowledge about the related regions and the history of the research, and we train to get the critical ability.

### Oxidative stress after systemic inflammatory insults

Acute lung injury is one of the leading causes of multiple organ dysfunction syndrome. The aim of this course is to clarify the mechanism of ALL and develop new therapeutics.

### Acute inflammation and multiple organ injury

Excessive inflammatory responses induced in major insults such as septic shock, multiple trauma and so on can induce massive and uncontrolled release of proinflammatory mediators and eventually lead to multiple organ injury. The aim of this course is to figure out the relationship between acute inflammatory mediators and multiple organ injury, and consequently develop new therapeutics.

### Diagnostic Imaging of Orthopaedic Surgery

You study how to read the orthopaedic images and get the point of the diagnosis using the orthopaedic images from clinical case.

### Clinical Therapy of Orthopaedic Surgery

You study how to plan the surgical orthopaedic procedure from clinical case.

### Surgical science of clinical diagnosis and therapy

Regarding gastrointestinal diseases, we have a conference on such as a preoperative diagnosis, selection of operative procedure, observation and diagnosis of resected specimen, and aim at developing scientific and clinical judgment, acquiring comprehensive clinical skills.

### Surgical science of molecular biology and oncology

From an intra-cellular signaling point of view, we learn the mechanisms for growth, invasion and progression of tumor, and study clinical applications to control of tumor.

### Pathophysiology of Voiding Function

To learn the diagnosis and treatment for lower urinary tract dysfunction (LUTD) based on pathophysiological approaches.

### Reproductive and perinatal pathophysiology

The aim of this course is to learn pathophysiology in the field of reproductive and perinatal medicine.

### Radiological Science of Diagnostic Imaging

To learn general radiological diagnosis, including CT, angiography, ultrasound, nuclear medicine and MRI with correlation of pathology, anatomy, gene abnormality, and clinical presentations.

### Science of Less Invasive Therapy

1. To learn less invasive therapy such as radiation therapy and interventional radiology (IVR).
2. To learn clinical oncology including gene polymorphism and methodology of development research for intravascular treatment.

## 救命救急医学

救命救急医学をエビデンスに基づいた各種救急標準コース（心肺蘇生法、外傷初療ならびに災害医学など）を元に教授する。また、学んだ内容を成人学習の理論に基づき効果的に指導しようよう教授する。

## 脳卒中・神経救急医学

脳卒中をはじめとした脳疾患および神経疾患の救急医療に関する最新の診断・治療を未来の展望も含め習得・研究する。

## 薬物治療解析学

適正な薬物治療の基礎となる薬効評価学，臨床薬理遺伝学を習得する。

## 病態薬理遺伝制御学

薬物の体内動態を研究する方法を学び，薬物治療モニタリングが実施可能となる。

## 創薬育薬医療コミュニケーション

医療コミュニケーション能力と倫理感の優れた創薬育薬医療スタッフを育成し，「臨床研究の論理と倫理」を身につけるための科目である。

## ※摂食・嚥下機能

前癌病変からの発癌，癌の転移とその因子，口腔粘膜癌における化学療法の治療効果予測，顔面形態と咀嚼機能，顎顔面先天異常発生に関与する遺伝子異常，口唇・口蓋裂児の顎顔面発育，口腔病変と病態生理。

## 硬組織

顎骨の再建，骨髄幹細胞の分化誘導と骨・軟骨の再生，口腔インプラントの維持と機能。

## 医薬品適正使用

科学的根拠に基づいた総合的な薬物療法を実施できる能力を身に付けることを目標とする。

## 地域医療・総合診療学

地域で生活する慢性疾患を有する患者が，安定な病状を維持し，健康に社会生活を送れる要因，一方，増悪により生活の質を低下させる因子を明らかにするために，疾患の経過と社会的・精神的・免疫学的背景の関連について研究する。

## Critical Care Medicine

To learn the critical care of fatal emergency diseases and trauma based on the guidelines and standardized course of cardiopulmonary resuscitation, trauma and disaster medicine.

## Stroke and Emergency Neurology

We learn and research the most up-to-date diagnosis and therapy about the emergency disorder of central nervous system, especially stroke.

## Scientific basis of clinical pharmacology and pharmacotherapeutics

Analysis for Pharmacotherapeutics is studied the Clinical Drug Evaluation and Clinical Pharmacogenetics based on the rational drug therapeutics.

## Clinical Pharmacology and Pharmacogenetics

We learn the method to study an internal change of the drug and can carry out drug therapy monitoring.

## Pharmaceutical Medicine and Communication

Pharmaceutical medicine and communication is the subject to educate the staff working for drug development and fostering with high creativity and good communication skills, and with the mind of logic and ethics for clinical research.

## ※Therapeutics for Oral-maxillofacial Diseases

Study the genes involved in the estimation of therapeutic effects of chemotherapy in metastatic cancer, cancer from precancerous lesions and its factors, oral mucous membrane cancer, craniofacial morphology and masticatory function, jaw-facial congenital malformations, diseases, development of cleft lip and cleft jaw, oral lesions and pathological physiology.

## Basic Science of Hard Tissue Diseases

The aims of this course are to study reconstruction of the maxilla and mandible, regeneration of bone and cartilage by inducing differentiation of bone marrow stem cells, and bone augmentation for the dental implant treatment.

## Proper use of drugs

The purpose of this category is to develop evidence-based applied pharmacotherapy.

## Practice-Based Research on Community and General Medicine

Practice-based research: Analysis of social, psychological and immunological factors which induce acute exacerbation of chronic diseases in community rural areas.

# がん研究領域 *Cancer Research*

がん研究領域に関する授業科目は次のとおりである。

The subject about Cancer research is as follows.

## がん分子標的薬開発

がんの臨床および基礎研究の両面の知識を持った人材を育成することが本コースのねらいである。

## Development of Targeted Cancer Therapies

It is the aim of this course is to develop the human resources with both knowledge of clinical and basic research for cancer.

## がんの診断病理学

がんの肉眼的，組織学的特徴を理解し，がんの病理診断に必要な免疫組織化学的手法および遺伝子診断法の習得を目的とする。

## Diagnostic pathology of cancer

The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology for the neoplastic diseases, including morphology, immunohistochemistry and genetic analysis.

## 呼吸器外科腫瘍学

呼吸器領域の悪性腫瘍の発生と増殖メカニズムについて，分子レベルで理解し，分子生物学的理論とエビデンスに基づいた治療体系を習得する。

## Surgical Science and Thoracic Oncology

We learn pathogenesis and progressive mechanisms of the thoracic malignant tumors, and learn therapeutic strategy based on molecular findings and evidences which were obtained from translational research.

**内視鏡外科治療学**

内視鏡外科の理論の理解と技術の開発, また生体侵襲や全身・局所への免疫性, 腫瘍の発育浸潤に与える影響を, 基礎的・臨床的観点から明らかにすることを目的とする。

**がん放射線治療学**

各種疾患に対する通常の外部照射法や, 定位放射線治療, 強度変調放射線治療, 密封小線源治療などの適応・方法・効果・副作用を教授し, がん治療における放射線治療の意義を学ぶ。

**がん薬物療法学**

がん薬物療法の選択法, 支持療法, 効果判定法などを習得する。薬剤の薬理, がん臨床研究の方法論を理解し, 標準的薬学療法の開発および新規抗がん剤や分子標的薬剤の臨床開発を行う。

**緩和医療学**

癌性疼痛の機構を理解し科学的診断法, 薬物療法, 神経ブロック療法などの多角的治療法の理論的背景を理解し実施方法を身につけることを目的とする。

**呼吸器腫瘍診断治療学**

呼吸器腫瘍に対してエビデンスに基づいた標準的治療を適切に行う能力, エビデンスを構築するための基礎的・臨床的研究の意義を理解し, それを遂行する能力や臨床的問題への解決・判断能力を養う。同時にがん薬物療法専門医の取得を目指す。

**消化器腫瘍診断治療学**

消化器腫瘍の診断・治療法の最近の進歩および早期診断・最新治療の導入により, 癌患者のQOL向上の可能性について学ぶ。

**腎尿路生殖器腫瘍診断治療学**

腎尿路生殖器腫瘍の細胞・分子生物学的特徴に基づいた診断と治療。

**婦人科腫瘍診断治療学**

婦人科領域の腫瘍における病因・病態について学ぶ。

**乳腺腫瘍診断治療学**

乳癌の発生と増殖メカニズムを分子生物学的な観点から探求し, 理論に基づいた診断と治療体系を習得する。

**中枢神経腫瘍診断治療学**

中枢神経腫瘍を形態・脳機能・分子生物学的に総合診断する。

**皮膚腫瘍診断治療学**

皮膚腫瘍の病態を病理組織レベル・及び分子レベルで理解し, 診断, 治療法について学習する。

**骨軟部腫瘍診断治療学**

骨および軟部に発生する腫瘍(特に肉腫)について, 診断と治療を学習する。

**頭頸部腫瘍診断治療学**

頭頸部は多様な機能を持つ臓器が隣接し, この領域に発生した腫瘍による症状・所見はそれぞれ特徴がある。本講義では頭頸部の臓器に発生する腫瘍の制御と機能の維持に関する基礎的・臨床的な課題について学ぶ。

**Endoscopic Surgery**

We discuss the significance of a new technical development of endoscopic surgery with minimal invasiveness, from the point of view that how they affect systemic and local immunities, and also growth, invasion and progression of tumor.

**Radiation Oncology**

1. To understand standard radiation therapy for external irradiation to a wide variety of diseases.
2. To understand the indication, method, treatment effect and adverse effect for standard external irradiation, stereotactic radiotherapy, intensity-modulated radiotherapy (IMRT), and brachytherapy.
3. To learn clinical significance of radiation therapy in the area of cancer treatment.

**Medical Oncology**

The aims of this course are: 1) learning indication of chemotherapy for cancer, 2) learning supportive care, 3) learning methodology of response evaluation, 4) understanding pharmacology of anticancer agents, 5) understanding methodology of clinical research for cancer, 6) establishment of standard chemotherapy, and 7) development of novel anticancer agents (including molecular target agents).

**Palliative Medicine**

We understand the mechanism of the cancer-pain and understand the theoretical backgrounds of the multidirectional care, such as scientific diagnostic methods, drug therapy and the nerve blocks, and learn the technical skills.

**Clinical Management for Respiratory Malignancies**

The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory malignancies through the clinical research as well as to get the license of anticancerous chemotherapy specialist.

**Diagnosis and treatment for the tumor of digestive organs**

Research of recent progress of diagnosis and treatment for gastroenterological cancer, and possibility of QOL improvement of patients with carcinoma.

**Diagnosis and therapy for genitourinary tumors**

A diagnosis and the treatment that were based on a characteristic of a cell / the molecular biology of the kidney urinary passage sex organs tumor.

**Clinical diagnosis and treatment of gynecologic tumor**

The aim of this course is to learn about the pathogenesis and pathophysiology of the gynecologic tumors.

**Diagnosis and therapy for disease of the breast**

We examine the molecular mechanisms of pathogenesis and progression in breast cancer, and learn diagnostic and therapeutic strategy.

**Clinical diagnosis and therapy for brain tumors**

General diagnosis of brain tumors with morphological, functional and biological techniques.

**Diagnosis and Management of the Skin Cancer**

We understand the histopathological and molecular levels of cutaneous neoplasms and we learn how to make diagnosis and treat them.

**Diagnosis and treatment of Bone-and Soft Tissue Tumor**

About a bone and a tumor (a sarcoma in particular) breaking out in soft, We learn a diagnosis and treatment.

**Diagnosis and Therapy for Head and Neck Tumors**

In the head cervix, the internal organs with various functions are adjacent, and a symptom / the views by the tumor which broke out in this domain are characteristic each. We learn it from the internal organs of the head cervix about the control of a tumor breaking out and a clinical problem of the basics about the maintenance of function by this lecture.

## 小児血液・がん診断治療学

小児期の血液悪性疾患、固形がんの発生と基礎的病態

## Principles and Practice of Pediatric Hematology and Oncology

The ontogenesis and its basic pathogenesis of pediatric hematological malignancies and solid tumors.

## 地域・在宅医療学

がん医療に関する高い知識・技能を身につけ、地域病院において他診療科医師と協働して病院全体のがん医療の質を向上させ、地域におけるがん在宅医療を他職種とともに実施できる能力を身につけることを目的とする。

## Community and Homecare Medicine in Oncology

The aim of this course is to acquire the knowledge and skills on clinical oncology, to improve the quality of oncological medical care in community hospitals in cooperation with specialists in other departments, and to acquire the abilities to provide homecare medicine for patients with advanced cancer.

## 臨床腫瘍治療学

臨床腫瘍学に関する深い知識を習得し、外科的治療、放射線治療、薬物治療、緩和ケア等に関する高い技能・態度を身につけ、安全ながん診療をチーム医療として提供できるため、専門診療科に属して実技演習を行う。

## Therapeutics of Clinical Oncology

The aim of this course is to acquire a deep knowledge and high skills of clinical oncology including surgical treatments, radiation therapy, drug therapies and palliative care and to acquire abilities to provide safety medical oncological care.

## 全領域共通の選択必修 *Compulsory elective*

### 研究推進実践論

- (実践セミナー) 実験の手法や手技、各分野に共通した基本的理論修得のために必要な最新の医学・医療知識を学ぶことにより、研究着手に際して必要な技術を習得する。
- (大学院セミナー) 教授・准教授による専門性を凝縮した講義で、個別の研究に幅を持たせ、診療に従事する際の視野を拡げる。

### Practice & Progress on Research

In practice seminars, we learn the latest experimental methods which are basic and commonly used in each research field at the beginning of the course.

In research seminars, the professors and the associate professors will give lectures in their research fields. The graduate students will have chance of getting hints or inspiration in their own research.

In medical practice, the graduate students, who work in clinics, will report the cases in the clinical meetings or in the clinical journals instead of taking seminars.

これらを年間を通じた日程で行うが、社会人学生には都合に合わせて選択履修が可能な措置を講ずる。

- (地域医療実践) 社会人学生で、特に地域医療にかかわる者にあつては、指導教員と協議の上で地域医療実践計画書を作成し、上記セミナーでの講義と共に自らが携わる医療現場での症例経験を検討し、地域医療現場での業務の発表や報告書の提出をもって、講義の一部に換えて評価する場合もある。

### 医療英語

医療英語語彙を習得し、基礎的な医療英語の読解と聴解技能を練成する。

### Medical English

1. To acquire medical vocabulary.
2. To improve basic reading and listening skills in English through medical news and articles.

### 医療英会話

教科書をもとに医療英語語彙を習得し、臨床の話題や実際にあった臨床例を英語で議論する。

### Medical English Conversation

1. To acquire medical vocabulary.
2. To improve English conversation skill through discussion of clinical topics and episodes.

### 生命倫理学

医療者が臨床における複雑な倫理的課題を解決する能力の養成を、症例検討を通して行うことを目標とする。

### Bioethics

This course will provide training of solving ethical problems in complicated clinical settings for health-care professionals through case examination.

### 医学統計

医学研究計画の型、データの整理、標本分布、推定と検定、回帰分析、実験計画法、数理感染症モデルを講義する。また、実際の医学研究での統計解析例も紹介する。

### Biostatistics

In this subject, the following contents are introduced: (i) common types of biomedical studies; (ii) descriptive statistical methods; (iii) sampling distributions; (iv) parameter estimation and tests of hypotheses; (v) regression analysis and experimental designs; and mathematical epidemic models. Examples of practical data analyses are also provided.

### 医療情報システム学

病院情報システム全般を理解すると共に、診療情報から研究用のデータベースを作成する際に必要な知識と技術を習得する。

### Medical Informatics

The purpose is to understand the integrated hospital information system of the university hospital, and to get the knowledge and the method to construct the research database from the electronic medical records.

※は担当教員不在のため、平成28年度は開講しません。

## 修士課程 Master's Degree Program

### 教育目的 Educational Purpose

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

Students are trained to be educators and researchers with a broad outlook, good sense of judgment and leadership abilities who will contribute to the international society.

### 医科学専攻 Medical Science

#### 教育目標

医療人として以下の資質を備えた人材を育成する。

1. 医学の基本的知識や研究手法を理解、吸収し、各自の専門領域の研究や技術に応用し、新しい発想の研究や技術開発に貢献する人材。
2. 近年の医学・医療を取りまく状況を理解し、地域の全ての住民が健康で幸福な生活を享受できるよう、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決に貢献する人材。
3. 医学と各自の専門領域の融合を図り、健康推進に関連する産業界の活性化に貢献する人材。
4. 豊かな人間性や指導力をもった教育・研究者として自立し、医学系研究科博士課程等への進学を目指す人材。

#### Program Aims

Nurturing medical specialists who will:

1. Acquire an understanding of fundamental medical knowledge and research techniques, apply these to their individual fields of specialization, and devote themselves to developing new theories and techniques.
2. Understand the recent developments in medicine and medical treatment and through new ways of thinking about problems in healthcare and welfare, contribute to their solution, bringing health and happiness to the people.
3. Bring together medicine and their own fields of specialization, and contribute to the revitalization of industries related to the promotion of health.
4. Aim to continue studies at the PhD level, eventually taking on the roles of independent educators and researchers with a sense of humanity and leadership.

### 看護学専攻 Nursing Science

#### 教育目標

医療人として以下の資質を備えた人材を育成する。

1. 看護理論を各専門領域の看護実践に応用することができる人材。
2. 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識と技術を発揮することができる人材。
3. 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職としての意思決定及び主体的に行動できるとともに、指導力を発揮することができる人材。
4. 看護教育の理論と実践に関する高度な知識と技術を修得し、優れた教育活動を実施することができる人材。
5. 看護理論の検証や看護技術の開発、検証を行い、実践に応用することができる人材。
6. 複雑かつ多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、学術的及び国際的に活躍することができる人材。

#### Program Aims

Nurturing nursing specialists who will:

1. Apply nursing theories to practical nursing in their individual fields of specialization.
2. Display an advanced expertise of practical nursing and nursing management.
3. Demonstrate decisiveness, independence and strong leadership in relating with the specialized fields of healthcare, medical treatment and welfare.
4. Acquire a high level of knowledge and skills in nursing education, and use them to provide quality education.
5. Develop and verify nursing theories and techniques, and put them to practical use.
6. Deal flexibly with a variety of complex health problems, and play an active role both academically and in the international arena.

## 大学院医学系研究科学生数

(平成28年5月1日現在)

Graduate Students

(as of May 1, 2016)

区分 Classification	修士課程 Master's Degree Program		
	医科学 Medical Science	看護学 Nursing	計 Total
入学定員 Admission Quota	15	10	25
収容定員 Capacity	30	20	50
1学年 1st yr.	(3) 13	(10) 10	(13) 23
2学年 2nd yr.	(6) 14	(11) 11	(16) 25
計 Total	(8) 27	(21) 21	(29) 48

区分 Classification	生体防御 医学専攻 Infection and bio-Defense Medicine	分子機能制 御医学専攻 Molecular Function and Medicine	医学専攻 Philosophy in Medical Science	計 Total
	入学定員 Admission Quota			
収容定員 Capacity			120	120
1学年 1st yr.			(3) 26	(3) 26
2学年 2nd yr.			(11) 24	(11) 24
3学年 3rd yr.			(13) 25	(13) 25
4学年 4th yr.	(1) 1	(0) 1	(15) 55	(16) 57
計 Total	(1) 1	(0) 1	(42) 130	(43) 132

備考 ( ) 内は女子を内数で示す。 Note : ( ) indicates the number of female students included.

## 日本学生支援機構奨学生数

(平成27年5月1日現在)

Japan Student Services Organization

(as of May 1, 2015)

区分 Classification	大 学 院 School of Medicine				
	1学年 1st yr.	2学年 2nd yr.	3学年 3rd yr.	4学年 4th yr.	合計 Total
第1種 Cat. 1	3	6	1	2	12
第2種 Cat. 2	3	3	0	0	6
計 Total	6	9	1	2	18

## 博士の学位授与数

Number of Degrees Conferred

区分 Classification	昭和62年度 ~平成18年度 1987~2006	平成 19年度 2007	平成 20年度 2008	平成 21年度 2009	平成 22年度 2010	平成 23年度 2011	平成 24年度 2012	平成 25年度 2013	平成 26年度 2014	平成 27年度 2015	計 Total	
	博士(医学) Doctor of Philosophy	課程修了者 Degrees Awarded	383	21	14	13	22	31	19	19	23	17
	論文提出者 Theses Accepted	251	17	10	9	14	15	11	2	4	7	340



## 国際交流 *International Exchange Programs*

国際交流の意義は、国際社会の発達に貢献するため、新たな文化の創造による社会の発展への寄与、日本社会の国際化、日本への関心の高まりに対する対応、人づくりなどに対する国際交流・協力である。

本学部においては、外国人留学生・研究者等の受け入れ、国際研究プロジェクトへの参加、海外の大学等との交流協定締結、国際協力事業への参加等の国際交流により国際社会への貢献を果たしている。このうち、外国人留学生・研究者等の受け入れ、海外の大学等との交流協定締結は次のとおりである。

International exchange plays a major role in the development of global consciousness and culture, and assists in the 'internationalization' of Japanese society. It also assists in the development of specialist human resources.

To this end, the school welcomes foreign students and researchers. It participates in, and co-operates with, international research projects and has exchange agreements with a number of overseas universities. Statistics on foreign students, research staff and universities are detailed below.

### 交流協定締結校

(平成28年4月1日現在)

Sister Universities

(as of Apr 1, 2016)

大学等名 Universities and Hospitals	国名 Country	協定締結日 Date of Conclusion of Exchange Agreement	
サントドミンゴ自治大学 Autonomous University of Santo Domingo	ドミニカ共和国 Dominican Republic	平成元年12月14日 Dec. 14, 1989	大学間協定
河北医科大学 Hebei Medical University	中華人民共和国 People's Republic of China	平成4年1月26日 Jan. 26, 1992	学部間協定
ルイス・エドワルド・アイバル病院 Dr. Luis E. Aybar Hospital	ドミニカ共和国 Dominican Republic	平成8年12月13日 Dec. 13, 1996	学部間協定
サン・ラザロ病院 San Lazaro Hospital	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成13年11月9日 Nov. 9, 2001	大学間協定
高麗大学校 Korea University	大韓民国 Republic of Korea	平成16年2月20日 Feb. 20, 2004	大学間協定
メリーランド大学ボルティモア校 University of Mery land, Baltimore County	アメリカ合衆国 United States of America	平成16年5月23日 May. 23, 2004	大学間協定
セントルークス病院 St. Luke's Medical Center	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成19年9月25日 Sep. 25, 2007	大学間協定
アイルランガ大学医学部 Airlangga University Faculty of Medicine	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	平成20年5月12日 May. 12, 2008	学部間協定
ハノイ医科大学 Hanoi Medical University	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Vietnam	平成20年10月23日 Oct. 23, 2008	大学間協定
ホーチミン医科薬科大学 Ho Chi Minh City University of Medicine and Pharmacy	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Vietnam	平成20年10月24日 Oct. 24, 2008	大学間協定
チョウライ病院 Chó Ray Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Vietnam	平成20年10月24日 Oct. 24, 2008	大学間協定
チュラロンコーン大学 Chulalongkorn University	タイ The Kingdom of Thailand	平成21年11月10日 Nov. 10, 2009	学部間協定
108病院 108 Hospital	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Vietnam	平成21年11月16日 Nov. 16, 2009	大学間協定
高雄医学大学 Kaohsiung Medical University	台湾 Taiwan	平成22年4月27日 Apr. 27, 2010	学部間協定
国立台湾大学 National Taiwan University	台湾 Taiwan	平成23年10月17日 Nov. 17, 2011	学部間協定
アイルランガ大学熱帯病研究所 Airlangga University Institute of Tropical Disease	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	平成25年4月17日 Apr. 17, 2013	学部間協定
サント・トマス大学 Santo Tomas University	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	平成25年9月13日 Sep. 13, 2013	学部間協定
ラチャウイティ病院 Rajavithi Hospital	タイ The Kingdom of Thailand	平成27年1月7日 Jan. 7, 2015	学部間協定
第3国家中央病院 The Third State Central Hospital	モンゴル Mongolia	平成27年4月21日 Apr. 21, 2015	学部間協定
モンゴル国立医科大学 Mongolian National University of Medical Sciences	モンゴル Mongolia	平成27年4月29日 Apr. 29, 2015	学部間協定
マヒドン大学 Mahidol University	タイ The Kingdom of Thailand	平成27年8月24日 Aug. 24, 2015	大学間協定
香港中文大学 The Chinese University of Hong Kong	香港 Hong Kong	平成28年1月18日 Jan. 18, 2016	大学間協定

## 国別外国人留学生数及び外国人研究者等数

(平成27年度)

Number of Foreign Students, Foreign Researchers and Visitors by Countries

(in 2015)



	外国人留学生数 Foreign Students	外国人研究者等数 Foreign Researchers and Visitors	計
アフガニスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Afghanistan	1	0	1
タイ王国 Kingdom of Thailand	2	0	2
ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	2	0	2
モンゴル Mongolia	1	0	1
ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	1	0	1
中華人民共和国 People's Republic of China	8	3	11
インドネシア共和国 Republic of Indonesia	1	0	1
合計 Total	16	3	19

## 関連教育病院 *Affiliated Teaching Hospital*

大分大学医学部の関連教育病院である大分県立病院では、医学科6年次生が救急医療を含む多くの症例を経験することができる。

Medical students in the sixth academic year can experience treating a variety of medical cases, including emergency treatment, in Oita Prefectural Hospital - the affiliated teaching hospital of the Faculty of Medicine at Oita University.

### 大分県立病院

Oita Prefectural Hospital



所在地 Mailing Address and Telephone Number

所在地 Address	電話番号 Telephone No.
〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 476 Bunyo Oita City 870-8511 Japan	(097) 546-7111 (電話案内) (Information)

# 附属病院

University Hospital

## 大分大学医学部附属病院の理念・基本方針・患者さんの権利

### 理念

本院は、  
「患者本位の最良の医療」を基本理念とする。さらに、高度先進医療の開発と提供をとおして、倫理観豊かな医療人を育成し、地域社会の福祉に貢献する。

### idea

The our hospital assumes "Best medical treatment of the patient standard" to be a basic philosophy.  
In addition, it pushes, the medical treatment person of rich ethics is promoted, and it contributes to the well-being of the community with development and the offer of the sophisticated medical technology.

### 基本方針

本院は、

- 一 患者本位の医療を実践する。
- 一 医療の質及び医療の安全性の向上に努める。
- 一 医学、医療の発展と地域医療の向上に寄与する。
- 一 教育、研究、研修の充実を図る。
- 一 病院の管理・運営の合理化を推進する。

### Basic Policy

- We practice patient-centered medicine.
- improve the safety of the quality of medical care and medical treatment.
- We strive to develop new medical studies and medical care and to contribute to community medicine.
- We work to improve education, research and training.
- We promote reformed and more efficient hospital management and administration.

### 患者さんの権利

- 個人の尊厳が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気、検査、治療などについて、十分な説明を受け、理解した後、治療方法などを自らの意思で同意又は拒否を選択することができます。
- 自分の診療記録について、本院の規則に則って情報の提供を求めることができます。
- 診療における個人情報を守られ、プライバシーが最大限尊重されます。
- 教育実習及び研究の協力者となることを断ることができます。
- 医療行為の選択にあたっては、他の医療機関を選択することができます。
- 診断や治療方法について、他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
- 身体の不自由な方、外国人の方にも、できる限りの支援をいたします。

### Patient's right

- The personal dignity is esteemed, and a good quality medical treatment can be received impartially.
- After an enough explanation is received about the sickness and the inspection and treatment, etc., and it understands, the method of treatment etc. can select agreement or the refusal by an own intention.
- The giving information of my diagnosis and treatment record can be requested in accordance with the rule of the our hospital.
- Individual information in the diagnosis and treatment is defended, and privacy is maximum esteemed.
- It can be refused to become the cooperater of the student teaching and the research.
- When the medical practice is selected, other medical institutions can be selected.
- Other medical treatment people's opinions (second opinion) of the diagnosis and the method of treatment can be requested.
- I will support it for making it to physically handicapped one and the foreigner.

# 診療科

Clinical Departments

## 呼吸器内科

Respiratory Medicine

呼吸器疾患は腫瘍性疾患、感染性疾患、閉塞性肺疾患、アレルギー性肺疾患、間質性肺疾患、胸膜および縦隔疾患など比類ないほど多岐にわたっている。

肺腫瘍や慢性閉塞性肺疾患（COPD；肺の生活習慣病、タバコ病）は年々増加傾向にある疾患である。当科ではエビデンスに基づいた最新の治療内容を導入し、先進的な診断・治療法を提供する体制を整えている。

肺炎などの呼吸器感染症は、最新の適切な検査法を用いて迅速に診断し、ガイドラインを基に的確な抗菌薬を選択し治療を行っている。新規抗菌薬による治療も行っている。

喘息は、吸入ステロイド剤を中心とした新たな治療法と患者教育の充実を図り、予防およびピークフローメーターによる自己管理・吸入療法の指導をしている。

びまん性肺疾患は、診断・治療が難しく、抗原の検索や組織学的な診断を踏まえた診療が必要な疾患である。特にサルコイドーシスや特発性間質性肺炎は、気管支鏡による気管支肺胞洗浄液の解析や、胸腔鏡下肺生検を施行し、専門的な確実な診断をつける大分県の中核的な医療機関として、多数の患者さんの診療にあたっている。

当科は内科学会、呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、感染症学会、臨床腫瘍学会、アレルギー学会認定施設であり、多くの呼吸器専門医と感染症専門医が常在しており、これら疾患全般について幅広く診療を行い、最新の技術を駆使して、的確な診断と治療および病態の把握を行っている。

We treat various diseases including lung cancer, respiratory infections, allergic lung disease, interstitial lung disease, and plural and mediastinal disease.

Lung cancer and pulmonary emphysema (COPD: chronic obstructive lung disease) are increasing year by year. The content of the latest treatment on evidence is introduced in this department, and we have the system of supplying an advanced diagnosis and treatment method.

Respiratory infectious diseases such as pneumonia are diagnosed with the latest appropriate inspection method quickly. We select an adequate antibiotic based on the guideline. We are studying the new antimicrobial agents for the common and/or severe respiratory infection.

For the asthma, we plan a new treatment mainly on inhalation steroid and substantiality of patient education. We teach the self-management and inhalation treatment using a peak flow meter to prevent the asthma.

The diagnosis and treatment of the diffuse lung diseases are difficult. These diseases should be examined and treated on the basis of an antigen and histological diagnosis. Especially, for the sarcoidosis and interstitial lung disease, we analyze bronchoalveolar lavage fluid and lung biopsy by a bronchoscopy and a thoracoscopy. A lot of patients with these diseases are examined and treated in this institution as the medical center of Oita Prefecture where a certain diagnosis is applied.

Our department is an authorization institution of The Japanese Society of Internal Medicine, The Japanese Respiratory Society, The Japanese Society for Respiratory Endoscopy, The Japanese Association for Infectious Diseases, The Japanese Society of Medical Oncology, and The Japanese Society of Allergology. Many regular staffs of specialists of respiratory disease and infectious disease are working in this department. We make an adequate diagnosis and treatment, and grasp the condition of a patient by widely treating these diseases whole and making a good use of the latest technology.

## 内分泌・糖尿病内科

Endocrinology, Diabetology and Metabolism

内分泌糖尿病内科では、肥満、糖尿病、高血圧症、代謝性疾患といった生活習慣病と内分泌疾患、摂食障害などの診療を担当している。我々は外来で内分泌検査を実施し、見逃されやすい内分泌疾患のスクリーニングを積極的に行い、治癒可能な原発性アルドステロン症などの二次性高血圧を早期に発見して治療を行っている。日本および米国の原発性アルドステロン症診療ガイドライン作成にも関わり、高血圧診療では高い評価を得ている。また、肥満症治療においてもオリジナリティの高い行動療法を実践しており、この分野では日本をリードしている。高度肥満症の治療では、肥満外科と管理栄養士とのチーム医療により、よい成績をおさめている。

Our expert physicians specialize in the prevention, diagnosis and treatment of life style-related diseases, such as obesity, diabetes, hypertension, metabolic, endocrine and eating disorders. We are extensively doing endocrine screening tests to search patients with curable secondary hypertension such as primary aldosteronism. We are involved in the development of primary aldosteronism clinical practice guideline in Japan as well as US. We also apply the unique behavioral therapy for the treatment of obesity. We garner immense praise from clinical practice of primary aldosteronism and obesity. Our medical team with metabolic surgeons and dieticians produces good results for treatment of morbid obesity.

## 膠原病内科

Rheumatology

我々膠原病内科では、全身性自己免疫疾患である関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎/多発性筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎（側頭動脈炎）、結節性多発動脈炎、ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）、ベーチェット病、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、脊椎関節炎、IgG4関連疾患、自己炎症症候群などの診療を行っている。薬物療法としては従来の副腎皮質ホルモンや抗リウマチ薬に加え、新規の免疫抑制剤や生物学的製剤などが次々と開発され、予後は大きく改善してきている。特に生物学的製剤は高い有効性を示し、関節リウマチ治療にパラダイムシフトを起こしただけでなく、近年は他の膠原病治療にも適応が拡大されつつある。また難治例には血漿交換、白血球除去療法などの血液浄化療法も行っている。膠原病は全身に病変がおよび、診断や治療が困難な事も多いため、各臓器専門の診療科と連携をとりながら、大分県の中核的医療施設として免疫難病の克服を目指した診療を行っている。

In the department of Rheumatology we treat rheumatic diseases (systemic autoimmune diseases, connective tissue diseases, collagen diseases), such as rheumatoid arthritis (RA), systemic lupus erythematosus (SLE), systemic sclerosis, dermatomyositis / polymyositis, mixed connective tissue disease, Sjögren's syndrome, Takayasu's arteritis, giant cell arteritis (temporal arteritis), polyarteritis nodosa, ANCA associated vasculitis (microscopic polyangiitis, granulomatosis with polyangiitis, eosinophilic granulomatosis with polyangiitis), Behçet's disease, adult Still's disease, and polymyalgia rheumatica, spondyloarthritis, IgG4 related disease, autoinflammatory syndrome etc. Although glucocorticoids, DMARDs and immunosuppressants are the gold standard of the treatment, pharmacological management of rheumatic diseases has been rapidly progressed in recent years due to the development of various novel agents including biologic agents and small molecule inhibitors of intracellular signal transduction. Introduction of biologic agents caused a paradigm shift in the treatment of RA, and these new therapeutic approaches are being introduced in the treatment of other systemic autoimmune and/or inflammatory diseases. In some cases showing resistance to these pharmacotherapies, therapeutic apheresis such as plasmapheresis and leukocytapheresis can be used to treat. Although most rheumatic diseases could have multiple organ involvements and the diagnosis and treatment of these diseases are sometimes difficult, we cooperate with other medical specialists in many cases to make every possible effort to treat patients, as the core hospital of Oita Prefecture.

## 腎臓内科

Nephrology

腎臓内科で扱う対象疾患は、急性や慢性の糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、二次性の糸球体障害、すなわち糖尿病性腎症、膠原病による腎障害（SLE腎症など）、アミロイドーシス、妊娠中毒症、遺伝性腎炎、及び尿細管障害と多岐にわたる。また腎機能障害が高度となった急性や慢性の腎不全患者、血液透析、腹膜透析患者も対象となる。蛋白尿や血尿などの尿異常があれば、可能な限り腎生検を実施して確定診断を行うよう努めている。腎疾患の治療はステロイド剤や免疫抑制剤など内科的な薬物療法が中心だが、重症例には体外循環による治療（血漿交換、LDLアフェレーシスなど）も行っている。また、栄養管理室とのきめ細かな連携をはかり、慢性腎臓病の食事・生活指導を管理栄養士とともにしている。末期腎不全にて透析が必要な場合には、患者さんと相談のうえ血液透析と腹膜透析の選択を行い、維持透析施設と連携して治療にあたっている。合併症を有する透析患者さんには色々な科との協力のもと治療を行っている。当院は日本腎臓学会および日本透析医学会の認定施設にも指定されており、腎臓内科医の育成機関としての役割も担っている。

In the department of Nephrology, we treat various kidney diseases, such as acute or chronic glomerulonephritis, nephrotic syndrome, tubulointerstitial nephritis, and secondary glomerulonephropathy, especially diabetic nephropathy, lupus nephritis, amyloidosis, toxemia of pregnancy, hereditary nephritis, etc. In addition, we treat the patients with acute kidney injury or chronic kidney disease (CKD), and patients treated with hemodialysis or peritoneal dialysis. We try to decide the precise diagnosis of kidney disease with renal biopsy. Most of the patients with primary kidney disease are treated with steroid hormone or immuno-suppressants. In case of serious kidney diseases, we treat with extracorporeal circulation therapy, eg. plasma exchange, LDL apheresis, etc. For the treatment of CKD, dietary therapy is also performed in cooperation with national registered dietitians. In case of end stage kidney disease, we introduce the patients into hemodialysis or peritoneal dialysis treatment after sufficient talks with them, and cooperate with facilities for maintenance dialysis. We treat dialysis patient having complications in cooperation with other departments. Our department is authorized facility by the Japanese Society of Nephrology and the Japanese Society for Dialysis Therapy, and takes a role as training institution for nephrology specialist.

## 神経内科

Neurology

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、自律神経や筋肉の病気を対象とする分野である。患者は、(1)頭痛(2)意識障害(3)けいれん(4)運動麻痺(5)痛みと感覚障害(神経痛やしびれなど)(6)視力障害(7)めまい(8)耳鳴り、難聴(9)言語障害(10)嚥下障害(11)不随意運動(12)物忘れ、認知障害、知能障害などの症状を訴えて受診される。それには脳卒中・脳血管障害、脳炎・髄膜炎、HTLV-I関連脊髄症(HAM)、頭痛、めまい、てんかん、不随意運動(振戦、眼瞼痙攣、痙性斜頸、書痙など)、認知症(アルツハイマー病、クロイツフェルト・ヤコブ病)、パーキンソン病、ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症<ALS>)、脊髄性筋萎縮症など)、末梢神経疾患(ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー、中毒性ニューロパチーなど)、筋疾患(重症筋無力症、筋ジストロフィー、多発筋炎、皮膚筋炎など)、膠原病、糖尿病、内分泌疾患や癌などの全身疾患に合併する神経疾患など、数多くの疾患が含まれる。これらの多くは熟練した神経内科専門医が行う系統的な診察および特殊診断によりはじめて診断される。当科は日本神経学会教育施設であり、神経内科領域全般にわたる疾患の診断と治療を行っているが、とくに脳卒中、認知症、パーキンソン病、筋萎縮や筋力低下を主徴とする神経筋疾患の診療については成因解明と治療法の開発を含め積極的に取り組んでいる。また、ALSをはじめ種々の神経難病に対する療養支援も関連機関と連携して実施している。

We treat with diseases of the brain, spinal cord, peripheral and autonomic nerves, and muscle. The patients complain of various neurologic symptoms including (1) headache, (2) unconsciousness, (3) convulsion, (4) motor paralysis, (5) pain and sensory disturbance, (6) visual disturbance, (7) vertigo/dizziness, (8) tinnitus and hearing loss, (9) speech disturbance, (10) dysphagia, (11) involuntary movement, (12) forgetfulness and dementia. We treat any kinds of neurological diseases including stroke, cerebrovascular diseases, encephalitis and meningitis, HTLV-I associated myelopathy (HAM), migraine, vertigo, epilepsy, involuntary movement (tremor, blepharospasm, spasmodic torticollis, and writer's cramp), dementia (Alzheimer's disease, Creutzfeldt-Jakob disease), Parkinson's disease, Huntington's chorea, spinocerebellar degeneration, multiple sclerosis, ALS, peripheral neuropathy (Guillain-Barre syndrome, diabetic neuropathy, and toxic neuropathy), myopathy (myasthenia gravis, muscular dystrophy, polymyositis, and dermatomyositis), and neurologic diseases associated with systemic diseases including collagen disease and cancer. Most of these diseases are diagnosed according to the systematic neurologic examination and specific tests by neurologic specialists. Our hospital has been approved to be the educational institution for neurology resident training by Japanese Society of Neurology. In addition to our medical service on a wide variety of neurologic diseases, we focus mainly on the pathogenesis and treatment of stroke, dementia, Parkinson's disease, and neuromuscular diseases. We also provide medical and social care services for patients with intractable neurologic diseases, cooperating with concerned facilities.

## 消化器内科

Gastroenterology

消化器内科では、臓器別にみると上部消化管、下部消化管、肝疾患、胆膵疾患に大別される。最近、消化器疾患の診断面、治療面、病態生理解明において著しい進歩と展開がみられる。消化器癌の治療は、従来、開腹手術、開胸手術が主流だったが、近年、内視鏡的診断・治療が大いに進歩している。当院では、胃や大腸のポリープ・粘膜下腫瘍・早期癌に対し超音波内視鏡などを駆使して確定診断をおこなっている。また、治療としては、ポリペクトミーや粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に施行している。食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(Per-oral Endoscopic Myotomy: POEM)も平成26年2月より先進医療として施行している。

従来、診断治療が困難であった小腸病変に対しても、カプセル内視鏡やバルーン小腸内視鏡を用いた診断・治療を行っている。

また、肝細胞癌の診断面や内科的治療も著しく進歩してきており、さらに、肝炎に対する抗ウイルス療法も行っている。

消化性潰瘍の治療は、*H. pylori*の発見により大きな変化を見せており、最近増加傾向にある炎症性腸疾患に対しても新治療が出現してきた。当科では、臨床的また基礎的なデータをもとに、外科、放射線科などともタイアップし、専門的な検査、治療を行っている。尚、当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会指導施設および日本カプセル内視鏡学会指導施設として認定されている。

As for the department of gastroenterology, it is classified into upper and lower gastrointestinal diseases, hepatic diseases, biliary and pancreatic diseases. There are remarkable progress and development recently in a diagnosis side, a treatment side, pathologic physiology elucidation of digestive apparatus. As for the treatment of gastroenterological cancer, laparotomy and thoracotomy were the traditional mainstream, but in recent years, endoscopic treatment progresses remarkably. For the early cancer of a stomach, large intestine and esophagus, endoscopic submucosal dissection (ESD) or endoscopic mucosal resection is enforced positively. For the esophageal achalasia, new endoscopic therapy, Per-oral Endoscopic Myotomy: POEM is performed. In addition, diagnosis side and internal medical treatment of hepatocellular carcinoma progresses remarkably. Treatment of peptic ulcer showed a big change by discovery of *H. pylori*, and there appeared a new treatment method of inflammatory bowel diseases in an increase tendency recently. In this department, we do technical inspection and treatment source of a clinical and fundamental data with cooperation of surgical and radiological department. In addition, hospital is authorized by a guidance institution of the Japanese Society of Gastroenterology and Japan Gastroenterological Endoscopy Society.

## 循環器内科

Cardiovascular Medicine

循環器内科は、虚血性心疾患、高血圧、心不全、弁膜疾患、心筋症、不整脈ならびに先天性心疾患などを対象とした診断と治療を行っている。当院は日本循環器学会専門医指定研修施設に認定されており、慢性疾患に対する精査加療から急性疾患に対する救急医療まで多岐にわたる専門的診療を行っている。日常の検査・治療は検査部、放射線部、手術部、救急部、ICUおよび心臓血管外科などと連携のもとに行っている。主要な検査は生理学的検査、心臓核医学検査、心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査、マルチスライスCT、心臓MRIなどであり循環器疾患全般に及ぶ。治療としては、薬物療法以外にもカテーテルによる経皮的冠動脈インターベンション、経静脈的僧帽弁交連裂開術、経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）心臓同期療法ならびに植え込み型除細動器の植え込み術などを県内の他施設に先駆けて行っており、いずれも良好な成績をあげている。近年、循環器疾患の多くは生活習慣病の合併症として位置付けられており、この観点から、内分泌・糖尿病内科とも緊密に連携し、危険因子となる背景疾患の精査加療にも積極的に取り組んでいる。

We treat cardiovascular disease with the diagnosis that intended for ischemic heart disease, hypertension, heart failure, valvular disease, cardiomyopathy, arrhythmia, and congenital heart disease. This department is authorized by the Japanese Circulation Society designated specialist training institution, and holds advanced diagnosis and treatments for chronic heart diseases and emergency medical care to acute diseases. The diagnosis and treatment are usually performed in cooperation with laboratory medicine, the department of radiology, operation department, emergency center, ICU, and cardiovascular surgery. The major diagnostic examinations are physiological examination, cardiac nuclear examination, cardiac catheterization, electrophysiology, MD-CT, cardiac MRI, which cover a large part of cardiovascular diseases. As for the treatment, in addition to medication we started percutaneous coronary intervention, percutaneous transvenous mitral commissurotomy, catheter ablation, cardiac resynchronization therapy, and implantable cardioverter defibrillator ahead of other institutions in this prefecture, and satisfactory results were obtained. Recently, many of cardiovascular diseases are recognized as a complication of lifestyle-related diseases, from this point of view, and we cooperate with internal secretion and diabetes medicine closely, and have wrestled with the treatment of risk factors and background diseases of cardiovascular disease enthusiastically.

## 血液内科

Hematology

血液内科では、再生不良性貧血や溶血性貧血などの各種貧血、血液悪性疾患（白血病、リンパ腫、骨髄腫、骨髄異形成症候群）、出血性疾患（血小板減少症、凝固線溶異常症）などの診断、治療を幅広く行っている。白血病に関しては日本成人白血病研究グループ（JALSG）に所属して、最新の治療プロトコルを開発、実践している。当科は1990年から同種造血細胞移植療法を開始しており、非血縁者間骨髄移植（骨髄バンク）及び臍帯血移植の移植施設に認定されている。年間約20例の造血幹細胞移植を実施しており、良好な治療成績をあげている。研究面では造血幹細胞移植患者における移植後の種々の感染症の早期診断と治療に関する臨床研究に力を注いでいる。当院は血液内科医の育成機関として、日本血液学会の研修施設に認定されている。

In the Department of Hematology, the diagnosis and treatment of anemia (plastic anemia, hemolytic anemia), hematological malignancies (leukemia, lymphoma, myeloma, myelodysplastic syndrome), and hemorrhagic diseases (thrombocytopenia, coagulopathy) are widely conducted. Regarding leukemia, this Department belongs to the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG), and is involved in the development and implementation of the latest treatment protocols. This Department has conducted allogeneic hematopoietic cell transplantation since 1990, and has been certified as a transplant facility for bone marrow transplantation from unrelated donors (Japan Marrow Donor Program) and cord blood transplantation (Japanese Cord Blood Bank). This Department conducts approximately 20 cases of hematopoietic stem cell transplantation annually, with favorable treatment outcomes. In terms of research, this Department has put its efforts into clinical research on early diagnosis and treatment of various post-transplant infections that occur in patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation. Our hospital has been certified as a training facility for hematologists by the Japanese Society of Hematology.

## 腫瘍内科

Medical Oncology

がん罹患数は近年増加の一途を辿っている。腫瘍内科では、消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆管がん、膵臓がんなど）、呼吸器がん（肺がんなど）、原発不明がんに対する診断・治療（抗がん剤、分子標的薬など）を行っている。さらに、他科の協力を得て、化学療法、手術療法、放射線療法、緩和治療などを組み合わせた集学的治療を推し進めている。また、看護師、薬剤師、その他多職種からなるチーム医療の実現を目指し、様々な支援・研究活動を行っている。目標は患者にとって最良の医療を提供すること、新しい有効な治療法を開発することである。研究面では基礎研究および臨床現場で患者の協力を得ながら行う臨床研究の両方に力を注いでいるが、代表的研究として、本学の各臨床講座、基礎講座および製薬企業と連携した遺伝子異常に基づく新薬開発研究を行っている。これにより効率的な個別化医療（個々の患者のがんの特徴に基づいた治療）の実現を目指している。

The number of cancer patients has been increasing in recent years. The Department of Medical Oncology performs the diagnosis and treatment (including treatment using anticancer agents and molecular-targeted drugs) of gastrointestinal cancers (such as esophageal cancer, gastric cancer, colon cancer, liver cancer, bile duct cancer, and pancreatic cancer), respiratory cancers (such as lung cancer), and unknown primary cancers. This Department also promotes multidisciplinary treatment that combines such as treatments chemotherapy, surgery, radiotherapy, and palliative therapy with the cooperation of other departments, and conducts various support and research activities with the objective of realizing multidisciplinary care that involves various healthcare professionals including nurses and pharmacists. The goals of this Department are to provide the best medical care for patients and develop new effective treatment methods. In terms of research, this Department has put its efforts into both basic research and clinical research conducted in clinical settings with the cooperation of patients. The representative research of this Department is the research on new drug development based on genetic abnormalities being conducted in cooperation with clinical and basic departments as well as pharmaceutical companies with the aim of realizing efficient personalized medicine (treatment based on the characteristics of cancer in each patient).



## 総合内科・ 総合診療科

General Medicine

近年我が国の専門医制度が大きく変わろうとしている中、内科、外科とならぶ新たな基本領域として「総合診療医」が加えられることとなった。高度医療技術が求められると同時に、病気だけでなく患者個人を総合的に診て欲しいという国民のニーズを反映した制度改革と捉えられる。

総合内科・総合診療科の基本とするスタンスは①個々の患者がもつ固有の身体的－心理的－社会的問題を理解し対応すること、②総合内科として診断困難例の診断・治療を行うことの上に、③患者と医療の間を取り持つゲート・オープナーとして機能することを旨としている。

In last decade, several new medical technologies were found. These technologies will make the nation be happy, but in contrast, people want doctors to treat not only their diseases, but also as a whole person. So, a new board "General medicine" will be built in recent days, like internal medicine or surgery.

We remind the three elements of "General Medicine". At first, bio-psycho-social model; second, the accuracy of diagnosis and treatment; third, behavior as a Gate-opener between person and medical technology.

## 精神科

Psychiatry

本邦において、自殺は深刻な問題のひとつである。自殺の背景にはさまざまな要因があるが、うつ病の占める割合が大きい。したがって、うつ病を予防し、早期発見・早期治療することは、うつ病自体を減らすことのみならず、自殺を減らすことにもつながる。このような視点から当科では、さまざまな自殺対策の取り組みを行っている。

また、うつ病と一言で言っても、その内容は典型的なうつ病から新型うつ病までさまざまである。とりわけ、躁的因子を有するうつ病（双極スペクトラム）の存在が問題になっている。双極スペクトラムを適切に診断しそのように治療しないとなかなか病状は改善せず回復に至らないため、診断の感度を高めるように努力している。これ以外にも、統合失調症、不安障害、認知症などあらゆる精神疾患に対して、積極的に診療に励んでいる。

In Japan, suicide is one of serious problems. Several risk factors for suicide have been indicated and depression seems to be one of the most important risk factors. Therefore, prevention and early intervention of depression is useful for reduction of not only depression itself but also suicide. From such viewpoint, various methods for suicide intervention are applied in our Department.

Also, depression is heterogeneous and varies from typical depression to "new type" depression. Particularly, it should be noted that there exist depressive patients with bipolarity. Such patients are called "bipolar spectrum" patients. For attaining their remission and recovery, it is necessary to diagnose and treat bipolar spectrum patients as such, and we try to polish our clinical technique. Besides, we correctly diagnose and positively treat any other psychiatric disorders such as schizophrenia, anxiety disorders, and dementia.

## 小児科

Pediatrics

神経小児科・児童精神科  
・新生児科

Child Neurology  
・Child Psychiatry・NICU

小児科の担当する領域は、小児期の神経疾患、内分泌疾患・先天代謝異常症、血液・腫瘍性疾患、アレルギー・免疫性疾患、感染症、循環器疾患、腎臓疾患、未熟児・新生児疾患などの幅広い専門分野に渡っている。また子どもの発達障害や不登校等に対するメンタルヘルスケア、予防接種や乳幼児健診等の小児保健診療などを含めた「子どものトータルケア」を担当している。また小児外科をはじめとする専門各科、高度救命救急センター、周産母子センター、遺伝子診療室などの中央診療施設と連携し、最良・最新の小児医療を提供するよう努めている。

Department of Pediatrics encompasses academic divisions determined by clinical subspecialty; Neurology/Developmental Medicine, Endocrinology, Genetic Medicine, Hematology-Oncology, Immunology, infectious Disease, Cardiology, Nephrology, Neonatology, Psychiatry, Critical Care Medicine for children. Our mission is to improve the health of all children and adolescents and to develop "next-generation Pediatrics" by educating the pediatrician leaders of the future, advancing research, advocating for children and providing the best specialty pediatric clinical care.

## 消化器外科

Gastroenterological Surgery

消化器外科では、肝胆膵外科領域及び消化管外科領域の診療を行っている。

肝胆膵外科領域では、肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、胆石症などの胆道良性疾患や脾疾患ならびに食道胃静脈瘤などが診療の対象である。悪性疾患では、肝癌、胆道癌、膵癌を主な対象疾患とし、悪性度の高い肝胆膵悪性疾患に対して外科切除を中心に病態に応じた治療法を選択し、成績向上を目指している。肝癌では通常の肝切除だけではなく、腹腔鏡下切除術も積極的に行っている。また肝機能不良例には焼灼療法を、手術不能例には肝動注療法を選択し、肝機能に応じて治療法を選択している。胆道癌、膵癌では拡大郭清や合併切除による切除率の向上と、術後補助化学療法の採用により予後の改善に努めている。また低悪性度の体尾部の膵腫瘍（IPMNやインシュリノーマなど）を中心に腹腔鏡下膵切除術も積極的に行っている。胆石症では、全国でもいち早く腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、総胆管結石に対しても腹腔鏡下手術を行っている。脾・門脈圧亢進症では、特発性血小板減少性紫斑病だけでなく、脾機能亢進症など脾腫症例に対しても腹腔鏡下脾臓摘出術を行っている。食道胃静脈瘤に対しては内視鏡的静脈瘤結紮術や硬化療法を主体とした内視鏡的治療を行い、必要に応じてB-RTOや手術も選択している。

消化管外科領域では、食道癌・胃癌・大腸癌など悪性腫瘍の治療と急性腹症などの救急患者の治療を行っている。癌の治療では、進行度に応じ根治性を保ちつつ、できるだけ機能を温存し、術後の患者 quality of life (QOL) を向上させる最新の治療を行っている。低侵襲治療として、内視鏡治療や腹腔鏡手術を世界に先がけて行っている。高度進行癌に対して、術前の放射線化学療法を併用した集学的治療を行い、胃上部癌の細径胃管再建術や下部直腸癌の極究の肛門温存術（ISR）など機能温存手術にも力を入れている。ドクターヘリ時代の腹部救急疾患にも迅速に対応している。さらに近年、病的肥満患者の対して内視鏡的治療（胃内バルーン留置法）および外科的治療（腹腔鏡下胃パンデイング術、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）をわが国のリーダーとしてすすめている。

In the division of Gastroenterological Surgery, there are two surgical fields, hepato-biliary pancreatic surgery and gastrointestinal surgery.

In regards with hepato-biliary pancreatic surgery, we mainly treat malignant diseases of liver, biliary tract and pancreas, and also benign biliary diseases such as cholelithiasis, splenic diseases and esophagogastric varices. We have performed surgery and other treatments to improve outcomes of the malignant diseases. Hepatoma is treated by not only conventional hepatectomy but also laparoscopic hepatectomy according to the tumor size and location. In patients with hepatoma and poor liver function, liver tumor ablation and transcatheter arterial chemoembolization (TACE) are chosen depending on liver function. In regard to cancers of biliary tract and pancreas, we are positively doing extended lymph node dissection, combined portal vein resection and adjuvant chemotherapy to improve the prognosis. Also, laparoscopic pancreatectomy is progressively performed in patients with benign or borderline pancreatic tumors such as IPMN and insulinoma. Our division is one of the earliest institutes in terms of time to start laparoscopic cholecystectomy for cholelithiasis, and we also perform laparoscopic surgery for choledocholithiasis. Regarding splenic diseases and portal hypertension, laparoscopic splenectomy is routinely performed in patients with not only idiopathic thrombocytopenic purpura but also hypersplenism and splenomegaly. Esophagogastric varices are mainly treated by endoscopic treatments such as endoscopic injection sclerotherapy and variceal ligation, and interventional radiology or operation is selected in patients with refractory varices.

In regards with Gastrointestinal surgery, we always perform the management for the patients with esophageal cancer gastrointestinal malignant tumor, including gastric cancer and colorectal cancer, and with acute abdomen required emergent operation. For the treatment of gastrointestinal malignant tumor, the most up-to date procedures with curability, which improve the patient's quality of life (QOL), are adopted according to the tumor stage. Minimally invasive treatments, such as endoscopic procedures and laparoscopic surgeries, are the first choice of treatment for malignant tumor, because these procedures have several advantages including less pain, shorter hospital stay and earlier functional recovery. In addition, new reconstruction methods after resection of early-stage malignant tumor have been developed and performed to preserve the organ function: reconstruction using gastric tube after proximal gastrectomy, for example. For the advanced gastrointestinal malignant tumor, multidisciplinary management consisted of operation, chemotherapy, and radiation, are performed. Furthermore, for the acute abdomen such as intestinal obstruction, perforation of duodenal ulcer, acute appendicitis, and so on, we are always ready to carry out the emergent operation. Recently, for the morbid obese patients, endoscopic balloon therapy, laparoscopic gastric banding and sleeve gastrectomy have been performed.



大学の風景～附属病院前～

## 呼吸器外科

Thoracic Surgery

呼吸器外科は肺、縦隔、胸壁、横隔膜などに発生する疾患を対象に外科治療を中心とした診療を行っている。肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔悪性腫瘍（胸腺腫など）、悪性中皮腫などの悪性腫瘍性疾患について、診断から治療まで一貫した診療を、根拠（エビデンス）に基づいて行う（EBM: evidence-based medicine）。

手術に関しては胸腔鏡を併用することによる低侵襲化を図り、進行性あるいは、難治性腫瘍に対しては化学療法、分子標的治療、放射線照射を組み合わせる集学的治療を推進し、より根治的な治療を目指す。そのため他科との連携を重視し、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科と定期的にカンサーボードを行い、協力して診療に臨んでいる。

また術前、術後の化学療法については全国規模の臨床試験グループに所属し新たな治療を取り入れている。

その他、良性腫瘍、気胸、膿胸、血胸などの胸膜疾患、小児の先天性呼吸器疾患や腫瘍、また、外傷などの救急疾患にも対応している。

In the Department of Thoracic Surgery, we provide a surgical treatment for patient with disease occurred in lung, mediastinum, chest wall and diaphragm. For thoracic malignant tumors, we perform from diagnostic procedures to surgical treatments, based on clinical evidence (EBM: evidence-based medicine). For an early stage tumor, we introduce a minimally invasive video-assisted thoracoscopic surgery (VATS). For an advanced or refractory disease, we establish trimodality therapy including chemotherapy or molecular-targeted therapy, radiotherapy, and surgery. To provide suitable treatment strategy in each case, we have regularly Cancer Board consisted with the Departments of Thoracic Surgery, Medical Oncology, Respiratory Medicine, and Radiology.

In addition, we provide surgical or conservative treatment for patients with benign tumor, pneumothorax, hemothorax, congenital disease, and emergency case such as trauma.

## 小児外科

Pediatric Surgery

小児外科は、新生児から思春期までの小児の一般外科疾患を対象としている。専門的な疾患（先天性食道閉鎖症・肥厚性幽門狭窄症・先天性十二指腸閉鎖症・先天性小腸閉鎖症・Hirschsprung病・鎖肛・胆道閉鎖症・先天性胆道拡張症・神経芽腫・肝芽腫・Wilms腫瘍・臍帯ヘルニアなど）のみならず、日常よく遭遇する疾患（鼠径ヘルニア・陰嚢水腫・停留睾丸・包茎・急性虫垂炎・腸重積・消化管異物・乳児痔瘻・肛門周囲膿瘍・臍ヘルニア・体表腫瘍など）も積極的に治療を行っており、急患にも対応している。手術では、疾患の根治性のみならず、小児の成長・発達を考慮した皮膚切開・縫合法や、より低侵襲な腹腔鏡手術（Hirschsprung病に対する腹腔鏡下根治術・胃食道逆流症（GER）に対する腹腔鏡下Nissen噴門形成術・特発性血小板減少性紫斑病（ITP）や遺伝性球状赤血球症（HS）に対する腹腔鏡下摘脾術・Meckel憩室や腸管重複症に対する腹腔鏡補助下小腸切除術など）を施行しており、患児や家族のニーズに対応している。また、重症新生児・未熟児や心身障害児ならびに悪性腫瘍患児では、NICUおよび小児科、産科とタイアップしながら術前・術後管理を行っており、治療成績の向上を図っている。また、小児でよく遭遇する便秘に対しても、より専門的な検査を行い、食事指導や薬物療法を含めたきめ細かいケアを行っている。さらに、鼠径ヘルニア・陰嚢水腫や包茎では、現在クリニカル・パスを用いた2泊3日の入院治療を行っている。

Pediatric surgery intends for a general surgery disease of infants from neonate to adolescence. As well as a specialized disease (congenital esophageal atresia, hypertrophic pylorstenosis, congenital duodenal atresia, congenital small intestinal atresia, Hirschsprung disease, aproctia, biliary atresia, congenital biliary ectasia, neuroblastoma, hepatoblastoma, Wilms tumor and umbilical hernia), we positively treat an usual disease (inguinal hernia, oscheohydrocele, cryptorchism, phimosis, acute appendicitis, intussusception, digestive tract alien substance, infant anal fistula, anus circumference abscess, omphalocele and surface of a body tumor), and cope with an emergency. We perform minimally invasive laparoscopic surgery in the treatment of Hirschsprung disease, gastroesophageal reflux disease, idiopathic thrombocytopenic purpura, hereditary spherocytosis, Meckel diverticulum and duplication of the alimentary tract. In addition, for grave neonate pronatis, infant of psychosomatic disorder and infant of malignant tumor, we manage it pre and postoperation while cooperating with NICU, the obstetrics and the pediatrics, obstetrics and plan improvement of treatment results. For constipation to meet with infants well, we also do more specialty of the inspection and the smooth care including alimentary guidance and pharma-cotherapy. Furthermore, by ingunal hernia and oscheohydrocele, we treat hospitalization on two nights-three days used a clinical pass.

## 乳腺外科

Breast Surgery

乳腺外科は、乳癌を主な治療対象として診断、手術、薬物療法を行っている。乳癌の手術では乳房温存療法が半数以上を占め、また、患者への負担を軽減できるセンチネルリンパ節生検はほとんどの乳癌手術で行っている。乳癌診療における薬物療法の役割は大きく、内分泌療法、化学療法、分子標的治療薬など、多くの選択肢から患者に最適なものを提供するオーダーメイド治療を行っている。術後の乳房変形など美容的問題を克服するため、形成外科と協力して乳房切除—同時再建も積極的に取り入れている。再発乳癌や進行乳癌に対して、放射線治療、緩和医療チームと連携を取りながら、予後改善を図り、かつ患者のQOLを保つような治療計画を策定している。

We mainly treat breast cancer and also benign breast disease. Regarding to breast cancer, we perform diagnostic procedures including radiography and biopsy, surgical treatment, and chemoradiotherapy. Breast preservation therapy accounts for half or more and sentinel lymph node biopsy is routinely performed. As the role of medical therapy in the breast cancer is important, we provide the most suitable treatment for a patient from many choices including hormone therapy, chemotherapy, and molecular targeted therapy, that mean personalized therapy. We adopt reconstructive mammoplasty with plastic surgeon positively at the time of mastectomy, to overcome a cosmetic problem after surgery. In case with recurrent or progress breast cancer, we devise a treatment plan with radiotherapist and best supportive care team, for improve prognosis and preserve the QOL of patient.

## 心臓血管外科

Cardiovascular Surgery

冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患など成人心血管領域中に幅広く臨床治療を行っている。殊に大動脈瘤に対しては全国でも有数の症例数、治療成績を誇っており、最先端の治療法の開発に力を注いでいる。小切開で開心術を行う、人工心臓を用いずに拍動下で手術を行うなど低侵襲心臓手術にも積極的に取り組み、生命予後のみでなく患者さんのQOL向上を目指す医療を心がけている。臨床の忙しさにかまけることなく、ラボでは心移植後慢性拒絶で起こる冠動脈病変の予防法の確立、斜流ポンプを用いた新しい植え込み式人工心臓の開発、大動脈手術時の脊髄虚血予防法の開発など臨床に直接還元できる基礎研究に動いている。

Coronary, valvular and aortic surgeries for adults are most of our clinical work. We are in the forefront in treatment of aortic aneurysm with a number of cases. We handle minimally invasive cardiac surgery as well, such as "off pump bypass" (coronary artery bypass grafting without using cardiopulmonary bypass), aiming for a better QOL of patients. As for the lab work, prevention of chronic rejection after heart transplantation, development of an implantable artificial heart and innovation of spinal protection during aortic surgery are our main research subjects.

## 脳神経外科

Neurosurgery

脳血管性障害は動脈瘤、脳出血、脳梗塞、もやもや病等すべてを治療し、endovascular surgeryの成績も良好である。脳腫瘍は全脳腫瘍を治療し、手術はnavigationとmonitoring systemを駆使し、巨大、深部、頭蓋底部腫瘍も安全に摘出している。悪性グリオーマは術後に耐性遺伝子や薬物動態を考えた化学療法やPBST併用大量化学療法、radiosurgery 併用の集学的治療などQOL重視の治療を行っている。高度先進医療のひとつとして意識障害患者に対する磁気、電気刺激、機能的脳神経外科として痛みやてんかんの外科手術、小児奇形の治療、さらに急性重度頭部外傷患者らは麻酔科と共同で低体温療法を実施し、積極的に救急に取り組み救命している。

脳神経外科のホームページ

<http://www.med.oita-u.ac.jp/neurosurgery/index.html>

Cases of cerebrovascular disease, aneurysm, bleeding, infarction, and moyamoya disease are all treated. The results of endovascular surgery are good.

All brain tumors are treated in our department. tumors, such as giant, deep and skull base tumors, are removed safely with navigation and monitoring systems. Malignant gliomas are treated with multidisciplinary therapy, especially combined chemotherapy based on drug resistant genes and pharmacokinetics, high dose chemotherapy with PBST and radiosurgery in order to maintain a high QOL. Highly advanced medical treatment, magnetic or electric stimulation, is performed on patients with disturbance of consciousness.

Surgical operations for epilepsy neurosurgery for pain, infant and child neurosurgery, and hypothermia for severe head injury show positive results.

Web site:<http://www.med.oita-u.ac.jp/neurosurgery/index.html>

## 整形外科

Orthopaedic Surgery

人が生き生きとした生活を送るためには、立つ、歩く、物を持つなど自分の体を自由に動かすことが必要である。整形外科では骨・関節・筋肉・腱・靭帯・神経など、体を動かす機能に関わる運動器の疾患や外傷を診療し治療している。手や足の痛み、しびれ、関節痛、腰痛やケガなど日常生活や仕事、スポーツなどの趣味に支障をきたす運動器の障害が対象である。具体的には脊椎・脊髄疾患、脊柱変形、関節疾患、骨・軟部腫瘍、手の障害、骨折・脱臼、関節リウマチ、骨粗鬆症などの疾患を治療している。

疾病や外傷で運動器の機能を著しく傷害された場合には、手術を行うことによりその機能を回復させることが必要となる。骨・関節のbiomechanicsの研究を応用したより低侵襲手術でよく曲がる人工関節置換術、脊椎・脊髄疾患に対する顕微鏡を応用した脊椎手術なども行っている。

また整形外科では、手術治療のみでなく関節リウマチや骨粗鬆症に対する最新の薬物治療も行っている。さらに明らかにされていない疾患の病態解明や新しい治療法の開発にも取り組んでいる。

整形外科のホームページ

<http://www.med.oita-u.ac.jp/orthopedics/index.html>

For keeping healthy life, it is very important to use one's arms and legs by oneself, (like standing, walking, and lifting). We make the examination, diagnosis and treatment for disease and trauma of the musculoskeletal system (bone, joints, muscle, tendon, ligament, and nerve) that is concerned with locomotor. The symptoms such as pain of arms and legs, sensory innervation, joint pain, lowback pain, and trauma that cause disable for patients are involved. There are spine disease, scoliosis, joint disease, bone and soft tissue tumor, hand surgery, fracture and dislocation, rheumatoid arthritis, and osteoporosis.

Surgery must be done for recovering from the remarkable disability by disease or trauma. Using the new knowledge of biomechanics, we achieve good ROM and minimal invasion for joint replacement surgery. We also use microscopy for spinal surgery. Not only surgical treatment, but also orthopaedic medicine is involved in our department. We are try to use new medicine for patients in rheumatoid arthritis and osteoporosis. We are also try to investigate the pathogenesis of the disease and to develop new treatment method.

Web site:<http://www.med.oita-u.ac.jp/orthopedics/index.html>

## 形成外科

Plastic Surgery

形成外科疾患全般にわたり、幅広い診療を行い、患者さんに整容的・機能的に満足してもらえるよう、QOLを高めることを心がけている。対象疾患としては、腫瘍・外傷・瘢痕・先天異常・難治性皮膚潰瘍・その他である。特に、皮膚科と共同で行う皮膚悪性腫瘍切除術と様々な皮弁形成術や植皮術を用いた再建手術症例が多いのが特徴である。他の診療科との連携も図り、微小血管吻合術を用いた遊離皮弁術による合同再建手術に力を注いでいる。また、熱傷、切断指や顔面外傷などの救急医療にも積極的に取り組み、瘢痕やケロイドに対しても保存的治療や手術と放射線治療の併用療法を行い、良好な治療成績をあげている。多指症や耳介変形その他の先天異常は、大分県内の小児科・産婦人科よりご紹介いただき、地域の中核施設としての役割を担っている。近年、糖尿病やPAD、慢性腎不全に伴う難治性皮膚潰瘍が増加しており、それらに対して、新しい創傷治癒の概念を取り入れた保存的治療や植皮術・皮弁作成術による再建を行い、創の早期閉鎖と患肢の温存に努めている。一昨年よりレーザー等を用いた美容形成なども開始している。

We treat the patients with several diseases including tumor, traumatic wound, keloid, congenital anomaly and long durated ulcer. We concentrated to operate malignant skin tumors and reconstruct using skin flap or grafts collaborating with dermatologist. Collaborating with other surgeons, especially oral surgeon, we master free flap transfer using microsurgery. We are involved in emergency care of severe burn, finger replantation and facial injury and we can control well keloids or scars by the combined method of surgery and electron beam therapy. The patients with congenital anomalies are referred to us from pediatrician or gynecologist in Oita prefecture. Recently the number of patients with long durated intractable leg ulcers associated with diabetes mellitus, peripheral arterial disease (PAD) or calciphylaxis are increased. We treat such patients with a concept of new wound healing and make effort to rescue the leg from amputation. Last year we start to do cosmetic surgery using LASER therapy.

## 皮膚科

Dermatology

皮膚疾患全般にわたる、内科的・外科的治療をおこなっている。(1)水疱性疾患、紅皮症、乾癬などの難治症例は、入院の上、増悪因子を検索し、治療と指導を行なう。

(2)重症のアトピー性皮膚炎・湿疹皮膚炎、円形脱毛症については、特殊外来で、予約制で治療を行なう。特に円形脱毛症については、局所免疫療法を中心に治療を行なっている。(3)また皮膚腫瘍については、形成外科と協力して、腫瘍外来で診察後、手術を行なう。悪性黒色腫のセンチネル・リンパ節生検については、放射線科と協力して、放射性同位元素を用いた方法を導入している。

We treat the whole spectrum of skin diseases. (1) In severe cases of blistering disease, erythroderma, and psoriasis, we look for the aggravating factors and explain the patient how to control his skin problems. (2) In cases of atopic dermatitis, eczema, alopecia areata, which are hard to control, we treat the patients on Friday with reservation. Particularly, we treat the patients with alopecia areata using topical immunotherapy. In case of recent-onset and severe alopecia, pulse corticosteroid therapy is considered. (3) The patients with skin tumors are better to be consulted on Monday and are operated collaborating with plastic surgeon. In malignant melanoma, sentinel lymph node biopsy will be performed by the combined method using radioisotope and blue dye.

### 腎臓外科・泌尿器科

Renal surgery and Urology

当科の対象疾患は尿路性器悪性腫瘍、排尿機能障害、尿路結石症、内分泌疾患（上皮小体機能亢進症、副腎腫瘍）、腎不全、腎移植、尿路感染症、女性泌尿器科疾患（尿失禁、性器脱）、小児泌尿器科疾患等、多岐にわたっており、それぞれの領域に精通した専門医が診療に当たっている。診療の特徴は腹腔鏡手術やロボット支援手術を中心とした低侵襲手術に早くから取り組んでいることで、当科で開発した腹腔鏡下膀胱全摘除術・拡大骨盤リンパ節郭清術や単孔式腹腔鏡手術は全国的に高く評価されている。

The department treats patients with variable urological disorders such as genitourinary tumors, lower urinary tract dysfunction, urinary stones, endocrine disorders (hyperparathyroidism and adrenal tumors), renal failure, renal transplantation, urinary tract infection, female urology (urinary incontinence, pelvic organ prolapse) and pediatric urology. The distinguishing feature of the department is early introduction of minimally invasive surgeries such as laparoscopic and robotic-assisted surgeries. Our developed new techniques of laparoscopic radical cystectomy with extended pelvic lymph node dissection and single port laparoscopic surgery, and these are highly valued in this country.

### 眼科

Ophthalmology

眼科疾患全般にわたる幅広い診療を行っている。一般外来の他に、緑内障、加齢黄斑変性、ドライアイ、斜視・弱視、ぶどう膜炎の専門外来を設置し、紹介された患者さんに高度に対応できる状況である。中でも緑内障と網膜硝子体疾患の画像診断、手術を含めた治療には力を入れている。

Our service covers general ocular diseases and also has special clinics to attend glaucoma, age-related macular degeneration, dry eye, strabismus, amblyopia, and uveitis. All specialities are equipped with the most advanced technology and qualified specialists promote accurate diagnosis and effective treatment for these diseases. Special interests are focused on modern imaging, and treatments including surgery for glaucoma and vitreo-retinal diseases.

手術治療は網膜硝子体疾患、緑内障、難易度の高い白内障、斜視手術が多く、治療成績も良好である。また大分県アイバンク協会の協力のもとに角膜移植術を行っており、難治性前眼部疾患には羊膜移植を併用した手術を行っている。眼外傷や眼内異物などの緊急手術も多く、大分県の中核病院としての役割を果たしている。

Surgical procedures are performed on all ocular diseases including vitreo-retinal diseases, glaucoma, complicated cataract, strabismus. The surgical results are very promising. Keratoplasties are performed in good cooperation with Oita Prefecture Eye Bank Association. Amniotic membrane implantation is performed against complicated ocular surface disorders. Emergency cases, such as ocular perforation or foreign body are treated. We are playing an important role as a core hospital in Oita prefecture.

### 耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科

Otorhinolaryngology & Head and Neck Surgery

当科では耳鼻咽喉科疾患全般にわたる外科的・内科的治療を行っている。耳では慢性中耳炎や中耳真珠腫に対する手術のほか、高度感音難聴者には人工内耳埋込み手術を施行している。鼻副鼻腔・咽喉頭疾患の手術には内視鏡や顕微鏡、レーザーを導入している。頭頸部悪性腫瘍に対しては積極的な手術治療を行い、術後の欠損部は血管吻合手技を用いて、遊離筋皮弁や腸管による再建を行っている。このほか顔面外傷や気道・食道異物などの救急医療にも力をいれている。外来では一般外来に加え補聴器、アレルギー性鼻炎の予約外来を設けている他、めまい・平衡機能検査、特殊聴力検査、顔面神経検査などの特殊検査、中耳炎に対する鼓膜形成術、アレルギー性鼻炎に対するレーザー手術などの外来手術も行っている。

We treat the entire spectrum of otolaryngological disease within the Department of Otolaryngology. Surgery of the ear is done for patients with chronic otitis media and cholesteatoma. Cochlear implants are inserted for patients experiencing severe sensorineural hearing loss. Surgeries on the sinus and larynx are performed with endoscopic, microscopic, and laser techniques. Patients with head and neck cancer can receive composite operations, which include reconstructive surgery employing microvascular surgical techniques in which a myocutaneous or jejunum flap is applied to cover the defect. Emergency cases, such as those involving facial trauma or foreign bodies in the esophagus or respiratory tract, are also treated. In our outpatient clinic, special hours are reserved for hearing aid and patients with allergic rhinitis. We also perform special examinations to evaluate equilibrium, hearing, and facial nerve function, and day surgery for otitis media, allergic rhinitis, sinusitis, etc.

## 産科婦人科

Obstetrics & Gynecology

産科婦人科医療は、産科、婦人科腫瘍、婦人科内分泌の3部門からなる。産科部門では、正常妊娠、分娩に加えて、high risk妊娠の管理、カラードプラー法やパルスドプラー法などを用いた診断、妊娠合併疾患の管理、手術などを妊娠初期から産褥期までを通じて行っている。婦人科腫瘍部門では、術前診断、手術療法、化学療法、放射線療法、悪性腫瘍のfollow upが中心である。婦人科内分泌部門は、避妊、月経異常や不妊の検査および治療、更年期、骨粗鬆症などを対象としている。

The obstetrics and gynecology clinic, in both the outpatients unit and the inpatients unit, includes a section for maternal-fetal medicine, one for gynecologic oncology and another for reproductive medicine. Specialties in the maternal-fetal medicine section include high-risk pregnancies, complicated pregnancies, prenatal diagnosis, operations during pregnancy, as well as normal uncomplicated pregnancies. Specialties in the gynecologic oncology section include preoperative diagnosis, operations, chemotherapy, irradiation therapy and follow-up after those treatments. Specialties in the reproductive medicine section include contraception, menstrual disorders, infertility, menopause and osteoporosis.

## 放射線科

Radiology

放射線科は、超音波、CT、MRI、血管造影、核医学検査（PET-CTを含む）などの当院外来および入院にて行われる全ての画像診断と、高エネルギーX線や電子線などを用いた放射線治療、更に低侵襲治療の主をなすInterventional radiology (IVR)を日常臨床として担当している。放射線科病床は4床あり、肝胆膵領域癌や他の全身の腫瘍性、血管性疾患で、IVRや放射線治療の対象となる患者が入院する。全身の画像診断および低侵襲治療を行う当科の特徴上、研究テーマは多岐にわたるが、動脈瘤等の血管系疾患の経皮血管内治療、肝癌・膵癌に対する選択的動注療法を含めた化学療法の確立、そしてCT・MRI画像と膵癌の分子生物学的・組織学的構築との関連の解明に主眼を置いている。

The clinical work of our department includes (1) General diagnostic radiology by means of ultrasound, CT, MRI, angiography, and nuclear medicine including PET-CT, (2) radiation therapy, and (3) interventional radiology (IVR). We have 4 beds for in-patients who must undergo IVR. Our research deals with the radiological diagnosis of diseases of whole organs and minimally invasive therapy. Emphasis is placed on endovascular catheter treatment for vascular diseases, such as cerebral aneurysms, the establishment of standard chemotherapy, including the selective transarterial method for hepatocellular carcinomas or pancreatic carcinomas, and the clarification of relationships between CT/MRI images and the molecular biology/histopathology of pancreatic carcinoma.

## 麻酔科 /ペインクリニック

Anesthesiology  
/Pain Management Unit

生活に支障をきたす様々な痛みを軽減する治療を行う。主な対象疾患は、帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛や片頭痛などの頭痛・顔面痛、頸椎症などの頸肩腕痛、脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアなどの腰下肢痛、手術後や外傷後の慢性難治性疼痛などの慢性痛や、癌性疼痛である。この他、四肢の虚血や、眼瞼・顔面痙攣や、顔面神経麻痺、手や足の多汗症など、痛み以外の疾患も扱う。

We treat various kinds of pain in our unit. These are pains that lessen the quality of patients' lives. They include herpes zoster/postherpetic neuralgia, headache and facial pain as in trigeminal neuralgia and migraine, cervical spondylosis, lower back pain such as lumbar canal stenosis and herniated disc, refractory postoperative pain, traumatic pain, cancer pain, etc.. Additionally, disorders such as ischemic extremity, blepharism and facial spasm, facial paralysis, and hyperhidrosis are treated.

治療は、硬膜外ブロックや高周波熱凝固術などの神経ブロックを中心に、内服療法を併用して行っている。また、経皮的硬膜外神経形成術や高度先進医療の硬膜外腔鏡下癒着剥離術、脊髄刺激療法など、新しい治療法を積極的に取り入れている。

Nerve block such as epidural injection and thermocoagulation are often provided in combination with drug therapy. We are dedicated to treating patients with advanced medical techniques, for example, percutaneous epidural neuroplasty/adhesiolysis, epiduloscopy, and spinal cord stimulation.

## リハビリテーション科

Rehabilitation Medicine

リハビリテーション科は、障害された機能の回復と社会復帰を目指した医学的治療および訓練、人材育成、リハ医学に関する研究活動を行っている。当科では運動器疾患や脳血管疾患のリハビリは勿論、大学病院という特性上、がんのリハ、心臓大血管手術後の心臓リハ等、重度の病態に対応している。多職種でのカンファレンスを定期的におこない、個々の患者に適した治療・看護・社会復帰支援計画を作成、実践している。また当院は日本リハビリテーション医学会認定研修施設であり、リハ科専門医の養成を担うとともに、学生の教育や療法士の養成に力を注いでいる。博士・修士課程における研究や学会活動も積極的に行っている。

In the department of rehabilitation medicine, we perform the medical treatment and physical therapy for patients, training experts in rehabilitation, and research activities. There are many serious cases who suffer from a disease such as cancer, cardiovascular disease, or multiple traumas in our university hospital. A multidisciplinary team has a regular meeting to make individual rehabilitation program suitable for each patient. Oita university hospital is a training facility authorized by the Japanese Association of Rehabilitation Medicine, so that we make efforts to train specialist in rehabilitation medicine, educate students, and perform research activities in doctor's and master's course of a graduate school and presentations at academic meeting.

## 歯科口腔外科

Oral and Maxillofacial Surgery

口腔腫瘍、口唇・口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節症疾患、これらの疾患治療後の咀嚼機能障害に対しての外科的治療、さらに内科疾患患者の歯科治療（有病者歯科治療）と口腔ケアを行う。

1. 口腔腫瘍：口腔がんや歯原性腫瘍などの口腔腫瘍の治療と、治療後も口から食べられることを目標としている。放射線治療と化学療法を手術前に行なうことにより、機能温存治療や低侵襲治療を目指す。
2. 口唇・口蓋裂：初診時から口蓋床を装着させて哺乳の改善をはかり、適切な時期に形成手術や言語治療などを行う。生まれた時（または生まれる前の出生前診断）から成人にいたるまでの一環治療を実施している。
3. 顎変形症：顎の発育異常のために生じた咬み合わせやことばの障害、顔の形態異常に対して、歯科矯正医と協力して治療を行う。
4. 顎顔面外傷：交通事故やスポーツによる顎骨骨折などの外傷に対して、かみ合わせの回復を重視して治療を行う。
5. 顎関節症：顎関節や周囲筋肉の痛み、開口障害、関節雑音などの異常を治療している。
6. 咀嚼機能の回復：三次元模型やコンピューターを用いたシミュレーション技術を手術に導入し、顎骨再建と歯科インプラントなどで咀嚼機能の回復を図る。さらに骨延長術が顎変形症や歯槽骨吸収症例のインプラント治療で行っている。
7. 有病者の歯科治療：循環器疾患、感染症、他の病気のある方の歯科治療を関連医科診療科と連携をとって行っている。
8. 口腔ケア：口腔乾燥症、摂食・嚥下障害などのある方の口腔衛生状態と口腔機能の両面に重点をおいた口腔環境の改善を行う。

Our field of treatment covers various oral and maxillo-facial diseases, including oral tumors, lip and palatal cleft, jaw deformity, maxillo-facial trauma, temporo-mandibular joint (TMJ) diseases, masticatory dysfunction related with such diseases, and dental treatments of patients with systemic diseases. In addition, we provide professional oral health program.

1. Oral tumors (oral cancer, odontogenic tumor etc.): Our goals of treatment against oral tumors are not only to eradicate tumors, but also to recover oral functions such as eating and speaking. Function-preserving operations accompanied with preoperative chemo- and radio-therapies and minimal invasive therapies are employed.
2. Lip and palatal clefts: In the treatment of cleft lip and palate patients, we collaborate medical doctors, such as gynecologists, pediatricians, orthodontists and general dentists. From the first visit (or the prenatal stage) to the adolescent stage, we manage the maxillo-facial growth of patients by doing reconstructive surgery of clefts, orthodontic treatment, speech therapy and, if necessary, repair of facial deformities.
3. Jaw deformity: We carry out surgical treatment against congenital deformity and abnormal growth of jaws under the cooperation with orthodontists.
4. Maxillo-facial trauma: We perform surgical repair of jaw fractures and soft tissue traumas from the standpoint of recover of dental occlusion.
5. TMJ diseases: We treat the pain of TMJ and related muscles, the difficulty of mouth opening, abnormal TMJ sounds and other symptoms related with TMJ.
6. Recover of mastication function: By introducing 3D-models and computer simulation into the planning of jaw reconstruction surgery and dental implant treatment, the mastication function and esthetics of the face are recovered appropriately. Furthermore, the distraction osteogenesis technique is employed in the treatment of jaw deformity and the dental implant treatment in cases with alveolar bone resorption.
7. Dental treatment of patients with general diseases: Under the close communication with medical doctors, we carry out dental treatments of patients with cardiovascular diseases, respiratory diseases and virus-infections (HBV, HCV and HIV) and compromised patients under the immunodeficient condition, anti-cancer treatments etc.
8. Oral health program: We provide professional oral health program, which consisted of the improvement of poor oral hygiene and the support of eating and speaking problems. The target of this program includes patients with radiation-induced xerostomia, Sjogren's syndrome, other problems related with poor oral hygiene and compromised patients under the immunodeficient condition, anti-cancer treatments etc.



# 中央診療施設等

*Central Clinical Facilities*

## 検査部

Clinical Laboratory  
Center

検査部では数名の医師および24名の臨床検査技師で、血液、免疫血清、臨床化学、尿一般、微生物、及び、生理機能検査を行っており、その年間検査件数はおよそ296万件である。

検査依頼は病院総合情報システム（BUNGO）によるオーダーリングシステムで迅速かつ正確に行われ、検査部ではその依頼情報に基づき、3つの検査部門システムで分散処理し、検査結果を最短30分でオンライン送信している。

検査業務のほかにも、中央採血室の管理運営をはじめ、医学部学生、研修医の臨床教育等も行っている。また、地域の臨床検査技師学校学生の卒前・卒業後教育も積極的に受け入れており、地域の医療レベルの向上にも大きく貢献している。

The Department of Laboratory Examination consists of several doctors and 24 clinical laboratory technologists active in the clinical test fields of blood, immunology, clinical chemistry, Urinalysis microbiology and physiology. The Department performs about 2.96 million clinical tests per year. These examinations are ordered via a computer ordering system (BUNGO) and the results are delivered by the on-line system quickly and accurately, often within 30 minutes. Thus, doctors can access patients' data easily even in the outpatient clinic. The Department also takes care of the central blood sampling room for outpatients. The Department undertakes the pre-and post-graduate education and training of medical school students and medical technologists in Oita. This education and training greatly contributes to the improvement of the level of medical care in the area.

## 手術部

Surgery Center

手術部は、当院診療各科が先端知識と技能を駆使し最先端の手術・検査ができるように、また手術を受けられる患者様が安全・快適に手術を受けられるよう環境を整えることを第一の使命としている。年間全手術件数は5,000件を超え、病床当たりの手術件数では大学病院の中でもトップクラスを維持している。現在、手術室は12室（うち1室は小手術用、1室はハイブリッド手術室）で、心臓・大血管、肺、食道、肝臓等の高度侵襲が加わる長時間手術はもちろんのこと、低侵襲手術として現在各分野で行われている内視鏡手術も、消化器、胸腔、関節、産婦人科、泌尿器、脊髄・神経、耳鼻科領域をはじめとして各科で多くの手術が行われている。また、最先端の医療を患者様に提供するための知識・技術の習得に励むだけでなく、高度手術を安全に行うための危機管理も積極的に行い、患者様の安全を第一とし患者様のニーズの多様化にも迅速に対応できるように努力している。

The operating theater of Oita University Hospital has eleven modern, well-equipped operating rooms, which are managed to provide advanced operations safely and efficiently. The annual number of operations reaches more than 5,000 cases and our operating theater is one of the busiest theater in the same-scale university hospitals in Japan. The professional and highly skilled staffs have been performing not only invasive operation such as heart, aorta, lung, esophagus and liver surgery, but also advanced less-invasive endoscopic operation in intra-abdominal, intra-thoracic, joint, gynecological, urological, head and neck, and neurological surgery. We have been continuously acquiring new knowledge and keeping up-to-date on the rapid developments in medical technology to provide the best service to the patients.

## 放射線部

Radiological Center

放射線部は放射線診断、放射線治療、核医学診療、超音波診療、磁気共鳴診断の5部門を有し、各部門とも最高水準の装置を導入し全身のすべての領域の画像診断を行っている。さらに画像技術を応用したIVRを含む低侵襲治療を積極的に行い、最新の治療法を研究開発し患者のQOL向上に寄与している。

放射線部における各種の患者情報、検査情報及び画像診断レポートはすべて放射線情報システムにて一括管理され、病院情報システムを用いて診療各科に配信している。また各モダリティから発生する医用画像データを保管・転送するPACSを導入し、大型のサーバーシステムと高速ネットワークにて病院情報管理システムおよび放射線情報システムとリンクさせ、診療能率の向上や患者サービスの推進、医学研究・教育への貢献を果たしている。

The Radiological Center consists of five major divisions: Diagnostic Radiology, Radiation Oncology, Nuclear Medicine, Ultrasound and MRI (Magnetic Resonance Imaging). All diagnostic radiological and imaging examinations are performed in the center. Several innovative projects in Minimally Invasive Therapy including IVR (Interventional Radiology) are in progress to contribute to the improvement of the QOL of patients.

Various kinds of information of patients with examination data in the center including official diagnostic reports are operated by the Radiology Information System (RIS) and delivered to each department in the hospital through the Hospital Information System (HIS). PACS has been equipped to preserve and transfer the imaging data derived from each modality. With the integration of HIS and RIS using the server system and high-speed network system, improvement in the efficacy of medical practice, advanced application to medical research and education is targeted.

## 材料部

Sterile Supplies

### 滅菌部門・物流部門

Sterile Processing Division  
Medical Supply Division

材料部の使命は、滅菌に関わる業務を中央化することで業務を省力化し、医療サービスの向上を図ることにある。また、滅菌業務の遂行により安全・安心な医療材料を医療現場に提供することである。

材料部の業務内容から2つの部門に大別される。まず、手術部を含む全部署の鋼製小物や手術部の器械セットの回収から滅菌まで、一連の滅菌管理業務を行う滅菌部門である。2つ目は、医療材料を一括管理し、物品管理に関わる雑務を集約する物流部門である。これらの部門により材料部では、院内全体の滅菌の質を保証し、医療材料に関わる業務を一元化、効率的な運用と定期的な定数見直しや期限切れ防止などにより経費削減に取り組んでいる。

The missions of our Materials Handling Division are twofold. The one is to improve the quality of medical services by executing promoting labor-saving programs and practicing economy in the ordinary course of business operations by centralizing all operations and services pertinent to in-house sterilization and the other is to provide safe medical materials to clinical wards by timely and adequate execution of sterilization services. The work contents of our Materials Handling Division could be divided broadly into two main categories. The first work category is the series of sterilization management tasks such as the collection and sterilization of semi-steel small articles belonging to all divisions including the Operation Division and the collection and sterilization of medical appliances belonging to the Operation Division. The second work category is the physical distribution center-like service such as the across-the-board management of medical materials as well as the consolidation of all jobs related to the management of goods and articles. Through the aforesaid tasks, our Materials Handling Division guarantees the quality of in-house sterilization, works on the centralized management of all operations related to medical materials, and the Division tackles issues such as the efficient materials management and cost reduction.

## 高度救命救急センター

Advanced Trauma,  
Emergency and  
Critical Care Center

救命救急センターは、平成元年4月に救急部が開設され、平成20年5月1日に救命救急センターとなり、平成25年10月1日に高度救命救急センターの指定を受けた。救急外来および救命ICU(計24床、うち1床は熱傷ベッド)で運用している。

救急外来には64列MDCT、ハイブリッドER、PCPS、IABPなどを設置し、救命ICUでは人工呼吸器、循環管理機器、体温管理療法など重症救急患者対応の機器が設置されており、大分県で唯一の高度救命救急センターとして、24時間365日の診療体制で、重度外傷、広範囲熱傷、急性中毒、脳血管障害、虚血性心疾患、その他様々な原因により生命の危機に直面した救急患者や身体合併症を有する精神疾患患者にも対応している。大分県における最後の砦としての役割を全うすべく、専任医師と各診療科医師および看護師をはじめとした様々な医療従事者が連携し、高度かつ最先端の救急医療を提供している。

本院は大分県ドクターヘリの基地病院として救命センター屋上にヘリポートと格納庫、CSルームを有しており、このドクターヘリやドクターカーを活用し、大分県全域の重症傷病者に対し発症現場から対応し、治療しながら迅速に搬送することで救急外来および救命ICUでの広域の高度救命救急医療に対応し救命率の向上を目指して積極的に活動を行っている。

また、本院は災害拠点病院でもあり、大規模災害時にも上記の機能を発揮し重症傷病者への対応が可能な体制を構築している。

一方、教育研究機関として、一般市民、学生、研修医、医師、看護師、救急隊員(救急救命士)などへの教育・啓蒙活動および救急医療に関する研究、治療法の開発に携わっている。

Emergency Center was established on April 1989, and was renewed Emergency and Critical Care Center on May 1 in 2009.

It deals with a serious injury, the extensive burn, the acute poisoning, the cerebrovascular disorder, the ischemic heart disease, and the emergency patient who faces the crisis of the life additionally by various causes as a third-order medical institution in the system of the diagnosis and treatment of 24 hours and 365 days.

To complete the role as the last redoubt, the fulltime doctor and the doctor of each diagnosis and treatment department are offered, and various medics including the calling nurse cooperate, and an advanced, state-of-the-art emergency medicine is being offered.

Moreover, to offer it to the large area prompt an advanced emergency medicine, the health care system is positively constructed in front of the hospital of the emergency patient transportation that uses the helicopter and the medical team dispatch to the disaster scene.

On the other hand, it is involved in the education, the educational campaign, the research on the emergency medicine to the civilian, the student, the trainee doctor, the doctor, the nurse, and rescue personnel (paramedic), and the developments of the treatment method as educational research laboratories.

## 集中治療部

Intensive Care Unit

集中治療部は、1985年より開設され、現在8ベッドで運営されている。さらに、2016年1月より特定集中治療管理料2に対応した高規格ICUとして稼働している。年間入室症例数は約600~700例で、これまで10,000有余の患者管理を行ってきた。治療患者は、おもに大手術後患者であり、また、手術後に限らず呼吸・循環不全や敗血症、DIC、熱傷患者等も管理している。呼吸、循環をはじめとした臓器機能不全に対して、各臓器サポートを施行してきている。

現在、集中治療部専従医師を中心に、各科医師の協力により、集学的な治療・運営が行われている。集中治療医学は、現在、麻酔科学の重要な分野を担っており、臨床研究では、循環作用薬の臓器血流変化、臓器機能維持等を、基礎研究では急性肺傷害の機序や虚血・再灌流モデルを用いた臓器障害の防御・治療の研究を行っている。

Our Intensive Care Unit (ICU) was established in 1985. At present, we operate 8 beds for high standard ICU, which the specific intensive care management fee (2) is applied to. Approximately 600-700 patients are admitted to this unit every year. We have treated more than 10,000 people before. Most of them are the postoperative patients, in addition, we treat a wide range of patients who have severe clinical conditions such as respiratory dysfunction, circulatory dysfunction, sepsis, DIC, and burns.

We, intensivists provide the combined modality therapy in collaboration with other expert physicians. And the more appropriate organ support has allowed for management of more severe organ failure. Intensive Care Medicine plays an important role in the field of Anesthesiology. In the recent clinical studies, we have tried to reveal the effect of circulatory drugs on the organ blood flow. Moreover, we have conducted the basic researches on the mechanism of acute lung injury and the protection/therapy against organ failure in ischemia-reperfusion injury animal models.

## 輸血部

Blood Transfusion Center

輸血部では、年間約20,000単位の血液製剤の管理と検査を行っている。スタッフは専任教官1名と、技官6名で構成されている。主な検査と業務は血液型判定、交差試験、GVHD予防のための血液製剤に対する放射線照射である。

特殊な検査としてフローサイトメトリーによるCD4、CD8、CD34等陽性細胞の測定を行っている。特殊業務としては、末梢血幹細胞の採取と凍結保存を実施している。

より安全で有効な輸血療法が行われるように、検査体制の充実に努めており、各診療科に対して自己血輸血の推進と適切な輸血療法の指導を行っている。

This center manages and examines about 20 thousand units of blood products per year, and consists of a medical doctor and six medical technologists. Blood typing and blood cross-matching are practiced and the irradiation of blood products performed for prophylaxis of GVHD, as routine procedures. Positive cells for CD4, CD8, CD34 and so on are detected by flow cytometry in this center. The harvesting and cryopreservation of peripheral blood hematopoietic stem cells are also performed. With a view to achieving safe and efficient blood transfusion, the center is making an effort to do complete examinations and promote autologous transfusion. We also provide proper transfusion information to many clinical departments.

## 病理部

Pathology Center

治療の前提たる適切な診断を下すための病理組織検査、細胞診検査、術中迅速検査を業務とする。必要に応じて免疫染色、免疫電子顕微鏡的観察、in situ hybridizationを加え、個々の症例の診断や病態評価に役立てている。これを実践する際の諸問題の解決とその応用を研究課題としており、特に皮膚病理、唾液腺腫瘍病理を中心に、形態学的・遺伝学的・臨床的検討を行っている。

Surgical pathology, cytopathology and intra-operative consultation on frozen sections, which provide patients with the proper diagnosis for treatment, are our routine work. Modern techniques such as immunostaining, in situ hybridization, and immunoelectron microscopic study are employed to ascertain various diagnostic and prognostic markers for the benefit of the patients. Our main interest is to solve the problems encountered in the practice of these examinations and to develop new techniques to help in diagnostic pathology. Especially, we concentrate our efforts to the fields of skin pathology and salivary gland tumor pathology.

## 医療情報部

Hospital Informatics Center

医療情報部は、昭和63年2月に病院総合情報システム(BUNGO)の開発推進のために学内措置で設置された医療情報室を母体とし、平成7年4月に医学情報センター医療情報部に引き継がれ、平成11年4月に訓令施設医療情報部となった。医療情報部は、多数の病院職員の協力を得て、BUNGOの設計開発、運用管理を担当している。診療支援、病院経営改善支援、リスクマネジメント、患者サービス、教育研究データベース、地域の医療福祉機関との連携などを進めている。平成17年1月にはオーダーリングシステムから電子カルテを基盤とした病院情報管理システム(BUNGO)に更新され、平成18年3月から病棟で、平成19年5月から外来で電子化診療記録が稼働している。厚労省の医療情報システムの安全管理に関するガイドラインを遵守して、診療録の電子化による情報の共有、PDAを使ったベッドサイドでのオーダーと患者の照合、研修医の注射・処方オーダーや研修医記載診療録に対する指導医の承認などを行い患者さんへの安全な医療提供を確保している。電子カルテ及び標準化の採用、データ互換性の確保によって、健全経営、地域医療機関との情報交換(平成24年大分県医療情報ネットワーク開始)、Evidence-based Medicineの基盤データ、教育研究の推進に貢献している。

The Hospital Informatics Center was established in February 1988, to develop the integrated hospital information system of the University Hospital (BUNGO). The Center develops and manages the BUNGO system in cooperation with many hospital personnel. The Center develops the systems to support medical decision-making, hospital management, risk management in the hospital, service for patients, medical education and research, and cooperation with community healthcare providers. The BUNGO with Electronic Health Record started in January 2005, and was replaced in January 2016. A new virtual technique was adopted to the server of many vendors.

Electric medical records in our hospital, together with other national university hospitals, are reserved at the data-centers in Japan for the disaster since 2014.

また大規模災害対策として国立大学病院医療情報システムデータの遠隔バックアッププロジェクトに参加し、平成26年度から、電子カルテシステムに記録した患者さんの診療情報の一部を、セキュリティが厳しく管理された複数の国内のデータセンターに外部保管しています。

平成28年1月にはサーバの仮想化等最新技術の導入と、一部に残っている紙カルテの電子化の一層の推進等のためにBUNGOの更新を行った。



## 臨床薬理センター

Clinical Pharmacology  
Center

臨床薬理センターの役割は、薬物治療の有効性と安全性を高め、合理的薬物治療が行われるように支援することと、質の高い臨床試験・臨床研究が附属病院内で円滑に実施できるようにすることである。この目的のために、臨床薬理センターは患者さんからの薬物治療に関する相談、地域の患者さんを対象にした薬物治療コンサルテーションを実施している。さらに専門外来として心身医学領域の診療を行い、医療コミュニケーションの教育も担当している。また、総合臨床研究センターと共に、附属病院における治験を含む臨床研究の推進に取り組んでおり、各診療科が利用可能な治験外来を設置している。

Modern medical services are rapidly advancing with medical technology more and more subdivided into specialized fields. This led Oita Medical University to inaugurate the General Medicine Center. Objectives of this center include developing a more efficacious and patient-oriented general medicine system based on evidence-based medicine (EBM). This department focuses on providing medical treatment for frequently occurring diseases such as ailments related to life habits, as well as cancer prevention. Educational programs before and after graduation are organized to give medical students diagnostic abilities as well as basic knowledge, skills and behavior required to be a general physician. Other abilities to be developed in the programs are: differential diagnosis and treatment of common disease.

## リハビリテーション部

Rehabilitation Center

リハビリテーション部は、疾病や外傷の初期より、社会復帰というゴールを念頭に置いた治療や治療支援を行う部門である。また、高齢者の介護予防などの教育的訓練の一翼も担っている。特に術後早期や外傷直後の急性期リハビリテーションに重点を置き、専門職員で構成するリハビリテーションチームにより、評価の後治療計画を策定し、それに沿った治療を行っている。具体的には、運動器疾患に対するリハビリテーション、脳・血管病変に対するリハビリテーション、神経・筋疾患に対するリハビリテーションなどが挙げられる。学部学生の教育や療法士の養成にも力を注ぎ、表面筋電計や歩行解析装置を用いた研究も活発に行っている。

The rehabilitation center assists to recover the impairment of patients from an early stage of a disease or a trauma. It has also an educational role for the elderly to prevent a decrease of ADL. In our center, physical therapy and speech therapy are performed. The emphasis is placed on early rehabilitation and team treatment, including the evaluation of dysfunction and disability, creation of adequate individual program suitable for each patient. Our center also educates medical students and students of physical therapist school.

## 地域医療連携センター

Regional Medical  
Liaison Center

地域医療機関との連携強化を目的に平成15年、当センターは開設され、平成20年にはがん相談支援センターが併設された。医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務、地域連携コーディネータのスタッフで患者入退院の調整（フローマネジメントPFM）、クリニカルパスの導入と運用、地域医療機関との連携、医療福祉相談など多彩な業務を行っている。在院日数の短縮や、より効率的な医療を円滑に行えるように、クリニカルパス見直し業務なども行なっている。今後、当センターを介した紹介患者の受け入れなどを通じて、地域医療機関との連携をこれまで以上に密なものとし、質の高い医療サービスの提供を目指している。

In FY 2003, the Regional Medical Liaison Center was established for the purpose of working in closer cooperation with local medical organizations. Then, in FY 2008, Cancer Diagnosis and Treatment Clinic was established as an annex. Various services are offered at this center, such as Patients Flow Management (PFM), introduction and use of the Clinical Pass, co-operation with in addition, a payment system based on Comprehensive Medical Evaluation has been adopted. Trials for shorter hospitalization are progressed and the Clinical Pass system is being reevaluated in order to facilitate more efficient medical treatment Working closely with our university and local medical organizations, we aim to provide medical treatment of high-quality through our patients transfer system.



「すこやか」

生命の源である太陽を右上、わが家を  
思わせるやすらぎの場を中央に配した。

(竹工芸家 白石白雲齋氏寄贈)

"Health"

The Sun, the essence of life, is seen in the uppright corner and the sanctuary, symbolizing the home, is in the center.

(Presented by Shiraiishi Hakuunsai, bamboo craftsman)

## 周産母子センター

NICU, Maternity and Perinatal Care Center

大分大学医学部附属病院周産母子センターは妊娠・分娩から新生児までを連携して治療している。妊娠、分娩は産婦人科からの専門医が担当し（母性部門）、小児科医を基盤とする新生児専門医が新生児未熟児医療に対応する新生児部門（NICU）を担当し、両者が協力して周産母子センターの診断・治療を行っている。

母性部門は、助産師とともに母性学級を行い、妊娠、分娩、育児に関する講習および院内の案内を行っています。夫立ち合い分娩の講習会も月1回行っている。また、子宮筋腫、糖尿病、腎炎、妊娠高血圧症候群、妊娠うつ病など多様な合併症妊娠症例を数多く担当しており、内科や精神科等、関連各科と密に連絡を取りながら、医学的根拠に基づいた最適な妊娠・分娩管理に努めている。

胎児の状態に応じて、バルスドップラー法、カラー・パワードップラー法やMRI検査、羊水検査なども施行する。新生児科はもちろん、小児科、小児外科とも緊密な連携を保ちながら、共同でより正確な胎児診断を心がけており、胎児、母体にとって一番良い対応ができるように常に配慮している。

新生児部門（NICU）は、超低出生体重児を含む集中治療を行っている。これらの治療は、新生児専門医—看護師—コメディカルの協力下で、365日、24時間体制で行っている。また、自発運動評価等、極力非侵襲的な脳機能評価に基づいた管理を実施している。看護では、早期よりカンガルーケア、母乳栄養を行い、健康な新生児の発育を支援している。

Maternity and Perinatal Care Center, Oita University Hospital, is concerned with pregnancy, delivery and newborn.

The specialist from the obstetrics and gynecology department is in charge of assisted reproductive technology (ART) and medical care, pregnancy and delivery, and the specialist of newborn, neonatologist, basis of pediatrician, is in charge of neonatal intensive care unit (NICU) concerned with the intensive medical care for newborns and premature babies, and both cooperate to do our best on medical care for pre- and perinatal mothers, and newborns.

We have held a prenatal class with delivery assistant (midwife) and a class about pregnancy, delivery and baby care. And a monthly class about delivery in the presence of husband is also held. In addition, we are in charge of a multi-complicated pregnancy cases such as myoma of the uterus, diabetes, nephritis, toxemia and maternity blue. We try for the most suitable pregnancy and delivery management with evidence based medicine contact to each subject such as internal medicine and psychiatry concerned each other. We enforce pulse doppler method, color power doppler method and MRI, amniotic fluid analysis depending on the fetomaternal state. We keep a more correct fetal diagnosis and treatment in mind while keeping close cooperation with the pediatrics, pediatric surgery in addition to NICU by sharing if and always consider the first for an embryo and a mother's health so that good correspondence can.

In NICU, intensive care including for extremely low birth weight infant are provided by neonatologist, nursing, comedical staffs for 24 hour for 365 days. We manage non-invasive brain functional evaluation such as video monitoring of general movement. By nursing we do kangaroo care and breast-feeding since the early stage and we challenge for the prevention of a perinatal brain dysfunction and contribute for the uneventful neonatal growth and development.

## CCU部

Coronary Care Unit

冠動脈疾患の集中治療を行う部門である。心電図、心臓超音波法（経胸壁法、経食道法）、冠動脈造影法、および冠動脈内超音波法を診断に供している。薬物療法の他、経皮的冠動脈形成術やステントを用いた冠血行再建術を行っている。心筋炎、心筋症、弁膜症などを原因とした致死性および難治性心不全の治療、ならびに頻拍性不整脈や致死性重症不整脈に対する高周波カテーテルアブレーション治療や植込み型除細動器・心臓再同期療法も積極的に施行している。さらに、代謝・糖尿病診療部門との連携により、生活習慣病を中心とした背景疾患の治療にも力を入れている。

Coronary artery diseases such as myocardial infarction and angina pectoris are intensively treated in this section. Admitted patients are diagnosed using electrocardiography, echocardiography (transthoracic, trans-esophageal), coronary arteriography, and intracoronary ultrasound. Some patients are treated non-invasively. Others are invasively treated with PTCA or stenting. Patients with uncontrolled cardiac failure caused by ischemic heart disease, hypertension, myocarditis, cardiomyopathy, and valvular disease are also treated here. High frequency catheter ablation for tachyarrhythmia, implantable cardioverter defibrillator (ICD) for lethal arrhythmia, and cardiac resynchronization therapy have been performed recently. Finally, emphasis is placed on the treatment for patients with background diseases, the so-called life habit diseases, in cooperation with metabolologists and diabetologists.

### 血液浄化センター

Blood Purification Center

血液浄化センターの診療内容は、急性腎不全、血漿交換や各種吸着療法が必要な患者、透析導入期や手術を要する透析患者および腎移植予定の患者を主な対象として血液浄化療法を行っている。主要医療機器として純水装置、透析液供給装置各1台、患者監視装置7台、個人用透析装置2台、血液浄化装置2台を設置し、同時透析能力は、7名である。なお、血液浄化センターへの移動が困難な重症患者に対しては病室での出張透析も行っている。血液浄化センターの管理、運営および透析操作に伴う全ての準備、処置、患者管理等は、腎臓外科・泌尿器科医、腎臓内科医が担当しており、看護体制は専属2名、臨床工学技士も専属3名となっている。

Daily schedule in this department consists of hemodialysis plasmaexchange, apheresis and hemofiltration for patients with acute renal failure and drug intoxication, and those undergoing their first hemodialysis procedures and those on long-term hemodialysis who are planning to undergo surgical treatment for another disorder or renal transplantation. The main medical appliances are water treatment devices, one dialysate supply system (central delivery system), seven patient monitoring systems, two individual systems. Seven patients can undergo hemodialysis therapy at a time. A patient in critical condition can undergo hemodialysis in his or her ward with an individual hemodialysis system. Both urologists and nephrologists are responsible for the management of this department, namely the preparation and procedures of hemodialysis for patients, who are in the care of two nurses and three clinical engineering technologists.

### 内視鏡診療部

Endoscopy Center

内視鏡診療部で行われている内視鏡診療は、消化器疾患、呼吸器疾患にわたり、上部・下部消化管、気管支、超音波内視鏡、逆行性膵・胆管造影（ERCP）などとそれらに関連する治療手技である。内視鏡検査は診断手技のみでなく、治療手段としての地位を確立してきたことから、内視鏡診療の重要性は高まる一方である。現在、6台の電子スコープが検査に使われており、スタッフとして内科・外科医師、看護師、内視鏡技師が常時勤務している。当院における内視鏡診療を基礎とした専門分野としては、①ヘリコバクターピロリと上部消化管疾患（胃炎、胃潰瘍、胃癌）との関連 ②食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）③胃・食道静脈瘤に対する内視鏡的治療 ④食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（Pre-oral Endoscopic Myotomy: POEM, 平成26年2月先進医療認定）⑤膵・胆道疾患の内視鏡的治療、などである。最近では地域医療連携センターとも連絡を密にしており、患者さんに細やかに苦痛がなく、かつ大学病院として、より高度な内視鏡診療を実践できるよう努力している。

The division of endoscopy provides therapy for diseases of the gastrointestinal and respiratory system, namely the upper and lower gastrointestinal tract, and bronchi, by means of ultrasound endoscopy, ERCP (imaging of biliary and pancreatic ducts) and other related techniques. The importance of endoscopy is increasing as it is an important tool not only in diagnostics but also in therapy. Recently, physicians, surgeons, nurses, and endoscopy technical assistants have been routinely operating six electronic endoscopes. The interest of endoscopy in our hospital focuses on the research of: 1. the correlation between *H. pylori* and diseases of the upper gastrointestinal tract (gastritis, gastric ulcer and gastric cancer), 2. endoscopic excision of early carcinoma in the esophagus, stomach and colon, 3. endoscopic therapy for gastric and esophageal varices, 4. Pre-oral Endoscopic Myotomy: POEM to esophagus achalasia, 5. endoscopic therapy for pancreatic and biliary tract diseases, and others. Recently, we have cooperated intensively with the local medical centers to provide a high level of painless endoscopic care as a university hospital.

## 感染制御部

Hospital Infection  
Control Center

病院内における感染予防対策はきわめて重要である。感染制御部は、①MRSAをはじめとする耐性菌の院内感染予防、②結核などの感染性の強い病原体の病院内での患者や医療従事者への感染防止対策、③肝炎ウイルスやヒト免疫不全ウイルス（HIV）などの針刺し事故対策、などをおこなっている。これらの活動により患者の在院日数の短縮、医療費の抑制、医療従事者の健康維持などの効果が期待されている。また大分県下の医療機関と連携し、地域における耐性菌などの感染予防対策を進めている。

It is essential to control infections in hospitals. The hospital infection control center was established to prevent infections in the hospital. This center conducts the following; a)epidemiology and control of hospital infection due to antimicrobial resistant bacteria such as methicillin resistant *Staphylococcus aureus*, b)prevention of *Mycobacterium tuberculosis* transmission in facilities for patients and health-care workers, c) protection of workers against acquisition of hepatitis viruses or human immunodeficiency virus while performing job duties. These activities provide shortening of hospital stays, decreasing medical costs for patients, and maintenance of health for the workers. Furthermore, we are cooperating with the hospitals in Oita prefecture in infection control.

## ME機器センター

Medical Engineering  
Center

医療機器の高度化に伴って、多用途の高機能を有する医療機器が導入され診療に応用されている。これらの医療機器を総合的に機能管理、メンテナンスを行うとともに、適切に配置し、医療経済の面からも合理的に資源を投入し病院経営に資することを目的に設立された部門である。

The medical university hospital is providing high-level clinical technology to ill patients. To realize this purpose, many precision instruments are employed in physiological examinations and life-saving intensive care in the specialized clinical departments and facilities. This ME-Center manages mechanical maintenance and rational purchase of this equipment to ensure safe and effective use in patients.



ヒポクラテスの木

## 医療安全管理部

Medical Safety  
Management Center

本院の医療安全管理は、まず平成11年10月に病院リスクマネジメント委員会が設置され、医療事故防止にシステムを通して取り組むことを病院内外に明確に示した。その後平成12年9月に病院リスクマネジメント委員会の下部組織として、医療安全対策室が設置され、医療事故防止はより重要になり、対応も向上した。平成12年には各部署にリスクマネージャーを任命し(兼任)、当該部署での医療安全管理責任者として努力してもらっている。その後医療安全対策室は平成13年度7月「患者安全推進元年」に医療の質・安全管理をさらに推進する目的で、院内措置ながらも医療安全管理部に格上げされた。医療安全管理部運営会議もリスクマネジメント委員会も月に1回の会議を持っているが、必要に応じて臨時の会議を招集し重要な案件に対する対応を迅速に行うよう心がけている。またリスクマネージャーに対する医療安全管理に関する事項を周知徹底するために毎月リスクマネージャー連絡会議を開催している。

以後「安全管理体制の確立」を目標に、①報告体制整備 ②マニュアル作成 ③職員研修 ④患者相談等を行ってきた。現在、インシデント報告に対する現場へのフィードバック体制、事故発生時体制の検証等の課題はあるが、医療安全管理体制整備はほぼ完成されつつある。また国立大学附属病院間相互チェック等による全国ネットワークを活用した活動では、持参薬管理体制、外部評価による事故調査委員会の検討等をおこなってきた。さらに、平成17年度より医学教育の一環に「医療安全管理」の講義が加わり、医学生から医療安全管理に対する意識を培うことを目的に、概論から実際の医療現場で起こるインシデントの事例、薬剤に関して、訴訟等に関してと多岐にわたって講義を行っている。

またインシデント報告システムの導入により、報告の簡便性と報告の整理、統計分析を行う環境を整備した。平成18年8月より専任医師を配置し、体制の強化を図っている。このような活動をとおして、病院職員の安全管理意識の向上や医療事故防止策の共有といった効果が見られている。

卒後臨床研修センターは、平成16年度から必修化された卒後臨床研修に伴い、企画・運営・管理などのすべての業務を統括するために平成15年4月に設置された。主な業務は下記のとおりである。

- 1) 卒後臨床研修の計画及び実施
- 2) 研修医の募集及び登録
- 3) 研修医に係る連絡・照会等の対応
- 4) 研修実施課程におけるカリキュラム管理
- 5) 指導医の確保及び評価
- 6) 研修医の評価
- 7) 研修医に係る臨床研修病院との連絡調整
- 8) 研修医のメンタルヘルス及び労働条件
- 9) 研修医の処遇
- 10) 研修医の救急当直等

The active medical safety management in our hospital started in 1999. Actually, the risk management committee was organized in 1999 and the division of medical safety management was also organized on September 2000 under the committee. The risk managers were assigned in each ward and central consulting facilities in 2000 that is the beginning of the action and since then the medical safety management of our hospital improved progressively. The intranet system of incident reporting was designed and constructed in 2000 and the usage of the system made the incident report delivered quickly and efficiently, promoting to report incidents. We have the regular monthly meeting of risk management committee, division of safety management and risk manager meeting. The division was upgraded as central consulting department a domestic step in July 2001.

The main targets of our activities are, firstly to accomplish an effective incident reporting system, secondly to make an manual for medical safety management, thirdly to educate staff people of the hospital, fourthly to response patients' consultations and claims. The mutual check system of the current status of safety management among the national university hospitals also promote the proper administration of medicines which patients brought in with them on admission, and accelerate the evaluation of incidents by the external valuation committee.

In the year 2005, the lectures on medical safety management was initiated for the students in the medical school, including general overview on safety management and specific issues on such as misses regarding prescribing medicines, suits and real examples of incidents. The new incident reporting intranet system also came into operation in this May, which may also be helpful to promote our incidents reducing activities. A full-time medical physician was assigned in August 2006 to order to strengthen the incident reporting system.

Finally, we also have 3 to 4 regular educating forums through the year to promote the risk management of our hospital staffs. These activities will certainly ascent our medical safety management progressively.

Since the clinical training program is to become a compulsory program for graduates from FY2004, the Clinical Training Institute for Interns was established in April 2003 to unify the various tasks of planning, administration, and management etc. Its main roles are as follows.

- 1) Planning and implementation of clinical training program for graduates.
- 2) Recruitment and registration of interns.
- 3) Communication, inquiries and other intern-related matters.
- 4) Curriculum management of the internship program.
- 5) Maintaining and evaluating instructing doctors.
- 6) Evaluating interns.
- 7) Liaising and coordinating with training hospitals for interns.
- 8) Supervision of mental health and working conditions of interns.
- 9) Management of treatment for interns.
- 10) Arrangement of emergency duty rotation for interns.

## 卒後臨床研修センター

Clinical Training Institute  
for Interns





## 腫瘍センター

Cancer Center

悪性腫瘍（がん）は現在、わが国の死亡原因の第一位である。治療法は改善されつつあるが、いまだ十分とは言えない。このような状況において、内科・外科・放射線科・緩和ケアセンターなど複数の診療科等が協力しながら集学的治療を行ってゆくことが重要と考えられている。また、医師だけではなく看護師、薬剤師などを含む多職種の関係者が協力しながらチームとして診療に関わってゆくチーム医療の実現も重要な課題のひとつである。

大分大学では標準治療の実践とより効果的な治療法の開発のための臨床研究の推進を目標として、附属病院内に腫瘍センターが設立された。センターでは、腫瘍内科が中心となり内科系診療科、外科系診療科、緩和ケアチームなどの部署と連携してがん診療の実践を行っている。各がん腫に対する抗がん剤治療は化学療法運営委員会で承認された治療法であり、個々の治療法は各領域の専門家により cancer board（14領域よりなる）で決定されることとなっている。また、各種薬剤の投与方法、副作用の種類と頻度、副作用に対する対処法などの情報はセンターで一元化され、医療スタッフはこれらの情報を共有しながら日常診療にあたっている。同時にこのような安全な診療体制下で新薬治験をはじめとした各種臨床試験も行われている。

なお、本センターを中心としたこのような診療活動により本学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、大分県のがん診療の中心的役割を担っている。

Cancer is the leading cause of death in Japan today, and while treatments for cancer have been improving, further progress needs to be made. We believe that a multidisciplinary approach to treatment is crucial, with cooperation among the departments of internal medicine, surgery, and radiology, the palliative care center, and others. Also important is the practice of team medicine with doctors, nurses, pharmacists, and other healthcare professionals working together.

The Cancer Center at Oita University Hospital was established with the dual aims of providing standard care to patients and advancing clinical research for the development of more effective treatments. The Department of Medical Oncology takes the central role at the Cancer Center, providing cancer treatment in coordination with other departments in the areas of internal medicine, surgery, and palliative care. Anticancer drug treatments for each type of cancer are approved by a chemotherapy advisory committee, while a cancer board consisting of specialists in 14 different areas decides individual treatments. Information on method of administration, types and frequencies of adverse effects, management of adverse effects, and other matters is consolidated at the Cancer Center. This information is then shared with healthcare staff in the provision of routine care. At the same time, various clinical trials are carried out for new drug treatments and other therapies under this safe medical care system.

Based on these medical care activities at the Cancer Center in concert with our other departments, Oita University Hospital has been designated a prefectural cancer hospital by the national government and plays a central role in cancer treatment in Oita Prefecture.



## 総合臨床研究センター

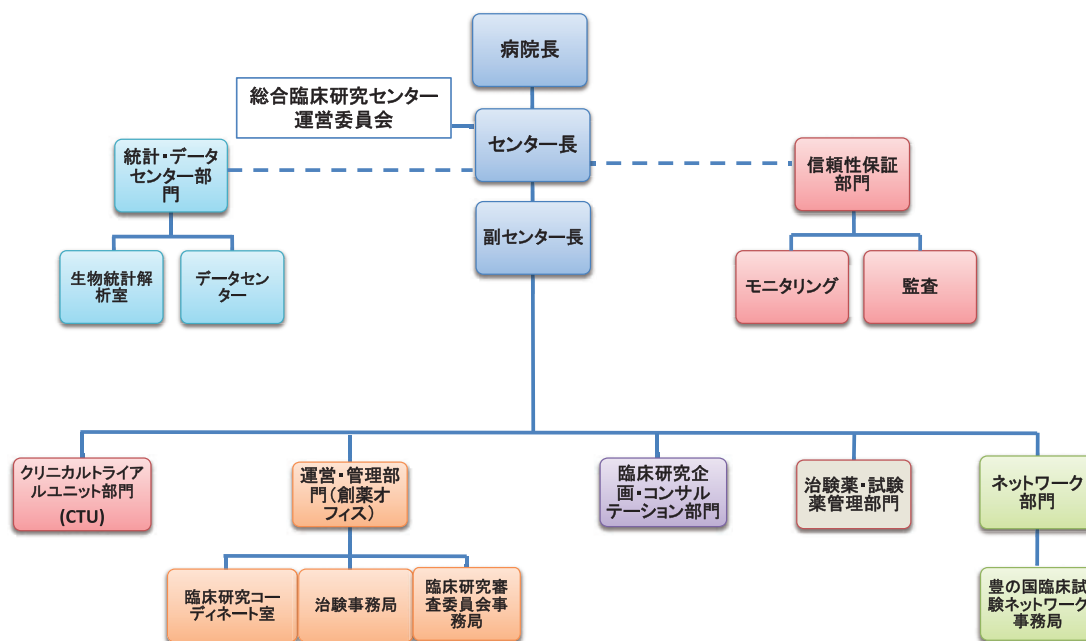
General Clinical Research Center

総合臨床研究センターは、クリニカルトライアルユニット部門、運営・管理部門、臨床研究企画・コンサルテーション部門、治験薬・試験薬管理部門、統計・データセンター部門、信頼性保証部門の7部門からなり、大分大学医学部附属病院における治験、臨床研究の支援を行う機能組織である。

クリニカルトライアルユニット部門は附属病院4階にある臨床試験専用病床（クリニカルトリアルユニット、CTU）を管理し、特に早期臨床試験の推進を目標とする。運営・管理部門は、治験事務局業務、臨床研究コーディネート業務、倫理審査委員会事務局業務を行う。臨床研究企画・コンサルテーション部門は、主に院内の自主臨床研究を計画段階から支援し、研究の質の向上を目指す。治験薬・試験薬管理部門は、治験薬及び臨床研究で使用する試験薬剤の管理を一元的に行う。ネットワーク部門は大分県下の医療機関からなる「豊の国臨床試験ネットワーク」の事務局業務を主に行う。統計・データセンター部門は生物統計家及びデータセンターを擁し、院内の臨床研究のみならず、多施設共同臨床試験の中央データセンター機能も有する。信頼性保証部門はモニタリング及び監査機能を有し、臨床研究データの信頼性向上を業務とする。

The General Clinical Research Center (GCRC) has a central management function of clinical researches in Oita University Hospital. GCRC consists of 7 divisions, which bring together thought leadership, global and local experience, scientific rigor, and a skilled workforce to efficiently coordinate clinical trials and answer clinical questions that improve patient care.

総合臨床研究センター(GCRC)組織図



## 肝疾患相談センター

Liver disease consultation unit

平成20年4月、新しい肝炎総合対策が始まり、大分大学医学部附属病院が「肝疾患診療連携拠点病院」に選定された。肝疾患相談センターは、拠点病院の業務の中心的な役割を果たす組織である。

1. 患者・キャリア・家族からの相談等に対応する。
2. 県内の専門医療機関（協力病院）やかかりつけ医と連携し、大分県の肝疾患の病診連携のしくみをつくる。
3. 医師や医療関係者に対する研修や講習会実施し、情報提供を行う。

地域によって診療に偏りのないよう、患者さんが等しく最新の治療が受けられるようにする。

With the introduction of the Government's new comprehensive measures against hepatitis in April 2008, the Oita University Hospital was designated as the "Base hospital for cooperation in the medical care of liver diseases" in Oita Prefecture. The Liver Disease Consultation Unit is an organization playing the central role in the activities of the base hospital, which include:

1. Counseling patients, carriers, and their families.
2. Collaborating with specialized medical institutions (cooperating hospitals) and general practitioners in the prefecture to develop prefectural systems for hospital-clinic cooperation against liver diseases.
3. Holding training sessions and workshops for physicians and other healthcare professionals to provide them with relevant information.

The Liver Disease Consultation Unit strives to give each patient an equal opportunity to receive the latest treatment irrespective of their location.

## 臨床栄養管理室

Clinical Nutrition Office

近年、生活習慣病をはじめ、多くの疾病と食生活の関係が注目されている。当院の臨床栄養管理室は、栄養治療及び食事療法のクリニカル部分と、食事を提供するというフードサービス部分を兼ねた、管理栄養士と調理師で構成された組織である。室員全員が、「食事の提供は、それ自体が食生活改善と食事療法における最高の指導媒体である」をモットーとし、病状に応じた食事、さらには食事の楽しさを提供できるように心がけている。また、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなど、栄養に関わるすべてのチーム医療に栄養管理の専門職として参画し、疾病の治療へ貢献できるように努力している。

患者様には、入院・外来を問わず、個人栄養指導・集団栄養指導などを行い、食事療法が継続できるよう支援している。その他、栄養士の臨地実習を受け入れる教育支援や、院外においては疾病予防に関わる活動への参加を通して大学病院としての地域支援を行っている。また、学会活動を通じ、学会認定資格の取得や更新についても積極的に取り組んでいる。

Recently, the relation including the lifestyle disease between a lot of quality diseases and eating habits is paid to attention.

Member of clinical nourishment management quality is an organization that held the Food Service part to offer a clinical part of the nourishment treatment and the dietetic treatment and meals concurrently composed of the national registered dietician and the cook.

For all clerks to assume "In the offer of meal, it is the highest guidance medium in the eating habits improvement and the dietetic treatment" to be a motto, to eat according to the condition, and to offer the happiness of the meal furthermore, it bears it in mind.

Moreover, it makes an effort to participate in all the team medical treatments related to nourishment such as NST (nutrition support team) and bed sore team, palliative care team, and diabetes dialysis prevention team as a profession of the nutrition management, and to contribute to the treatment of the disease.

To guide individual nourishment, to guide the group nourishment to the patient regardless of hospitalization or the outpatient, and to intermit the dietetic treatment, it supports it. Additionally, the region as the university hospital is supported through participation in the activity related to the disease prevention in the support of education and outdoor that accepts the dietician's temporary practice.

Moreover, the society activity runs, and works positively about acquisition and the update of the society recognition qualification.

## 遺伝子診療室

Genetic Counselling Office

近年、ヒトDNAの完全な塩基配列情報が入手可能となり、遺伝子の変異やバリエーションが病気とどのように関係するのか明らかになりつつある。今後遺伝医学の進歩によってより良い診断手法、予防手段、治療法の開発が促進されると考えられる。このような状況の中、遺伝カウンセリングは幅広い医療の領域に必須の医療サービスになると考えられ、わが国でも徐々に遺伝カウンセリングが医療、社会の場で認知され始めている。

遺伝子診療室には複数の臨床遺伝専門医が所属し、日々更新される遺伝医学について研鑽を積んでいる。遺伝子診療室のスタッフは遺伝カウンセリングを通じて、クライアントが自ら遺伝性疾患と向き合い、自分らしい選択ができるよう支援を行っている。当院は無侵襲的出生前遺伝学的検査（Noninvasive prenatal genetic testing : NIPT）の認定施設であり、多くのクライアントを受け入れている。

Complete human genome sequence has been available in recent years, and it is revealed gradually how genomic mutation or variation relates to the causality of certain diseases. The development of medical genetics will facilitate to provide the better diagnostic, preventive, and treatment tools of genetic diseases. In these medico-sociological circumstances, genetic counselling has become an inevitable and acknowledged medical service.

Professional doctors who are expert in clinical genetics devote themselves to updating their knowledge and skill of medical genetics in our Genetic Counselling Office. The counselling staff provide support to the clients in order to face the genetic disease by themselves and choose the option suited for them. Our institution is recognized as one of the Noninvasive prenatal genetic testing (NIPT) facilities in Japan and accepts many clients.

## 認知症先端医療 推進センター

Center for Propulsion of  
Advanced Medicine for  
Dementia

高齢化社会の到来により認知症の患者数は増加の一途を辿っている。認知症の克服は全世界的な課題であり、我が国においても国家戦略として認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が推進されている。認知症先端医療推進センターは、世界最先端の認知症医療・研究の実現に向けた共同診療・研究体制を構築することで、大分県の認知症医療レベルの向上、超早期診断技術および根本的治療薬の開発を目指す。本センターは、認知症診療を担う神経内科、総合内科および精神科、画像診断機能を有する放射線医学及び先端分子イメージングセンター、臨床研究の包括的实施機能を有する総合臨床研究センターが連携し、認知症の研究・診療・教育の各部門を構成する。

各部門の主な取り組み

- 1) 研究部門は、認知症の危険因子の解明、認知症の予防法の探索のデータ駆動型研究と、アルツハイマー病の早期診断技術および根本的治療薬の開発、革新的診断技術や根本的治療薬の治験等のミッション達成型研究を推進する。
- 2) 診療部門は、PET検査・MRI検査等の高度な診断技術を活用し、地域の医療機関との機能分化・連携強化を推進する。
- 3) 教育部門は、専門的な知識・医療技術を持つ医師および看護師の育成、地域への派遣を推進することで地域における認知症医療レベルの向上を図るとともに、地域医療の活性化を目指す。

A super aging society in Japan is facing a dramatic increase of patients with dementia. We need to take an immediate and global action to deal with this issue. Recent government dementia plans, comprehensive strategy to promote measures and policies of dementia, has been announced as "New Orange Plan". To lead Japan's medical front of dementia in Oita prefecture, CPAMD aims to provide preventive approaches to Alzheimer's disease (AD), including development of novel disease-modifying therapies to delay or prevent the onset of AD and diagnosis-developing research to identify people with increased risk of AD. The three major divisions, research, medicine, and education are tasked in cooperation with a couple of department of neurology, general medicine, neuropsychiatry, and radiology as well as advanced molecular imaging center and general clinical research center.

Mission of each division

- 1) Research Division focuses on AD, and promotes a "three-armed research" : data-driven research, mission-oriented research, and translational research.
- 2) Medical division designs innovative medical system linked to PET/MRI imaging, and promotes medical network system in a cooperation with multiple task force which is an independent panels of experts in medical care and service.
- 3) Educational division aims to bring up medical experts for dementia all over Oita, who can promote the physical and mental health of demented people or the one at risk of dementia, and also provide advanced quality of dementia care, leading to the activation of medical community in Oita.

## 薬剤部

Pharmacy

薬剤部は、安全かつ適正な薬物療法の実施、医薬品の適正使用推進という責務を果たすために、より質の高い薬剤業務の展開を目指している。その業務内容は、医薬分業の推進とともに外来患者中心の業務から入院患者へ、そして調剤・製剤・薬品管理からTDM、注射薬調剤、病棟における薬剤管理指導業務など業務内容を増やしている。また、積極的に臨床研究を行い、より効果的な薬物療法の開発を行っている。

主な業務は、下記のとおりである。

- 1) 調剤
- 2) 医薬品情報管理
- 3) 医薬品管理
- 4) 特殊製剤による医薬品の新規投与法の開発
- 5) TPN無菌調製と抗がん剤調製
- 6) 治療薬物モニタリング
- 7) 治験薬管理

薬剤部ホームページ

<http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/>

Pharmaceutical department aims for a development of our high quality business to discharge our duty which is the practice of a safe and appropriate medicinal therapy and the propulsion for the best use of medicine. As the separation of medical professionals from drug dispensing progresses, hospital pharmacists' roles have shown a shift from outpatients- to inpatients-centered services, and from drug dispensing, formulation and management to therapeutic drug monitoring (TDM), preparation of injections and pharmaceutical care services. And we perform some clinical studies positively and develop more effective medicinal therapy. In addition, clinical studies are activity. Its main roles are as follows.

- 1) Dispensing
  - 2) Management of drug information
  - 3) Management of drugs
  - 4) Newly created pharmacotherapy using new drug preparations
  - 5) Aseptic preparation of TPN and anticancer drugs
  - 6) Therapeutic drug monitoring
  - 7) Management of investigation drugs
- Web site: <http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/>

## 看護部

Nursing Department

看護部は、患者さんに安全で質の高い看護を提供することを目標としている。病院では患者さんを中心に「チーム医療」が行われているが、その一員として患者サービスの中心的役割を果たしている。「患者さんが満足する看護」を提供できるよう日々努力している。その活動の1つは、倫理観に基づいた患者中心の看護。言い換えれば「患者さんが参画し選択できる看護」をすること。2つ目は患者さんに快適な療養環境を提供することである。このような看護を推進するには、看護師がお互いを尊重しあい、「質向上」に貢献できる職場風土が必要となる。看護師が自律し、看護の専門性を発揮できるように、教育・学習支援に力を入れている。

The purpose of the Department of Nursing at Oita Medical University Hospital is to provide quality nursing care which is safe, efficient and effective. We believe that every individual is unique and has the right to obtain the highest possible level of wellness.

The professional nurse assumes an integral position in the delivery of patient care as both an autonomous and interdependent member of the health team.

We have a commitment to the acquisition of knowledge.

Each nurse is accountable to self and society for practice and professional development and assumes responsibility for growth through inservice and continuing education programs.

## 医療技術部

Medical Technology Department

医療技術部は、医療技術専門職として医療技術の質の向上を図り、高度な技術提供に努め、診療部門・病院管理部門との密接な協働体制を確立することを理念として平成18年10月に設置された。

医療技術部は、臨床検査部門（臨床検査技師）、放射線部門（診療放射線技師）、リハビリテーション部門（理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士）、臨床工学・歯科部門（臨床工学技士、歯科技師、歯科衛生士）の4部門からなり、医療技術専門9職種が所属し、中央診療施設等に配置され当該中央診療施設等の長の命を受けて業務を遂行している。

患者本位の診療に徹し、診療部門への迅速な診療情報の提供に努めること、医療技術の質の向上と患者サービスの向上に努めること、医療技術職員間の連携を図り、部門の交流の促進と相互の技術水準の向上を図ること、医療技術職員の適正配置による業務運営の効率化を図ること、専門性と豊かな人間性を兼ね備えた医療技術部を目指すことを目標としている。

The Medical Technology Department was founded in October 2006.

The department presses for improvements in the quality of the available medical technology, its professional medical technicians provide high quality specialized medical treatment, and it works to build up an effective cooperation system between the outpatient and control departments.

The Department has 4 section; Clinical laboratory (Clinical laboratory technologists), Radiological (Radiological Technologists), Rehabilitation (Physical Therapists, Occupational Therapists, Orthoptists, Speech-Language-Hearing Therapists), and Clinical Engineering with Dental (Clinical Engineering Technologists, Dental technicians, Dental hygienists). The department also has 9 medical specialty technologists that operate under the leadership of the medical director.

The department is tasked with providing adequate health care for all patients as well as providing all necessary information to the central clinical department. It also aims to raise the standard of available medical treatments, enhance partnerships among staff, and to seek further efficiencies, effective postings, and efficient rationalization. Furthermore our department aims to inculcate a high degree of professionalism and humanity within the department.

## 災害対策室

Anti-Disaster Measures Room

災害対策室は、平成25年4月1日に、国立大学法人大分大学危機管理規定に基づき、地震等の大規模災害に対する予防措置を講じるとともに、災害応急対策の迅速かつ的確な実施を図るために、大分大学医学部附属病院に設置されました。本院の防災体制の構築およびライフラインの確保、防災訓練及びトリアージ訓練の実施、災害医療支援、被災地における救援および救護活動、災害備蓄品、BCP（事業継続計画）などに関する業務を行います。また、DMAT活動の管理、支援を行っています。国立大学附属病院災害対策相互訪問事業計画に参加して、災害対策能力の底上げ、災害対策の標準化、災害対策意識の向上、情報の蓄積および共有、ブロックごとの災害対策や情報共有などを推進しています。

The anti-disaster Measures Room was established at Oita University Hospital in April 2013, to measure large-scale disaster such as earthquake. We treat establishment of disaster measures, secure life line, training of protection against disasters and triage, disaster medical supports, relief activities, disaster stockpile, and business continuity plan. And also manage and support Disaster Medical Assistance. According to the National University Hospital disaster measures reciprocal visits project, we propel contribution and standardization of disaster measures, and storage and common ownership of informations.

### 女性医療人キャリア 支援センター

Career Path Support  
Center for Medical Staff

女性医療人キャリア支援センターは、医学部附属病院で医療に携わる医療人（医師，看護師，薬剤師，コメディカル）のキャリア継続，復帰，およびキャリアアップを支援するためのセンターとして，平成26年12月24日に設立された。

女性医療人の割合は増加する傾向にあるが，出産，育児などでキャリアを中断せざるを得ない，その後の職場復帰が困難になる，といった本人だけでは解決し難い問題に直面している。こうした現状を踏まえ，ハード，ソフト両面でどのような支援が必要であるか女性医療人の声を聴きながら支援策を構築するとともに，女性のみならず医療人全体の意識啓発を行っていく。

女性も男性も医療人がキャリアを継続し，活躍できる多様性のある職場環境にしていくことにより，病院全体の質の向上，ひいては地域医療への貢献につなげることを目指している。

女性医療人キャリア支援センターホームページ

<http://www.med.oita-u.ac.jp/carsupport/>

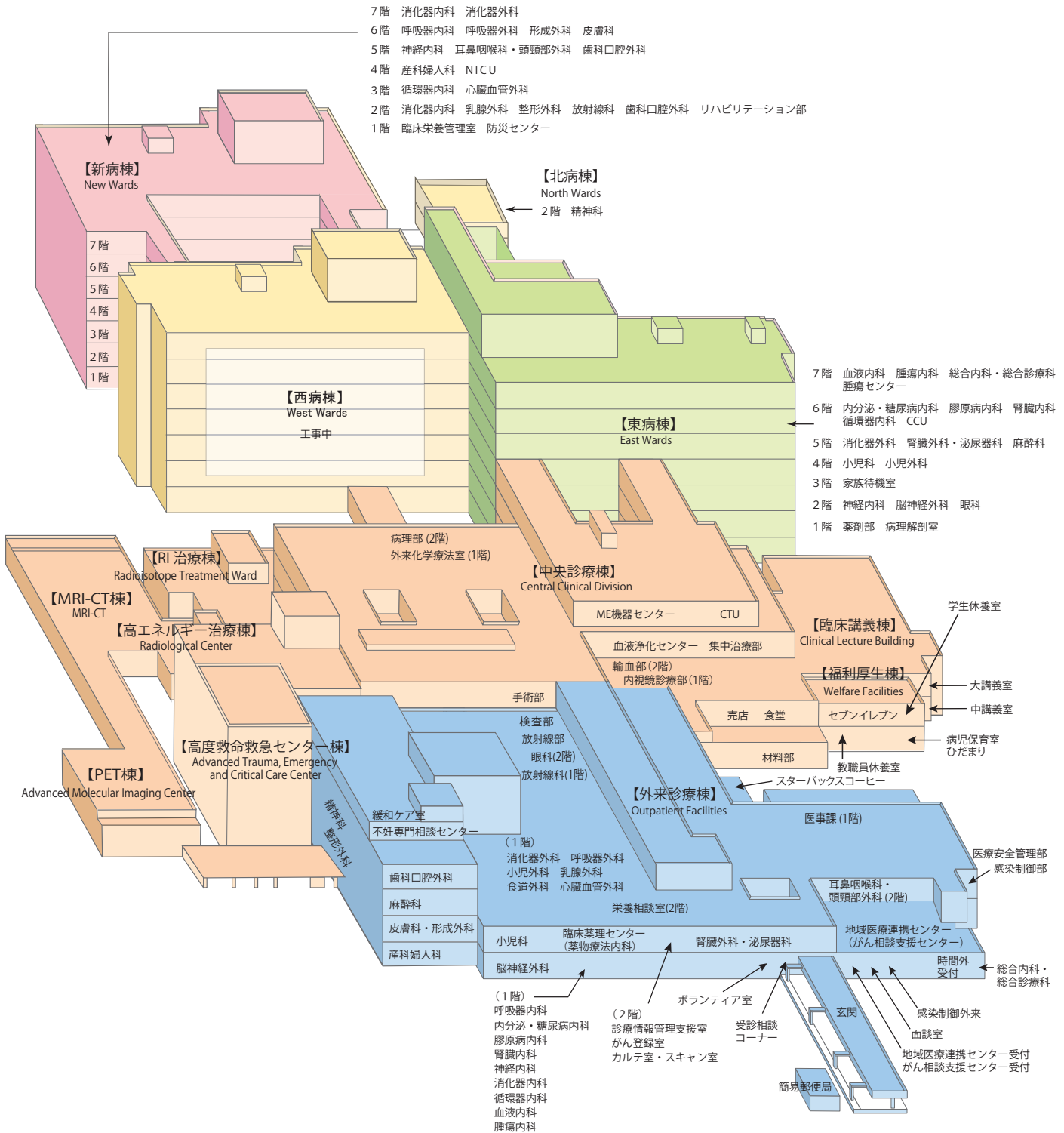
Career Path Support Center for Medical Staff was established on 24 December 2014 as an organization of Oita University Hospital, in order to support medical staff, such as doctors, nurses, pharmacists, and co-medicals, for their lifelong career, return-to-work, and career development. Despite the increased rate of female medical staff, they are facing difficulties, hardly solved by themselves, in maintaining their career and returning to work due to pregnancy and parenting. Considering the current circumstances, we listen to their voices to seek what kind of support they need from both the hard and soft aspects, develop support measures, and enlighten overall awareness beyond genders.

Our mission is to contribute to community medicine as well as improve quality of Oita University Hospital by making the work place variable, where both male and female medical staff are able to keep their career and play successful roles.



大学の風景～キャンパス西側～

# 病院各階案内 Hospital Floor Guide



※病院再整備工事に伴い、今後移転する診療科等がありますので、最新の配置状況については、病院職員にお尋ねください。

## 病床数

Number of beds

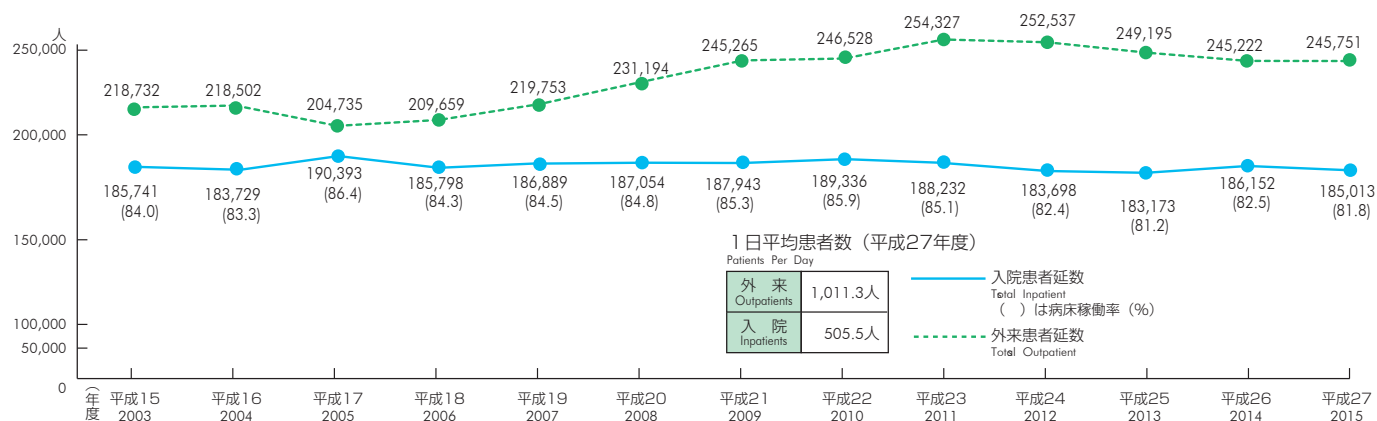
一般病床 Beds for Regular Patients	精神病床 Beds for Psychiatric Patients	計 Total
588	30	618

重症病床 Beds for Serious Patients			特別室(新病棟) Special Rooms (New Wards)	東病棟個室 Private Room (East Wards)	個室(新病棟) Private Room (New Wards)
個室 Private Rooms	二人部屋 Twin-bedded Rooms	計 Total			
20	20	40	3	33	19

# 診療実績 Clinical Statistics

## 年度別入院・外来患者延数

Annual Total Number of Patients



## 患者数

(平成27年度)

Number of Patients

(in 2015)

診療科 Clinical Departments	外来患者 Outpatients		入院患者 Inpatients	
	延数 Total	1日平均数 Average per Day	延数 Total	1日平均数 Average per Day
呼吸器内科 Respiratory Medicine	7,497	30.9	6,057	16.5
循環器内科 Cardiovascular Medicine	8,562	35.2	9,651	26.4
消化器内科 Gastroenterology	12,933	53.2	8,084	22.1
内分泌・糖尿病内科 Endocrinology, Diabetology and Metabolism	11,360	46.7	3,625	9.9
血液内科 Hematology	3,769	15.5	4,822	13.2
腎臓内科 Nephrology	3,584	14.7	3,295	9.0
膠原病内科 Rheumatology	8,052	33.1	3,481	9.5
神経内科 Neurology	6,165	25.4	8,160	22.3
腫瘍内科 Medical Oncology	4,209	17.3	7,755	21.2
精神科 Psychiatry	18,032	74.2	8,938	24.4
小児科 Pediatrics	11,835	48.7	10,110	27.6
乳腺外科 Breast Surgery	1,816	7.5	753	2.1
小児外科 Pediatric Surgery	204	0.8	160	0.4
消化器外科 Gastroenterological Surgery	6,645	27.3	14,705	40.2
呼吸器外科 Thoracic Surgery	1,874	7.7	4,214	11.5
脳神経外科 Neurosurgery	4,072	16.8	10,142	27.7
整形外科 Orthopaedic Surgery	15,997	65.8	13,649	37.3
皮膚科 Dermatology	13,589	55.9	5,694	15.6
形成外科 Plastic Surgery	3,993	16.4	3,200	8.7
腎臓外科・泌尿器科 Renal Surgery & Urology	13,997	57.6	9,040	24.7
眼科 Ophthalmology	30,096	123.9	8,415	23.0
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Otorhinolaryngology & Head and Neck Surgery	10,423	42.9	9,784	26.7
産科婦人科 Obstetrics & Gynecology	15,597	64.2	10,603	29.0
放射線科 Radiology	2,740	11.3	1,303	3.6
麻酔科 Anesthesiology	1,573	6.5	487	1.3
臨床薬理センター Clinical Pharmacology Center	1,233	5.1	0	0.0
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	3,398	14.0	11,463	31.3
総合内科・総合診療科 General Medicine	10,697	44.0	569	1.6
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	11,092	45.6	3,227	8.8
高度救命救急センター Advanced Trauma, Emergency and Critical Care Center	717	3.0	3,627	9.9
合計 Total	245,751	1,011.3	185,013	505.5



**画像診断検査**

Diagnostic Imaging Examinations

区分 Classification		X線撮影 件数 Radiograph	X線透視 件数 Fluorography	放射線治療 件数 Radiotherapy	核医学検査 件数 NM	C T 件数 X-ray CT	MRI件数 MRI	血管造影 件数 Angiography	PET-CT 件数 PET-CT	計 Total
入院 Inpatients	25年度	35,820	1,506	248	796	6,731	1,823	1,362	216	48,502
	26年度	35,589	1,623	267	775	6,685	2,275	1,403	257	48,874
	27年度	36,157	1,510	244	659	6,683	2,009	1,477	255	48,994
外来 Outpatients	25年度	33,946	764	83	693	13,722	4,556	72	602	54,438
	26年度	34,676	808	56	679	14,408	5,168	64	594	56,453
	27年度	36,155	439	55	670	14,525	5,509	94	840	58,287
計 Total	25年度	69,766	2,270	331 (照射回数 24,447) Irradiation	1,489	20,453	6,379	1,434	818	102,940
	26年度	70,265	2,431	323 (照射回数 22,167) Irradiation	1,454	21,093	7,443	1,467	851	105,327
	27年度	72,312	1,949	299 (照射回数 23,876) Irradiation	1,329	21,208	7,518	1,571	1,095	107,281

**分娩件数**

Number of Deliveries

区分 Classification	経膈分娩 Vaginal delivery		帝王切開術等 Cesarean section		全分娩数 Total delivery
	成熟児 Mature	未熟児 Immature	成熟児 Mature	未熟児 Immature	
25年度	54	11	61	35	161
26年度	46	8	78	48	180
27年度	56	11	48	27	142

**処方箋枚数・件数・剤数**

Prescriptions

区分 Classification		調剤薬 Prescription Drug			注射薬 Injection Drug			
		枚数 Prescription Forms	件数 Number of Patients	剤数 Doses	枚数 Prescription Forms	件数 Number of Patients	剤数 Doses	
入院 Inpatients	25年度	127,568	200,521	1,131,665	230,083	331,650	798,383	
	26年度	128,532	202,037	1,140,216	234,539	338,073	813,845	
	27年度	126,870	199,424	1,125,473	223,751	322,523	776,411	
外来 Outpatients	院内 In-house Pharmacies	25年度	25,517	88,795	1,668,792	24,071	31,280	54,374
		26年度	20,140	70,084	1,317,140	24,073	31,283	54,378
		27年度	18,827	65,515	1,231,271	24,343	31,634	54,988
	院外 Outside Pharmacies	25年度	136,052	473,440	8,897,696	—	—	—
		26年度	136,398	474,644	8,920,324	—	—	—
		27年度	135,322	470,900	8,849,955	—	—	—
計 Total	25年度	289,137	762,756	11,698,153	254,154	362,930	852,757	
	26年度	285,070	746,765	11,377,680	258,612	369,356	868,223	
	27年度	281,019	735,839	11,206,699	248,094	354,157	831,399	

## 臨床検査件数

Number of Clinical Examinations

区分 Classification	一般検査 Urinalysis	血液学的検査 Hematology	生化学的検査 Clinical Chemistry	内分泌学的検査 Endocrinology	免疫学的検査 Immunology	微生物学的検査 Microbiology	生理機能検査 Clinical Physiology	採血・採液等 Blood sampling	内視鏡検査 Endoscope	計 Total	
入院 Inpatients	25年度	0	183,097	809,515	11,834	80,143	22,892	15,788	0	2,170	1,125,439
	26年度	8,033	181,091	818,756	12,527	79,190	21,789	15,642	0	2,162	1,139,190
	27年度	8,875	186,631	820,754	12,616	90,900	23,637	16,267	0	2,629	1,162,309
外来 Outpatients	25年度	48,843	159,279	1,249,776	21,595	132,653	12,897	20,259	80,886	4,925	1,731,113
	26年度	38,400	162,570	1,258,859	22,388	132,932	14,875	22,040	82,728	4,893	1,739,685
	27年度	38,646	170,402	1,307,728	23,467	141,479	15,644	23,317	84,008	6,171	1,810,882
計 Total	25年度	48,843	342,376	2,059,291	33,429	212,796	35,789	36,047	80,886	7,095	2,856,552
	26年度	46,433	343,661	2,077,615	34,915	212,122	36,664	37,682	82,728	7,055	2,878,875
	27年度	47,521	357,033	2,128,482	36,083	232,379	39,281	39,584	84,008	8,820	2,973,191

## 手術件数及び麻酔件数

Number of Clinical Surgery and Anesthesia

### ①手術件数 Number of Clinical Surgery

区分 Classification	0~999点	1000~2999点	3000~4999点	5000~9999点	10000~14999点	15000~19999点	20000~49999点	50000~99999点	100000点以上	計 Total
25年度	279	561	397	839	630	435	1,797	712	201	6,286
26年度	164	425	754	620	955	935	1,996	1,098	284	7,231
27年度	305	871	1,264	1,000	893	935	2,593	961	324	9,146

### ②麻酔件数 Number of Clinical Anesthesia

区分 Classification	0~999点	1000~5999点	6000点以上	計 Total
25年度	3,140	852	2,979	6,971
26年度	3,558	222	3,461	7,241
27年度	4,126	37	3,621	7,784

## 病理診断件数

Number of pathological diagnosis

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients
25年度	5,289	8,039
26年度	5,634	7,562
27年度	5,363	7,810

## 病理解剖数

Number of Autopsies

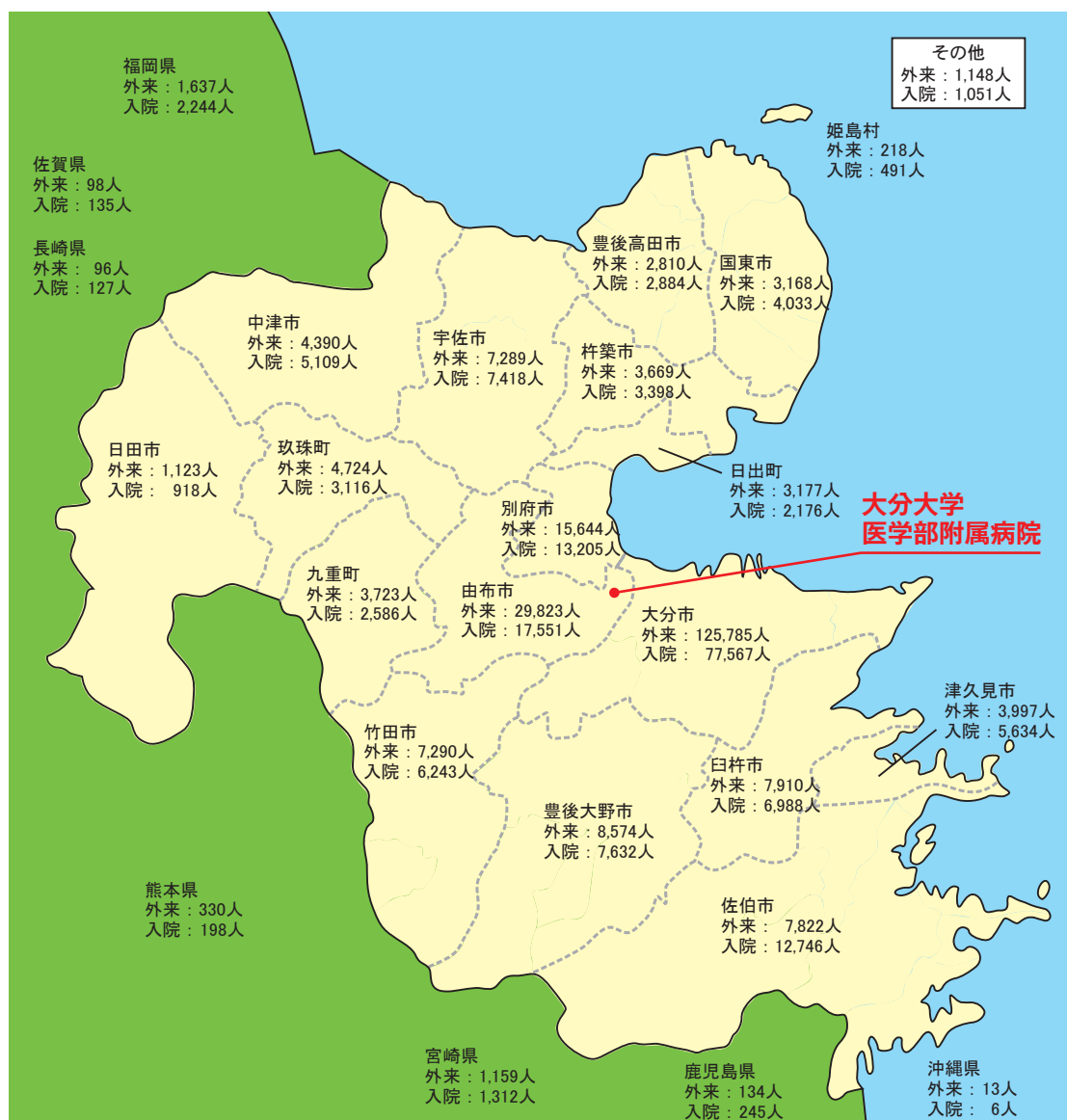
区分 Classification	死亡患者数 (人) Hospital Deaths	病理解剖数 (件) Autopsies	剖検率 (%) Percentage	受託解剖数 (件) Autopsies of Outdoor Patients
25年度	226	15	6.6	6
26年度	204	1	0.5	0
27年度	180	17	9.4	2

## 血液製剤使用数

Total amount of Transfusion

区分 Classification	全血製剤 (本) Whole Blood- Leukocytes Reduced	赤血球製剤 (本) Red Cells Concentrates -Leukocytes Reduced	血小板製剤 (本) Platelet Concentrate	新鮮凍結 血漿(本) Fresh Frozen Plasma- Leukocytes Reduced	特殊血液 製剤(本) others	院内採血 drawing blood in the hospital					患者延数 (人) patient deferred number
						自己血輸血 autologous blood transfusion		末梢血幹細胞移植 peripheral blood stem cell transplantation		その他 Others	
						患者数(人) number of patients	使用量(本) consumption	患者数(人) number of patients	使用量(本) consumption	使用量(本) consumption	
25年度	0	4,964	2,161	2,456	8	124	184	12	20	0	1,723
26年度	0	4,952	2,489	2,049	9	87	130	13	23	0	1,569
27年度	0	4,919	2,085	2,305	1	103	182	8	25	0	1,596

平成27年度地域別患者数内訳



大分県内	外来	入院
宇佐市	7,289	7,418
臼杵市	7,910	6,988
杵築市	3,669	3,398
九重町	3,723	2,586
玖珠町	4,724	3,116
国東市	3,168	4,033
佐伯市	7,822	12,746
大分市	125,785	77,567
竹田市	7,290	6,243
中津市	4,390	5,109
津久見市	3,997	5,634
日田町	3,177	2,176
日田市	1,123	918
姫島村	218	491
別府市	15,644	13,205
豊後高田市	2,810	2,884
豊後大野市	8,574	7,632
由布市	29,823	17,551

九州内	外来	入院
沖縄県	13	6
宮崎県	1,159	1,312
熊本県	330	198
鹿児島県	134	245
福岡県	1,637	2,244
長崎県	96	127
佐賀県	98	135

その他	外来	入院
九州以外	1,148	1,051

計	外来	入院
	245,751	185,013

# 関連施設

## Affiliated facilities

### 全学研究推進機構 Research Promotion Office

全学研究推進機構は、大分大学が有している基盤研究の成果や研究シーズ等の「知的資源」を基に、大分大学の研究目標及び国の政策等並びに社会のニーズを踏まえた研究を集中的かつ戦略的に推進し、知的活力あふれる大学をめざすとともに、下記に示す「研究推進ビジョン」の実現を目的とする。

本機構は二つの分野からなり、重点研究推進分野として「環境科学領域」、「福祉科学領域」、「生命科学領域」、「複合新領域」及び「医工連携推進領域」の5研究領域を設定し、これらの領域における研究を戦略的・発展的に行う。

また、研究支援分野は挾間キャンパスにある「動物実験部門」、「R I 実験部門」、「実験実習機器部門」、「学術映像部門」及び旦野原キャンパスにある「機器分析部門」の5部門からなり、学部、研究科、センター等の基盤研究を支援する体制を強化し、全学研究推進機構における重点研究推進分野の各領域で行われる研究プロジェクトを支援することを目的としている。

#### 【研究推進ビジョン】

1. 基盤研究の維持と連携の推進
2. 研究分野の重点化・大型プロジェクトの推進
3. 競争的環境における研究体制の強化
4. 社会に支持される科学研究推進
5. 国際的な研究の推進
6. 学際融合的な研究の推進

The Research Promotion Office aims to promote research intensely and strategically based on the research objectives of Oita University, National policy and social needs.

It aims for the realization of the vision described below and for the development of the University filled with intellectual vitality.

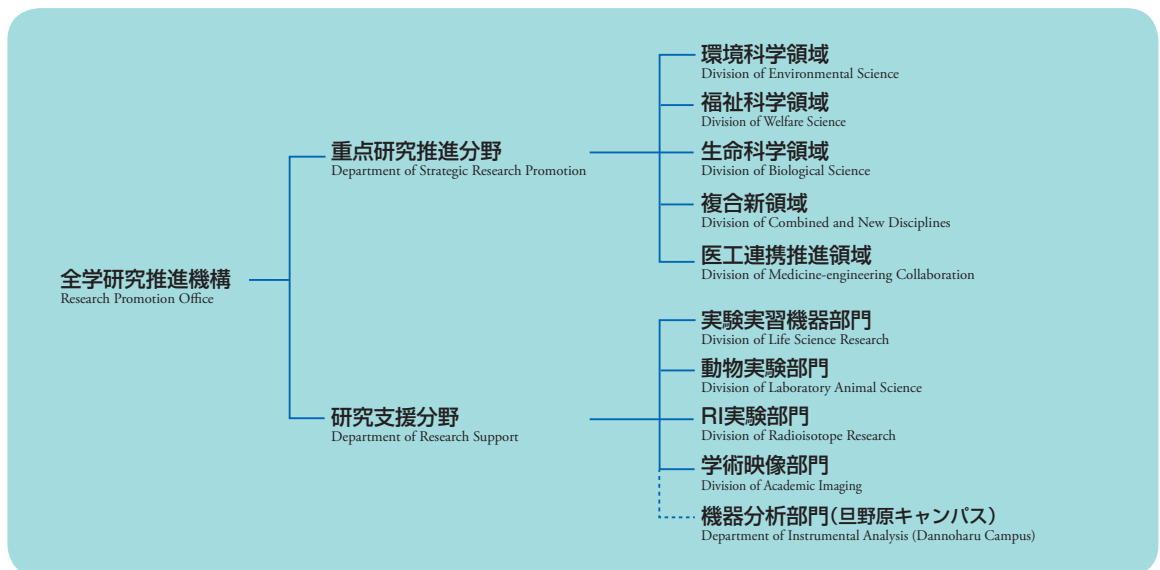
This project is composed of two departments, and it focuses on "Environmental Science", "Welfare Science", "Biological Science", "Combined and New Disciplines" and "Medicine-engineering Collaboration" as areas of investigation, and it aims to deploy these fields of research strategically and expansively.

Department of Research Support is divided into 5 divisions, "Laboratory Animal Science", "Radioisotope Research", "Life Science Research", "Academic Imaging" at the Hazama campus and "Instrumental Analysis" at the Dannoharu campus.

It aims to improve the support system for basic research in their academic departments and support the research projects in each division.

#### [Research Promotion Vision]

1. Preserving basic research and promotion of cooperation
2. Focusing on research areas and promotion of large projects
3. Improvement of the support system for a competitive environment
4. Promotion of scientific research which is supported socially
5. Promotion of the international research
6. Promotion of interdisciplinary and integrated research



### 重点研究推進分野

Department of Strategic Research Promotion

本分野は教授1名、講師1名と助教2名が所属しており、環境科学領域、福祉科学領域、生命科学領域、複合新領域及び医工連携推進領域の5研究領域からなり、これらの領域における研究を戦略的・発展的に展開するため、従来から学科、研究室あるいは個々の研究者単位で行われてきた研究に基づいて、本機構において学部や研究科の枠を超えた研究体制を整備する。

各研究領域は、研究プロジェクトで構成し、研究プロジェクト間を領域長がコーディネートする。

各研究プロジェクトには、研究をコーディネートするプロジェクトリーダーを置き、研究の評価を行いながら発展的に研究を進めることとしている。

This project is composed of five areas of investigation, "Environmental Science", "Welfare Science", "Biological Science", "Combined and New Disciplines", and "Medicine-engineering Collaboration" it aims to deploy these fields of research strategically and expansively and there are one professor, one lecturer, and two assistant professors.

This project improves research implementation systems beyond their academic departments which is done based on existing disciplines, research department and individual research projects.

Each research field is composed of a research project and coordinated by a department head.

Each project has a leader who coordinate between research project, and the project is evaluated and directed toward the development of research.

### 研究支援分野

Department of Research Support

#### 実験実習機器部門 (ゲノム・タンパク・細胞解析・微細形態)

Division of Life Science Research

実験実習機器部門は、医学・生命科学分野の基礎から応用に至る各種の大型・高度・精密分析機器・システム類を保守・管理し、さらに本設備を利用する学内外の学生・大学院生・研究者に、機器利用の指導を行うと共に、機器分析などの教育を行っている。この部門ではDNA配列解析の基本から、マイクロアレイによるゲノム発現・変異解析、ポストゲノムの蛋白質実験、二次元電気泳動、蛋白質配列解析およびバイオインフォマティクスによる機能推定、免疫電顕による細胞内分子の局在および機能解析、各種顕微鏡によるマクロから超微細構造までの形態解析、フローサイトメトリーによる細胞機能解析、教育支援・医工学技術開発やその他の医学生物学研究に必要な研究方法について広い分野に取り組んでいる。今後、大学の基盤組織として、教育および研究における核となるべく、技術・研究情報の共有化、さらには講習会・研究会等の開催を通して、広く学内外の研究者の交流の場を提供していく。

The division of Life Science Research is a central facility of Oita University for research and education in medical and biological science. We have many important research systems for collaborative works such as DNA sequencers, protein sequencers, electron microscopes, NMR, flowcytometers, etc. The division of Life Science Research collaborates with all basic and clinical research laboratories at Oita university to develop new techniques and to share research and technical information.



サージカル・ラボSOLINE (動物実験部門)



ケミカルプリンターと質量分析計MALDI TOF MS (実験実習機器部門)

#### 動物実験部門

Division of Laboratory Animal Science

近年のめざましい医学の発展に実験動物を用いた高度な医学研究が多大な貢献を果たしている。動物実験部門は、本学において実施される動物実験をハード面とソフト面から支援し、安全な研究環境を提供している。ハード面では動物実験棟を中心に飼育室や実験室を提供し実験動物の飼育管理を支援するとともに、ソフト面では動物実験の申請手続きをサポートし、研究者に対する倫理教育や技術支援などを行っている。例えば、本学における遺伝子改変マウスの作製、維持管理、他施設からの導入などを目的とし発生工学的な技術支援を提供している。また、平成27年度から、中型動物を用いた外科的手術の教育・研究開発拠点として、サージカル・ラボSOLINE (Surgical Operation Laboratory for Innovation and Education)の運営を開始した。

The advanced medical studies using the laboratory animals have made a great contribution to recent remarkable progress in the medical field. The Division of Laboratory Animal Science (DLAS) supports researchers to perform animal experiments in Oita University. We provide hardware as well as software to create the safe environment for researchers using laboratory animals. DLAS provides animal breeding rooms and laboratories. In 2015, we opened a new animal surgical laboratory named SOLINE (Surgical Operation Laboratory for Innovation and Education). We support the application procedure of the animal experiment and provide educational programs of animal ethics. We also assist researchers in animal handlings and technical skills such as the developmental engineering to create, maintain and clean up genetically engineered mouse models.

### RI実験部門

#### Division of Radioisotope Research

放射性同位元素を用いてトレーサ実験を行うRI実験施設ならびにガンマ線照射装置を設置しているガンマセル室から構成され、それらを利用した研究を支援し、併せて法令に基づいた放射線の安全管理を担当する部門である。 $^{32}\text{P}$ 、 $^{35}\text{S}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{14}\text{C}$ 、 $^{125}\text{I}$ 等の核種が使用されており、バイオイメージングアナライザー、液体シンチレーションカウンタ、オートウエルガンマカウンタ等の測定器が設置され、利用されている。また、部門の研究として放射線照射による遺伝子の発現の変化、とくにコラーゲン遺伝子に対する放射線照射効果について研究を行っている。

Division of Radioisotope Research consists of both laboratories of unsealed radioisotope tracer experiments and gamma irradiation, and is managed in law.

Radiation facilities : a laboratory for unsealed radioisotope tracers and a gamma irradiator of sealed  $^{137}\text{Cs}$  sources.

Using of radioactive nuclides :  $^{32}\text{P}$ ,  $^{35}\text{S}$ ,  $^3\text{H}$ ,  $^{14}\text{C}$ ,  $^{125}\text{I}$ , etc. for tracers, and  $^{137}\text{Cs}$  for irradiation in radiation controlled areas.

Instruments: Bio-imaging analyzer system, Liquid scintillation system, Gamma counters, Gamma ray irradiator and other instruments are available for medical and biological research projects.

Our research project is to investigate the effects of radiation on the gene expression, especially collagen gene.

### 学術映像部門

#### Division of Academic Imaging

学術映像部門は、医科学と医療の領域の映像技術を活用して、医学の研究・教育・診療に関する最新の映像コンテンツを制作・収集・管理・配信する目的で設立した。現在当部門で設置されている主な機器は高度な動画撮影装置・編集装置をはじめ、画像処理用PCを設置して利用者の需要に対応している。また医学部学生・大学院生を対象にして、PCプレゼンテーション技法に関する教育・指導も行なっている。今後は映像メディアを利用してコンピュータシステムを基盤とした映像分野の表現・再現技術の研究に重点をおき、全学部や地域との連携を目的とした教育コンテンツの制作・配信支援体制を確立するための研究や方法論の展開を行う。

Division of Academic Imaging was established for the purpose of using latest imaging techniques for education, research and clinical purposes. In response to users' demand and to support research and teaching at present the main equipments installed in our division are a computer controlled image processing and editing unit posters, advanced video and still photographic devices. We are teaching medical and nursing students both at undergraduate and graduate levels how to present research and clinical works.

In future using different imaging media as a base we would like to do research in the filed of imaging techniques. We would like to do research on how to establish links with other faculties and institutions in the local communities to disperse the knowledge of imaging.



大学の風景～心の池～

## 学術情報拠点（医学図書館） Center for Academic Information & Library services (Medical Library)

大分大学学術情報拠点（医学図書館）は、大分医科大学附属図書館として昭和55（1980）年3月25日竣工、同年4月25日に開館し、以来36年間学術情報の拠点として、大学の教育・研究・診療活動を支えてきた。平成20（2008）年4月、附属図書館、医学分館、総合情報処理センター、医学情報センターとの統合により現在の組織、学術情報拠点（医学図書館）となった。

平成26（2014）年には耐震改修工事を行い、翌27（2015）年7月1日より新図書館でのサービスを開始した。

自然光を取り入れ明るく開放的に一新した館内はバリアフリー化し、ラーニングコモンズやグループ学習室など新時代の多様な学びに対応した多機能な学習環境も充実している。

現在蔵書数は約145,000冊、入館者数は延べ約65,000人（リニューアル後）。

また、平成20（2008）年1月より地域における医療・医学の発展に寄与するため、大分県内の医療従事者を対象に医学文献を提供する「医学文献デリバリーサービス」を開始した。現在の利用状況は1ヶ月当たり約100件、医学部と地域における医療・教育研究全般を支える医学図書館としての重要な支援サービスとなっている。

Oita University Center for Academic Information & Library Services (Medical Library) has been supporting education, research and medical services for the past 36 years as an academic research information center. Originally, it named "Oita Medical College Library", and it was completed on March 25 in 1980 and opened on April 25 that year. In April 2008, it became a center for academic information library (Medical Library) consisting of the University Library (Medical Branch), the Information Processing Center and the Medical Information Center. The name was later changed to "Center for Academic Information and Library services (Medical Library)".

In 2014 the Medical Library's building was upgraded to make it earthquake resistant and it was reopened on July 1, 2015. The interior of the building is exposed to natural light from the outside. Furthermore it incorporates barrier free design, thereby forming a conducive environment for studying. The learning commons space can be used for group work and meets the diverse needs of students. Its book holdings total 145,000 volumes, and we have had approximately 65000 visitors since renewal.

Since January 2008 it is our desire to serve practitioners in the community, and we have been running a 'Medical Document Delivery Service'. The number of users of this service is about 100 per month. This service is vital support between our medical university and our local community.

## 24時間無人入退館システム

## 24-hour Entrance System

利用者から開館時間外の図書館利用の希望が多くなってきた情勢の中で、平成6（1994）年、全国に先駆け24時間無人入退館システムを導入し運用を開始した。磁気カード式の学生証（身分証明書）により、通常開館時間外の他、土曜、日曜・祝日を含めた24時間の入館が可能である。時間外利用の希望者は利用申請を行い、基本的な利用講習の受講のみで自動貸出装置による資料の貸出、閲覧、複写ならびに情報検索機器による情報検索などのサービスを24時間受けられる。

導入時の利用対象者は教職員と大学院生に限られていたが、平成8年4月からは大学に所属するすべての者が利用対象となり、平成28年4月現在、1日あたり約70人（リニューアル後の延べ人数 約20,000人）が利用し、必須サービスとして定着している。

In 1994, the University Library introduced Japan's first unmanned entry system because of visitors needs. This system operates using magnetic ID card and security code for 24-hour entry, including Saturdays, Sundays and public holidays. After the users fill out a simple application form and undertake a basic training session, 24-hour lending, reading, copying and computer network database access can be available. At first, only faculty staff and graduate students were allowed access this system, but since April 1996, the facility has been available to all staff and students. As of April 2016, the number of users are about 70 people per day (total number of users are 20,000 since renewal). This system has become an indispensable service for our library.



医学文献デリバリーサービス *Medical Document Delivery Service*



大分大学学術情報拠点 (医学図書館)  
**医学文献  
 デリバリーサービス**



**購入雑誌一覧**

は、図書館ウェブサイトの「購入雑誌目録」のリンクからご覧いただけます。

**利用案内**

図書貸出冊数・期限  
 6冊 2週間

※雑誌は館内でのみの利用となります。

■図書館ウェブサイトの「OPAC」より蔵書の検索ができます。

■貸出カードを作る際身分を証明するものが必要です。  
 貸出をご希望の方は運転免許証等をご持参ください。



キャンパスマップ  
 駐車場は附属病院の外来駐車場をご利用ください(有料)

**お問い合わせ**

〒879-5595  
 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地  
 大分大学学術情報拠点 (医学図書館)  
 医学情報サービス担当

Tel 097-586-5580(直通)-5581  
 Fax 097-586-5579  
 E-Mail [ijyoserv@oita-u.ac.jp](mailto:ijyoserv@oita-u.ac.jp)  
 Website <http://www.lib.oita-u.ac.jp/>

開館時間  
 平日 9:00-20:00  
 土日祝 10:00-17:00  
 休館  
 年末・年始 12/29 ~ 1/3  
 夏季休業期間中

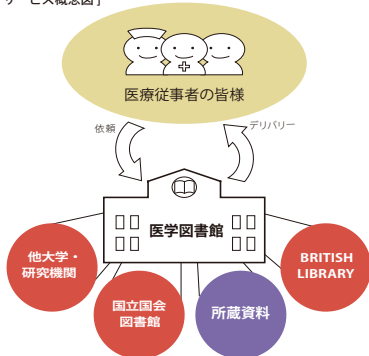
Oita University - Medical Library 2008



医学文献デリバリーサービスについて

この度当館では、文献デリバリーサービスを始めました。個人単位でのお申込で、医学文献の入手がウェブ上から可能となります。当館所蔵の文献はもとより、他大学・BRITISH LIBRARY 所蔵資料などから、お求めの論文をお届け致します。当館では、これからも地域における医学及び医療の発展に寄与するため、県内の全ての医療従事者の皆様に医学情報を提供していきます。何卒ご利用のほどご案内申し上げます。

[サービス概念図]



申請から受け取りまでの流れ

- ①大分大学図書館ウェブサイト 医学文献デリバリーサービスから申請書をダウンロードしてプリントアウトしてください。
- ②用紙に必要事項を記入して医学図書館宛に郵送してください。(医学図書館の住所は裏面に記載してあります\*送料は申請者負担です)
- ③医学図書館から文献複写申込時に必要なIDとパスワードを郵送致します。
- ④図書館ウェブサイト・マイライブラリから必要な文献をお申込みください。
- ⑤お申し込みに基づいて複写料や送料等を計算し、申込者にお知らせ致します。(\*後払いの徴収猶予制度もご用意します。詳しくはお問い合わせください)
- ⑥料金のお知らせが届いたら郵便為替または現金書留を医学図書館宛にお送りください。
- ⑦複写物をお届けします。

複写・送付は著作権の範囲内でのサービスとなります。ご了承ください。

文献到着までの日数

(月・金の夕方5時までのお申込で後納の場合)

	当館所蔵資料	他館所蔵資料	
		他館から当館まで	
普通	2~3日	+ 一週間以内	= 10日以内
速達	1~2日	+ 2~3日	= 3~5日
FAX		1日	= 2~4日

土日、祝日、平日5時以降のお申込については月曜または翌日の対応となります

ご利用料金

当館所蔵資料

複写料：白黒 (A3版以下) 1枚40円 × 枚数  
 カラー ( " ) 1枚60円 × 枚数  
 送料：(郵送料)

他館所蔵資料

複写料：1枚 (所蔵館ごとに異なります) × 枚数  
 送料：(他館から当館までの郵送料) + (当館から申込者までの郵送料)  
 \* 依頼館から当館まで FAX での送付依頼の場合 FAX 料金が別途かかる場合があります



**利用状況**

(平成27年度)

Library Use

(in 2015)

開館日数 Open Days	353日
入館者数 Visitors (うち学外者) Outside Visitors	71,698人 (1,804人)
貸出冊数 Loaned Books (うち自動貸出装置によるもの) by Automatic Book Circulation System	9,559冊 (3,617)
学外文献複写 Photocopying Service 依頼 Requests Received	4,207
受付 Requests Granted	450
無人自動入退館システム による時間外利用者数 Use of the unmanned entrance system	19,298

**図書(冊)**

(平成27年度)

Books (Number of Volumes)

(in 2015)

区分 Classification	和書 Japanese	洋書 Foreign Language	計 Total
専門 Medical	1,028	403	1,431
一般 General Education	593	1	594
計 Total	1,621	404	2,025

**雑誌(種類)**

(平成28年4月1日現在)

Journals (Number &amp; Type)

(as of Apr. 1, 2016)

区分 Classification	和書 Japanese	洋書 Foreign Language	計 Total
専門 Medical	570	872	1,442
一般 General Education	136	51	187
計 Total	706	923	1,629

**電子情報サービス2016年版**

Electronic Information Services

**〈電子ジャーナル〉** Electronic journal

	名称 Title	分野等 Fields
1	Elsevier ScienceDirect	全分野約2,200誌
2	Springer Link	全分野約1,600誌
3	Oxford Journal Online	全分野約259誌
4	ACS Web Edition (Am Chem Soc)	化学47誌
5	IEEE CSDL	コンピュータ31誌
6	Nature 本誌ほか	自然科学5誌
7	Cancer Research	医学1誌
8	The New England Journal of Medicine	医学1誌
9	PNAS Online (Proc Nati Acad Sci USA)	自然科学1誌

**〈主要な文献検索データベース〉** Main literature search database

	名称 Title	分野等 Fields
1	CINAHL	国内看護学文献データベース
2	Cochrane collection	EBMデータベース
3	医学中央雑誌 1983～	国内医学文献データベース
4	JCR: Journal Citation Reports	インパクトファクターデータベース
5	聞蔵 II ビジュアル	記事データベース
6	理科年表	科学データベース
7	日経BP記事検索サービス 大学版	記事データベース
8	ジャパンナレッジ	百科事典等データベース
9	eBook Collection	eBook データベース
10	最新看護索引	看護学文献検索
11	Up To Date	エビデンスに基づいた臨床情報
12	Scopus	抄録・引用文献データベース
13	Procedures CONSULT 日本版	動画解説付き臨床手技データベース
14	今日の臨床サポート	オンライン臨床サポートツール

### 学術情報拠点(医学情報センター) *Center for Academic Information & Library services (Medical Information Center)*

医学情報センターは、平成7年4月に旧大分医科大学の学内措置で設置された後、平成15年10月の大学統合により、総合情報処理センター挟間分室(医学情報センター)となり、平成20年4月には、図書館と統合して学術情報拠点(医学情報センター)となったが、一貫して挟間キャンパスの学内LANの設計・運営・管理にあたっている。医学情報センターは、医学部のWebサーバ、グループウェアサーバ、ストリーミングサーバなどの管理、通信環境の運用管理、不正アクセスの防御、ウイルス対策などの学内LANの運用管理を行うとともに、オンライン教材やホームページの作成支援、ユーザサポートなどを行っている。医学情報センターへの問い合わせは、電話(内線6231・6078)あるいはメール(micenter@oita-u.ac.jp)で対応している。詳しくは、<http://www.med.oita-u.ac.jp/mic/> をご覧下さい。

The Medical Information Center was established in April 1995 to plan and administrate campus network system. At April 2007, the Medical Information Network System was replaced and serves groupware servers, WWW servers, file server, video on demand system, and other intranet/internet servers. It also have firewall and virus check system. Help desk is extension 6231・6078 or e-mail to micenter@oita-u.ac.jp. For more details, see <http://www.med.oita-u.ac.jp/mic/>.



学生用パソコンが、情報処理実習室(120台)、自己学習室(60台)、臨床講義棟ホール(20台)、看護学科1F標本資料室(10台)などに設置されており、学生証により24時間入室が可能で、毎日深夜まで多くの学生が利用している。

There are four PC rooms for students, 120, 60, 20, 10 PCs each. All rooms open for 24 hours by student ID.



大学の風景～医学図書館～

## 保健管理センター 挟間健康相談室 Hasama Division, Health Support Center

当室は挟間キャンパスにおける学生および職員の心身の健康に関する相談、保健・健康教育、保健指導の場として平成8年より開設されている。スタッフは専任医師1名、専任保健師1名、非常勤カウンセラー1名に加え、且野原キャンパスより精神科医師が週に1回健康相談を行っている。医学部相談医として産婦人科、精神科、臨床心理士をはじめ各科の医師が専門的な立場から相談にのっている。

This Hasama division was established in 1996 to maintain and promote health care and provide mental and physical consultations to all students and staffs in the Hasama campus area. The regular staff are a full-time doctor, full-time public health nurse and a part-time clinical psychologist. A director of this center (a psychiatrist) from Dan'noharu campus make consultation once a week. We also have university hospital expert consultants to respond to various needs. The content of periodic medical examinations and the infection prevention and control, especially for tuberculosis examinations before clinical practice (just started in the school year 1999) has been enriched by support from doctors and technicians of the Clinical Laboratory Center and Radiology Center in the University Hospital.

### 平成27年度保健管理センター 挟間健康相談室の主な活動

Activities, 2015

区 分 Activities	対 象 Studentgroup	対 象 者 数 Number of student served
定 期 健 康 診 断 Periodic medical examination	医 学 科 1 年 ~ 6 年 School of Medicine	約900名
	看 護 学 科 1 年 ~ 4 年 School of Nursing	
感 染 予 防 対 策 (実 習 前 を 含 む) Infection prevention and control	大 学 院 生 Graduate Students	約200名
	留 学 生 Foreign Students	約10名
	全 学 生 ・ 全 職 員 All Students and the Staff	希 望 者 Applicants  (のべ接種総数 約2,000) B型肝炎ワクチン接種 Hepatitis B Vaccination インフルエンザワクチン接種 Influenza Vaccination 麻疹ワクチン接種 Measles Vaccination 風疹ワクチン接種 Rubella Vaccination 水痘ワクチン接種 Chicken pox Vaccination ムンプスワクチン接種 Mumps Vaccination

### 平成27年度健康相談・カウンセリング件数

Counseling Cases 2015

区 分 Activities	学 生 件 数 Cases of students	職 員 件 数 Cases of staffs
メ ン タ ル ヘ ル ス 相 談 Mental Health Consultation	230	
健 康 相 談 Physical Health Consultation	1,642	160

# 大分大学挾間

## Hasama Campus

### 医学部

Faculty of Medicine

- 1 管理棟**  
Administration Build.  
(医学・病院事務部総務課／経営管理課／  
学務課／財務部施設管理課／  
保健管理センター挾間健康相談室／  
病院再整備推進室)  
Dept. of Medicine and Hospital Administration/General Affairs Div./  
Administration Management Div./Dept. of Financial Affairs, Site and Build.  
Administration Div./Student Affairs Div./Hasama Div., Health Science  
Center/Hospital Redevelopment Promotion Office
- 2 校舎講義棟**(チュートリアル教室1・2階)  
Lecture Build.
- 3 基礎実習棟**  
Basic Practical Training Build.
- 4 看護学科校舎棟**  
School of Nursing Build.
- 5 臨床講義棟**  
Clinical Lecture Build.  
(臨床中講義室(1階)／臨床大講義室(2階))
- 6 基礎臨床研究棟**  
Basic and Clinical Research Build.
- 7 院生研究棟**  
Graduate School Build.
- 8 臨床研究棟**  
Clinical Research Build.
- 9 スキルラボ・情報棟**  
Clinical Skills Lab.・Computer Room Build.  
(スキルラボセンター／情報処理実習室)  
Clinical Skills Lab. Center Computer Room

### 附属病院

University Hospital

- 10 附属病院**  
University Hospital
- 11 医事課**  
Hospital Affairs Div.
- 12 看護師宿舎**  
Nurse Housing
- 13 卒後臨床研修センター**  
Clinical Training Institute for Interns
- 17 医療情報棟**  
Medical Information Build.
- 30 立体駐車場**  
Parking Build.

### 全学研究推進機構

Research Promotion Office

- 6 7 8 全学研究推進機構**  
Research Promotion Office
- 14 動物実験施設**  
Lab. Animal Research Center
- 15 RI実験施設**  
Radioisotope Lab. Center

### 学術情報拠点

Center for Academic Information & Library services

- 16 医学図書館**  
Medical Library
- 17 医療情報棟**  
Medical Information Build.

### 体育施設

Physical Education Facilities

- 18 体育館**  
Gymnasium
- 19 武道場**  
Kendo and Judo Hall
- 20 プール(50m 7コース)・付属室**  
Swimming Pool
- 21 弓道場**  
Japanese Archery Hall

### 福利厚生サークル施設

Welfare Facilities for Students

- 22 サークル施設**  
Facilities for Extracurricular Activities
- 23 課外活動共用施設**  
Facilities for Extracurricular
- 24 福利施設(職員・学生食堂)**  
Welfare Facilities
- 25 福利厚生棟(病児保育室、コンビニ、休養室)**  
Welfare Facilities

### 宿泊施設

Lodging Facilities

- 26 東院会館(非常勤講師等宿泊施設)**  
Toikaikan Guest House
- 27 外国人研究員等宿泊施設**  
Foreign Researcher Apartments
- 28 患者家族滞在施設**  
Hospital Hospitality House

### その他

Others

- 29 郵便局**  
Post Office
- 31 慰霊碑**  
Cenotaph
- 32 動物慰霊碑**  
Cenotaph for Animals
- 33 車庫**  
Garage
- 34 中央機械室**  
Energy Center
- 35 特別高圧受変電室**  
Special High Voltage Substation
- 36 院内保育園**  
Nursery School
- 37 備蓄庫**  
Stockpile warehouse



# キャンパス案内図

## Map of Oita University



# 位置図 施設所在地

LOCATION, MAILING ADDRESS,  
AND TELEPHONE NUMBER



## 所在地

Mailing Address and Telephone Number

大分大学医学部・医学部附属病院  
Oita University Faculty of Medicine and Oita University Hospital  
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地  
1-1 Idaigaoka Hasama-machi Yufu Oita 879-5593 Japan  
TEL 097-549-4411 (電話案内)  
(Information)

## 交通案内

Access

<b>(主要空港から大分空港まで)</b>		by plane
羽田空港から	1時間30分	1 hour 30 minutes from Haneda Airport
大阪空港(伊丹)から	55分	55 minutes from Osaka Airport (ITAMI)
名古屋空港から	1時間10分	1 hour 10 minutes from Nagoya Airport
<b>(JR利用により大分駅まで)</b>		by train
小倉駅から	1時間15分	1 hour 15 minutes from Kokura Station
博多駅から	2時間	2 hours from Hakata Station
<b>(大分空港から大分駅まで)</b>		from Oita Airport to Oita Station
バス利用	55分	55 minutes by bus
<b>(大分駅から医学部まで)</b>		from Oita Station to University
		30 minutes by bus
バス利用(行先番号「L*」のバスに乗車,「大学病院」で下車) (Take bus No. 「L*」and get off at the Daigaku Byoin bus stop.)		
タクシー利用	20分	20 minutes by taxi
<b>(大分自動車道利用により医学部まで)</b>		Via Oita Expressway
大分インターチェンジから	10分	10 minutes from Oita Interchange



#### 西洋医学発祥記念像（大分市府内町遊歩公園）

1551年に国主大友宗麟の招きによって聖フランシスコザビエルが大分の地に布教した。6年後の1557年、この地に日本最初の洋式病院が建ち、ポルトガルの青年医師アルメイダにより、日本最初の洋式手術が行われた。また、この病院で医学教育も始められ、日本人学生が西洋医学を学んだ。

#### Statue Commemorating the Birthplace of Western Medical Practice in Japan

In 1551, Ohtomo Sorin, the ruler in the Oita region, invited St. Francisco de Xavier to Oita to carry out missionary work. Six years later, in 1557, the first Western hospital in Japan was built here. In this hospital, Luis de Almeida, a young Portuguese doctor, performed surgery for the first time in Japan. Moreover, it is at this hospital that this country's medical education program began and Japanese students first learned about Western medicine.



## 大分大学 医学部・医学部附属病院概要

OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE AND  
OITA UNIVERSITY HOSPITAL GENERAL PROSPECTUS

発行 平成28年

Published 2016

編集 大分大学医学・病院事務部総務課

Edited by Department of Medical and Hospital Administration General Affairs Division

<http://www.med.oita-u.ac.jp>